社会福祉法人 雲柱社

2010（平成 22）年度事業報告

社会福祉法人 雲柱社　2010(平成22)年度 事業報告

社会福祉法人 雲柱社　事業基本理念　(1999年12月24日)

（１）私たちは、賀川豊彦の思想と実践（キリスト精神）を継承し、神と人とに仕える仕事をします。
（２）私たちは、一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
（３）私たちは、常に利用者の立場に立って、そのニーズに応え、サービスの向上に努めます。
（４）私たちは、地域社会の福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。

保育ブロック事業目標

(1)　私たちは、子どもたちが神を敬い、人を愛するように成長することを願って保育をします。
(2)　私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、それを受けいれ伸ばしていく保育をします。
(3)　私たちは、子どもたちの自ら育つ力を信じ、意欲を育て支える保育をします。
(4)　私たちは、子どもたちが心身共に健やかに育つために、保護者の子育てを支援します。
(5)　私たちは、地域に開かれた保育園を目指します。
(6)　私たちは、保育の質の向上を常に心がけ、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

グループかがわブロック事業目標

(1)　私たちは、障碍児・者一人ひとりが神に愛され、生かされているという事実に立って事業を行います
(2)　私たちは、障碍児・者一人ひとりの人格と個性を尊重し、その成長と生活を支援します。
(3)　私たちは、障碍児・者の家族が抱える課題を深く受けとめ、その解決に向けて努力します。
(4)　私たちは、地域社会の障害者福祉のニーズを掘り起こし、積極的にこれに取り組み、共に生きることを目指す、地域のセンターとしての役割を果たすことに努めます。
(5)　私たちは、障碍児・者一人ひとりのハンディキャップを理解し、かれらに最適なケアを提供するために、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

児童館ブロック事業目標

(1)　私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。
(2)　私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。
(3)　私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。
(4)　私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。
(5)　私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。

学童クラブ事業目標

私たちは、所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業にとり組みます。

(1)　私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
(2)　私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
(3)　私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。
(4)　私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。
(5)　私たちは、自由と規律を大切にする学童クラブを目指します。
(6)　私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
(7)　私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。

子ども家庭支援センター事業目標

(1)　私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実に立って、事業を行います。
(2)　私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つまちや社会をつくることを目ざします。
(3)　私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう、日々努力します。
(4)　私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向かえるよう、専門性に基づき対応します。
(5)　私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズに合わせて、必要な支援を行うことに努めます。

雲柱社憲章

賀川豊彦は、一九〇九年十二月二十四日、社会の最底辺で苦労している人々の重荷を担い、共に生きるために、そこに移り住み、生活を共にしました。そして、この活動を起点として、人間性の回復と社会正義を実現するために生涯のすべてを捧げました。
私たちは、賀川豊彦献身一〇〇年を覚え、雲柱社創立七〇周年を記念して、新たな思いをもって事業にとり組む決意を表明するために、「雲柱社憲章」をここに定めます。

一、私たちは、キリストの贖罪愛に生かされて、隣人愛の実践に生涯を捧げた賀川豊彦の精神と働きを継承します。

一、私たちは、神によって、一人ひとりに与えられた命と人格を畏敬し、その成長を支援するために力を尽くします。

一、私たちは、地域の福祉と教育の課題に積極的にとり組み、人々の幸せを実現するために努力します。

一、私たちは、世界平和を希求し、平和を実現するための取り組みを続けます。

二〇〇八年一一月二一日

財団法人　雲柱社
学校法人　雲柱社
社会福祉法人　雲柱社

社会福祉法人雲柱社　2010（平成22）年度事業報告

Ⅰ：社会福祉施設の設置・経営、及び収益事業の設置・経営

法人の設立の原点に立ち帰り，「キリスト精神」にたつ事業展開を行った。具体的には聖書に示されたイエス・キリストの教えと行いに倣い、それに倣って生きた創立者賀川豊彦の思想と実践を継承する事業展開を行った。（事業は以下の通り）

社会福祉事業（第一・二種）

種別		名称	個所
第二種	保育所	愛の園保育園・五日市保育園・押上保育園・烏山保育園・神愛保育園・祖師谷保育園・高根学園保育所・ともしび保育園・光の園保育学校・黎明保育園　※＿＿は分園併設	10
	児童厚生施設	さくら橋コミュニティセンター・墨田児童会館・文花児童館・外手児童館（墨田区）、汐入ふれあい館（荒川区）、和泉児童館・岩戸児童センター（子ども家庭支援センター事業併設・狛江市）、上池台児童館（大田区）、たまだいら児童館ふれっしゅ（日野市）、亀戸児童館・平野児童館（江東区）、目黒区立中央町児童館（目黒区） ※＿＿は学童クラブ分室併設館	12
	放課後児童健全育成事業	れいめい堀切学童保育クラブ・れいめい宝学童保育クラブ（葛飾区）、七峡小学童クラブ・汐入小学童クラブ（荒川区）、深川学童クラブ・大島四丁目学童クラブ・大島八丁目学童クラブ（江東区）、練馬区立高松小学童クラブ（仮）（練馬区）	8
	知的障害者共同生活援助事業・共同生活介護事業 （ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ・ｹｱﾎｰﾑ）	かがわの家 シリウス・ベガ・ミラ・カペラ・ジュピター	5
	障害福祉サービス事業 （就労継続支援B型・生活介護・短期入所）	小金井生活実習所	1
	障害福祉サービス事業 ◇　居宅介護 ◇　行動援護 ◇　移動支援事業 （地域生活支援事業）	かがわサポートセンター・ウイングス	1
	家庭的保育事業（保育所実施型）	祖師谷保育園、同分園	4
第一種	知的障害児通園施設	賀川学園	1
	知的障害者授産施設	かがわ工房、ワークスタジオかがわ	2

※□は2010年度開始

社会福祉事業（公益事業）

地域デイグループ事業	さくらの木（知的障碍学齢児　個別・ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習）	1
心身障害者授産事業	小金井市福祉共同作業所（障碍者・高齢者共同　小金井市）	1
ファミリー・サポート・センター事業	狛江市全域（和泉児童館内）、小金井市全域（小金井市子ども家庭支援ｾﾝﾀｰ内）、小平市（小平市子ども家庭支援ｾﾝﾀｰ内）	3
子ども家庭支援センター事業	江東区東陽子ども家庭支援ｾﾝﾀｰ・江東区大島子ども家庭支援ｾﾝﾀｰ・江東区深川北子ども家庭支援ｾﾝﾀｰ、江東区南砂子ども家庭支援ｾﾝﾀｰ（江東区）、練馬区立光が丘子ども家庭支援ｾﾝﾀｰ・練馬区立大泉子ども家庭支援センター（練馬区）、狛江市子ども家庭支援ｾﾝﾀｰ（狛江市）、小金井市子ども家庭支援ｾﾝﾀｰ（小金井市）、小平市子ども家庭支援ｾﾝﾀｰ（小平市）	9
放課後子どもプラン事業	汐入東小にこにこすくーる（荒川区）、土曜江東きっずクラブ（江東区）	2

収益事業

店舗賃貸ビル	和光プラザ	1
共同賃貸住宅	友愛コーポ	1

Ⅱ：法人の第一次中期計画の検証と今後（第二次中期計画）への対応

（1）第一次中期（2001～2010年）計画についての総括
※第1号議案資料参照

（2）第二次中期（2011～2020年）計画の策定
　次世代管理職プロジェクトにおいて、①「研修」②「企画政策」③「人材育成」④「法人本部機構改革」の四つのグループに別れ、第二次中期計画（案）策定が取り組まれた。
　また、プロジェクトの研修立案グループにより提案された法人研修が実施された。
※別紙「第二次中期計画」参照
※2010年度事業報告別紙参照

（3）専門委員会の設置と活動内容
　「働き方検討委員会」では、職場環境の改善を進めていくことを目的として、職場ごとの衛生推進者や衛生管理者の選出、地区ごとの産業医の選任について検討した。当初委員会で予定されていたモラルサーベイ実施結果の検討は、コンサルタント主導で保育ブロックのみ行われた。
「ＩＴ委員会」と「給与制度検討委員会」は今年度開催されなかった。

（4）施設改築プロジェクトの設置と計画の推進
①小金井地区マスタープラン委員会－愛の園保育園、賀川学園、かがわ工房の施設を中心に、小金井地区に総合福祉センター（仮称）を建設するため、プロジェクトチームで検討を継続した。
②神愛保育園改築プロジェクトチームの立ち上げと、③光の園保育学校（本所賀川記念館）改築のための話し合い（東駒形教会、雲柱社、本所賀川記念館）の場の設定について、今年度は見送られた。

Ⅲ：職員の生活と雇用の安定を基盤とした法人経営

1：正規職員を中心とした職員集団の形成と事業展開

総事業費のなかで人件費の占める割合をいかに考えるかは、社会福祉事業の経営においては最重点課題である。実際、法人の総事業費のなかで人件費の占める割合は年々高くなることが見込まれている。また、一方では働く人たちの条件や環境の改善も急務となってきている。

職員配置の2010年度実績（2011年3月）
１０２８人（内常勤職員５８８人/非常勤職員４４０人）：　常勤比率57.19％
※参考に2009年度実績（2010年3月）は以下の通り
９１５人　（内常勤職員４７５人/非常勤職員４４０人）：常勤比率51.91％

財政状況が不安定の度を増しつつある現在、正規職員を中心とした職員集団の形成と事業展開を維持していくことには多くの困難が予想されるが、今後も法人としては、サービスの質を向上させていくために、職員の雇用と生活の安定が最重要と考えて、法人のスケールメリットを活かしながら、これに取り組んでいきたい。

2：多様な雇用形態と働き方の導入
常勤職員を、①正規職員②嘱託職員③臨時職員
非常勤職員を、①嘱託職員②臨時職員③短時間パート職員に整理した。

なお、常勤の嘱託職員が正規職員に移行する手続きにおいて現状で問題が生じているため、「同一労働同一賃金」の原則等をもとにして、改善を行っていく。

3：職場環境の改善への取り組み

働き方検討委員会を中心に、各施設においても職場環境の見直しを行い、ワークライフバランスの実現に取り組んだ。
①モラルサーベイ実施とその後の検討（今年度は保育ブロックのみ）
②職場ごとの衛生推進者や衛生管理者の選出、地区ごとの産業医（今年度は墨田区のみ）の選任

4：諸規定の整備と職員への適応

事業所の急激な増加や社会の大きな変化を受け過年度より滞っていた「定款変更」の手続きが、今年度ようやく完了した。本部事務局の強化（具体的には担当職員の配置）によるものであるが、定款は法人の根幹をなすものなので、今後の変更は迅速・適切に行う。なお、２年後の社会福祉の世界に大きな変化が予想される。法人としては、これらの変化を正確に把握し、定款のみならず諸規定の改定を速やかに対処していく。

ほかに、「監事の監査規程」及び「内部統制監査規程」の作成、労基法の改定（年次有給休暇の時間単位取得について）による就業規則の変更などがあり、職員に対して周知徹底を行った。

5：職員の健康管理・メンタルヘルス・福利厚生など

以下の６項目が示されていたが、次年度に引き続き検討となる。
（なお、現状では②については一部地域で果たされ、⑤は法人内で徹底している。）
①職員のメンタルヘルスへの取り組み
②産業医の導入
③職場復帰プログラムの策定
④職場における人間関係の改善
⑤定期健康診断の実施

⑥福利厚生に関しては公的な援助を十分に活かしながら、法人としてより良い対応も考えていく。
Ⅳ：指定管理事業プロポーザルへの取り組み
　新たにプロポーザルに応募し、選定を受け、以下の事業所については2011年度以降も事業の継続を果たした。（3～5年の期間）
（荒川区）
①汐入ふれあい館
（墨田区）
②さくら橋コミュニティセンター
③墨田児童会館
④文花児童館
⑤外手児童館
（江東区）
⑥東陽子ども家庭支援センター
⑦大島子ども家庭支援センター
⑧深川北子ども家庭支援センター
⑨南砂子ども家庭支援センター
⑩平野児童館
（狛江市）
⑪岩戸児童センター（狛江市子ども家庭支援センター）
⑫和泉児童館
※なお、江東区と狛江市からは指定管理制度の再指定を受けた

Ⅴ：本部事務局の強化と施設経営への参与

事業が広がってきている現在、法人事務局の体制の強化は重要な課題となってきている。

① 法人のコンプライアンスの確立のための諸規程等の整備、IT機器の充実、書類のデジタル化事務局職員の施設経営への参与
文書管理室の立ち上げにより、行政・業者との契約書等書類のデジタル化を進めている。しかし、法人として、どの情報（書類）をどの形で、いつまで（期限）保管するか方針（ルール化）が必要である。なお、情報の電子データ化にともない、情報保持の知識は必須であり、IT担当の事務局員については、情報セキュリティ研修を受講し、システムの構築を目指す。

② 情報の公開、個人情報の管理、苦情対応、社会の変化に対応した諸規程の改訂の準備、人事、労務管理等々への対応
VPN導入にともない、法人内の情報交換ツールの整理を進めている。また、監事監査での指摘を受けて、事実に基づく客観的なデータを正確に保存するため、タイムレコーダーやその他管理・記録の電子データ化のシステム導入に向けて、役員会等からの指示を受けて検討材料を提供した。労働基準法等、法規の改正による改訂は行ったが、それ以外の部分（法人としての意思決定による）諸規程の整備は進んでいない。

③ 本部職員の専門性、スキルの向上
2013年度に導入される「新会計基準」を始め、子ども・子育て新システム、障害者の総合福祉法等へ法人の職員としてはもちろん、事務局員として求められるものを確認しながら、法人内部及び外部研修を受講。合わせて、税法や労働基準法・育児休業法の改正等への知識を深め、役員会や各種委員会への情報提供も行っている。

④ 本部事務局と施設との有機的な協働関係の強化

本部（執行部）と各施設長との役割（責任の範囲）を明確にすることで、事業所と本部事務局の役割の整理も進んだ。

2010年度10月に、事務局職員を増員し（常勤11人→12人、非常勤3名→11人　計７名増）21名の体制とした。また、2010年度10月に事務局組織を、総務部門（和光文書管理室併設）、経理部門、給与部門とに再編成し事務局内での業務分担を整理し、効率化を図った。

施設との有機的な協働関係の強化の一環として、監事監査と同時に事務局長主導による内部統制監査も2010年度２か所の事業所（詳細は別添資料参照）で実施した。事業所で実際に行っている事務管理等の実態を把握し、不具合があれば具体的な改善方法をお互いに考えるよいきっかけとなった。

Ⅵ：必要とされる新しい事業へのチャレンジ

2010年度新しく開始された事業は以下の通り。

練馬区：大泉子ども家庭支援センター
　　高松小学童クラブ
目黒区：中央町児童館
荒川区：汐入東小にこにこすくーる
江東区：土曜江東きっずクラブ（亀戸児童館内）
世田谷区：家庭的保育事業（拠点園は祖師谷保育園）

なお、2012年度より(受託)開始予定の「光が丘第六保育園（練馬区）」の立上準備室を本部に設置した。

社会福祉法人雲柱社　第二次（2011～2020 年度）中期計画

Ⅰ：第二次中期計画の目的と方向性

この１０年間、日本では、急速な少子高齢化の進行、深刻な不況、貧困や格差の拡大、さらに社会福祉基礎構造改革の名による医療や福祉、社会保障制度の後退など、くらしや経済に対する不安が増大してきました。

そして、これらの諸問題は雲柱社が取り組む各事業にも様々な形で問題を投げかけることになりました。

ところで，雲柱社は事業基本理念の下、2001 年度から、10 年間「第一次中期計画」を策定し事業を進めてきました。具体的には、保育ブロック、児童館ブロック、支援センターブロック、障がい児・者ブロック体制を構築し、四つのブロックが力を合わせ利用者や社会のニーズに応えて事業を広げてきました。

また、対象とする地域も利用者の範囲や人数も大きく広がり、それを担う職員数も 1,000 人を超える事になりました。

その結果、法人としては次のような課題が明確になってきました。

（１）利用者に対して、より質の高いサービスを提供すること。

（２）職員の職種や勤務形態が多様化する中で、働きやすく魅力ある職場づくりをすすめること。

この課題を実現していくために、今後は、人材育成や福利厚生等の充実や、法人の組織や本部事務局体制の強化が求められることになりました。と同時に、一人ひとりの職員が創造性と意欲を発揮して、よりいっそう社会福祉を進める主体としての成長が求められることになってきました。

雲柱社は、このような課題を踏まえて，２０１１年度から，向こう１０年間を視野に入れた第二次中期計画を次のように策定し、それらを実施する中で社会福祉法人としての社会的使命を果たしていきたいと考えています。

Ⅱ：第二次中期計画の内容

１．賀川豊彦の思想と実践の継承

賀川豊彦は困難な時代の中にあって、最も貧しく厳しい生活を余儀なくされていた人々の中に入り、セツルメント事業や労働運動、農民運動、生協運動、共済事業などを展開し、人々のくらしと生活を支える事業や制度の礎を築いてきました。

また、賀川豊彦は平和主義者として、日本がアジア諸国への侵略を進め、太平洋戦争の戦火を開いていく渦中においても、反戦平和への闘いを続けました。その意志は敗戦後も変わることなく、世界平和を実現するために国際的な活動を展開しました。

このような広い視野に立って、隣人愛の実践と平和の実現を目指して、多くの課題に取り組んでいった賀川豊彦の思想と実践を引継ぎ、今に生かしていくために、以下の課題に取り組んでいきます。

（１）実践や研修を通して、賀川のキリスト精神の理解と継承に努めます。

（２）賀川豊彦のキリスト教社会福祉事業の思想と実践を検証し、その現代的な展開に努めます。
（３）賀川が目指した国際的な視野に立って、多文化理解に努め、多様な福祉ニーズに応える実践に取り組んでいきます。
（４）誰もが安心して暮らせる社会を実現するために、環境を守り、平和を実現するための取り組みを進めます。
（５）これらの課題をより深く理解し、実践していくための研修に備えて、ブックレットの作成に取り組みます。

２．地域別ネットワークの構築と新たな事業展開

地域福祉が主流となっていくなかで、複雑、かつ多様な福祉ニーズが見いだされるようになってきました。そのため、従来の事業種別のブロック体制だけでは十分なサービスの提供が困難である事が明らかになってきました。このような変化に対応していくために、新しい事業体制の構築や事業の展開が求められています。この課題に応えていくために、次のような取り組みを行っていきます。

（１）取り組むべき社会福祉対象領域の見直しと事業展開
①制度の変化や新しいニーズを的確に捉えられるよう、関係団体や行政の取り組みにも積極的に参加し、法人の事業に活かしていきます。
②事業所内での仕事にとどまらず、障がい児・者に対する移動支援や居宅介護、要保護児童へ対応、出張ひろばや家庭的保育事業など、地域に出て行って支援を行う事業を積極的に展開していきます。
③貧困や虐待など、子どもたちを取り巻く問題の深刻化、障がいをもつ利用者の高齢化など、新たな福祉ニーズについても取り組みをすすめていきます。
（２）地域におけるネットワークの構築とサービスの充実
①各事業所を地域福祉の拠点として位置づけ、地域に根ざした事業展開に積極的に取り組んでいきます。
②一定の地域における法人事業所間の地域ネットワークを構築し、地域の福祉ニーズを掘り起こし、協力してその福祉ニーズに取り組みます。
③地域福祉の向上のために、各事業所が培ってきた専門的な知識やスキルを活かし、行政、他団体、地域住民との連携、協働に努めていきます。

３．雲柱社の職員として、また対人援助者としての資質の向上

対人援助サービスの質を決めるのは、第一線に立つ職員一人ひとりの人間性や価値観、技能にあります。研修内容をいっそう充実させ人材育成に力を尽くします。

（１）ＯＪＴを中心に各事業所における人材育成を進めます。
（２）経験別、階層別研修、管理職育成研修などを計画的に実施します。
（３）地域別異業種間研修に取り組みます。

４．働きやすく、魅力ある職場環境の整備

職員が心身ともに健康で、意欲を持って長く働き続けられるように、職場環境を整備します。

（１）円滑な事業を展開していくために、人材バンクを設置し人材確保に努めます。
（２）必要な人材が確保できるよう、適切な採用計画を立て実施します。
（３）働きがいのある職場環境づくりをすすめ、職員の定着化を図ります。
（４）職員の健康管理、福利厚生の充実に取り組みます。

５．社会の変化と多様なニーズに対応できる法人組織の再構築

急激な社会の変化は、人々の生活を支えるための多様なニーズを生み出していきます。それらに適切に対応し、利用者の信頼を得ていくためには、現場を支える法人組織の強化が不可欠な条件と成ります。そのために次のような取り組みを行っていきます。
（１）本部役員会を定期的に開催し、現場の事業をサポートしていきます。
（２）本部事務局体制を強化し、適切な現場への支援を行います。
（３）経理部門（会計・給与等）の強化、総務部門のシステム化、人事部門の設置などを計画的に進め、事業の拡大や状況の変化にも機敏に対応できる本部事務局の構築を図ります。
（４）次の専門委員会を設置し、本部機能の充実を図ります。

①人材組織委員会

職員の募集、採用試験の実施、職員配置等の提案。職員の労働条件や健康管理、福利厚生、人材バンク等、一人ひとりの職員が健康でやりがいを持って働ける職場環境の整備を図ります。

②研修委員会

一人ひとりの職員が、職業人として、また、法人職員として成長できるよう、法人研修計画の作成と実施、また、研修テキストの作成などに取り組みます。

③ＩＴ広報委員会

法人や各事業所のＩＴ環境の整備。ホームページの更新。法人広報誌の定期発行など、法人の広報活動全般に対応します。

④企画委員会

社会の変化に伴う事業ニーズについての正確な現状認識に基づき、新しい事業の取り組み、将来の事業展望についての企画、検討を行います。また、施設の改築・建設等についての計画・実施にも当たります。

⑤政策委員会

各部門、各地域・行政等の情報収集や各種制度について検証・分析を行い、法人の事業戦略を構築します。また、環境、平和問題や諸外国の福祉制度についての研究などを進め、法人の方向性や事業展開の見通し等を示す役割を果たします。

⑥経営委員会（役員会付として別途委員会を編成します。）

法人経営の現状、今後のあり方等を分析、検証し、社会福祉法人として、健全で創造的・発展的な経営を行っていきます。

2010 年 12 月 4 日
社会福祉法人雲柱社
理事長　服部　榮

（原案）次世代育成プロジェクト

2010年度理事会

名称	議案	開催日	出席人数（書面出席）
第一回理事会	第一号議案　2009（平成21）年度事業報告に関する件 第二号議案　2009（平成21）年度監事の監査報告及び決算報告に関する件 第三号議案　2009（平成21）年度資産総額に関する件 第四号議案　監事監査規程に関する件 第五号議案　2010（平成22）年度新規事業に関する件 第六号議案　就業規則改定に関する件 第七号議案　修繕・建替え包括コンサルタントに関する件 第八号議案　新規事業プロポーザルに関する件 第九号議案　評議員補充に関する件	5月15日	7(2)
第一回緊急理事会	第一号議案　社会福祉法人雲柱社における苦情解決制度の再構築について 第二号議案　苦情対応システムにおける第三者委員の選任について 第三号議案　練馬区立光が丘第六保育園プロポーザル参加について	7月13日	7(2)
第二回緊急理事会	第一号議案　西東京市児童館事業業務委託におけるプロポーザル参加について ・ 西東京市立ひばりが丘児童センター	8月3日	8(2)
第三回緊急理事会	第一号議案　小平市立学童クラブ指定管理者募集におけるプロポーザル参加について ・小平市立六小学童クラブ第二　・小平市立学園東小学童クラブ第二	8月17日	8
第二回理事会	第一号議案　2010（平成22）年度資金収支補正予算に関する件 第二号議案　2011（平成23）年度新規事業に関する件 ・平野児童館土曜江東きっずクラブ ・墨田児童会館学童分室 ・練馬区光が丘第六保育園 ・江東きっずクラブ（明治小学校内） ・新宿区東戸山小学校内学童クラブ、新宿区大久保小学校内学童クラブ 第三号議案　管理職人事に関する件 第四号議案　練馬区光が丘第六保育園開設準備室に関する件 第五号議案　高根学園保育所静岡県指導監査改善報告に関する件 第六号議案　第二次中期計画に関する件 第七号議案　障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業の指定申請に関する件	12月4日	9(2)
第四回緊急理事会	第一号議案　管理職人事に関する件	2月8日	7(2)
第三回理事会	第一号議案　2010(平成22)年度資金収支最終補正予算に関する件 第二号議案　管理職人事に関する件 第三号議案　新規事業に関する件 第四号議案　2011(平成23)年度事業計画に関する件 第五号議案　2011(平成23)年度資金収支当初予算に関する件 第六号議案　専門委員会に関する件 第七号議案　評議員改選に関する件 第八号議案　理事長の互選及び常務理事の指名に関する件 第九号議案　五日市保育園内容変更に関する件	3月5日	11

2010年度苦情解決第三者委員

議案	開催日	出席人数（書面出席）
苦情対応における第三者委員の機能について 法人の苦情対応の現状 今後の苦情対応についての助言	10月30日	6

2010年度関係牧師懇談会

議案	開催日	出席人数（書面出席）
1　牧師懇談会について 服部理事長 2　「賀川豊彦の思想と実践 ～教会と社会福祉事業のかかわりを考える～ 加山久夫館長（賀川豊彦記念松沢資料館） 3　懇談	11月22日	7

2010年度行政監査

事業所名	指摘事項の有無(有る場合の内容)	実施日	実施主体
光の園保育学校	文書指摘なし	6月10日	東京都福祉保健局
愛の園保育園	文書指摘なし	10月21日	東京都福祉保健局
賀川学園	・障害児施設給付費の額の通知を適正にすること	9月24日	東京都福祉保健局
ワークスタジオかがわ	文書指摘なし	6月22日	東京都福祉保健局
小金井生活実習所	文書指摘なし	3月4日	東京都福祉保健局
黎明保育園	・職員に対して雇い入れ時の健康診断を適切に実施していない ・避難及び消火訓練を実施していない月がある ・調理・調乳担当者の検便が不適切である	9月14日	東京都福祉保健局
高根学園保育所	・保存食用冷蔵庫の温度が高くマイナス20℃以下になっていないので、設置場所、機器の能力等検討し、マイナス20℃以下とすること。 ・苦情解決のための第三者委員は複数名指名すること。 ・保育室のオルガンは未使用時には固定するなど、防犯対策を行うこと。	7月21日	静岡県健康福祉部福祉こども局

2010年度監事監査及び内部統制監査

事業所名	指摘事項の有無（有る場合の内容）	実施日
小平市子ども家庭支援センター	・法人支援センターとして、事業ブロック共通の運営規程の作成を検討する。 ・正規職員対しての雇用通知書の整備の必要があり、事務局で作業を進めている。 ・労働者名簿の資格欄に不備。法人で人事データの一元化をするため、データの整備が必要となる。 ・出張命令簿など法人の書式を使用すること。 ・どの情報をどこの様式で管理するべきかどうか、再度検討し、書類の整備を行政とも相談しブロックでも検討すること。 ・小平市子ども家庭支援センターの業務終了時間は18時である。職員は18時以降、記録の作成をしなければいけない。このため、常時、超過勤務が予定される勤務となってしまう。職員の負担を減らすために次年度から体制の見直しの検討が必要。	2011.2.4
さくら橋コミュニティセンター	・書類の整備が不十分。このため事務処理が一部不適切となっている。法人様式を使用し再度整理が必要 ・簿外の利用者預かり金(現金)が複数存在する。早急に整理が必要 ・監事より特に、労務管理の記録を客観性を持って正確に行うように指摘があり、タイムレコーダーの導入を検討するよう指導を受けた。	2011.2.10

2010年度評議員会

名称	議案	開催日	出席人数
第一回評議員会	第一号議案　2009（平成21）年度事業報告に関する件 第二号議案　2009（平成21）年度監事の監査報告及び決算報告に関する件 第三号議案　2009（平成21）年度資産総額に関する件 第四号議案　監事監査規程に関する件 第五号議案　2010（平成22）年度新規事業に関する件 第六号議案　就業規則改定に関する件 第七号議案　修繕・建替え包括コンサルタントに関する件 第八号議案　新規事業プロポーザルに関する件	5月15日	13
第二回評議員会	第一号議案　2010（平成22）年度資金収支補正予算に関する件 第二号議案　2011（平成23）年度新規事業に関する件 ・平野児童館土曜江東きっずクラブ ・墨田児童会館学童分室 ・練馬区光が丘第六保育園 ・江東きっずクラブ（明治小学校内） ・新宿区東戸山小学校内学童クラブ、新宿区大久保小学校内学童クラブ 第三号議案　管理職人事に関する件 第四号議案　練馬区光が丘第六保育園開設準備室に関する件 第五号議案　高根学園保育所静岡県指導監査改善報告に関する件 第六号議案　第二次中期計画に関する件 第七号議案　障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業の指定申請に関する件 第八号議案　社会福祉法人雲柱社における苦情解決制度の再構築に関する件 第九号議案　苦情対応システムにおける第三者委員の選任に関する件	12月4日	16
第三回評議員会	第一号議案　2010(平成22)年度資金収支最終補正予算に関する件 第二号議案　管理職人事に関する件 第三号議案　新規事業に関する件 第四号議案　2011(平成23)年度事業計画に関する件 第五号議案　2011(平成23)年度資金収支当初予算に関する件 第六号議案　専門委員会に関する件 第七号議案　評議員改選に関する件 第八号議案　理事長の互選及び常務理事の指名に関する件 第九号議案　五日市保育園内容変更に関する件	3月5日	17

2010年度事業報告別紙
法人主催及び他の団体と協力して開催する集会、研修等

名称	内容	主催	開催日	参加人数
新入職員研修①	礼拝、事業基本理念1・2、賀川豊彦の思想と実践「神戸における事業展開と思想」、雲柱社の歴史、法人諸規程の説明1	法人	4月24日	46
新入職員研修②	礼拝、雲柱社の事業状況、賀川豊彦の思想と実践「本所におけるセツルメント事業」、事業基本理念3、法人諸規定の説明2、	法人	5月13日	47
新入職員研修③	礼拝、事業基本理念4、賀川豊彦の思想と実践「協働組合運動と賀川豊彦」、雲柱社の今後の事業展開「仕えつつ拓く」	法人	6月9日	47
新入職員研修（嘱託職員）①	礼拝、事業基本理念1・2、雲柱社の歴史、賀川豊彦の思想と実践（セツルメント運動の理論と展開、社会運動の理論と展開、平和運動の理論と展開）、法人の諸規定について	法人	8月27日	30
新入職員研修（嘱託職員）②	礼拝、事業基本理念3・4、雲柱社の今後の展開（第二次中期計画を中心に）	法人	8月28日	30
2年目研修①	法人のミッション聖書の学び、法人からの報告、事業基本理念の理解、賀川豊彦研究（子どもの権利）	法人	9月11日	48
2年目研修②	法人のミッション聖書の学び、法人からの報告、事業基本理念の理解、賀川豊彦研究（子どもの権利）	法人	9月24日	31
3年目研修①	あさひ福祉作業所で作業	法人	5月22日	24
3年目研修②	あさひ福祉作業所で作業	法人	10月2日	26
4年目研修	法人のミッション聖書の学び、法人からの報告、法人事業基本理念の検証、賀川豊彦研究（「賀川豊彦のセツルメント運動」―その理論と現代的意義―、コミュニケーション力を磨く	法人	2月5日	38
5年目研修	法人のミッション聖書の学び、法人事業基本理念の検証（「地域福祉への流れと法人事業基本理念の位置づけ」）、法人からの報告、賀川豊彦研究（「賀川豊彦の平和思想」―その目指す世界と現代的意義―）、社会福祉にかかわるものの倫理（法人倫理規程・社会福祉士の倫理綱領を読む）	法人	2月26日	25
中堅研修Ⅰ	法人のミッション聖書の学び、法人からの報告、賀川豊彦研究「賀川豊彦の献身と実践」、社会福祉の状況と法人ミッション～中堅職員課題の視点から～、中堅職員の課題　～ワークショップと話し合い～	法人	11月6日	22
中堅研修Ⅱ	法人のミッション聖書の学び、法人からの報告、 賀川豊彦研究「人間の変革と社会の変革」～テキスト「賀川豊彦」（隅谷三喜男）～、事業基本理念と法人の事業展開 ～第二次中期計画を視野に入れて～、中堅Ⅱ職員の課題とは何か ～中堅職員は何を担うのか～	法人	11月27日	20
中堅研修Ⅲ	法人のミッション聖書の学び、賀川豊彦研究（「キリスト教社会事業」－その現実と課題－（阿部志郎論文））、雲柱社はどこに向かうのか、OJTの担い手として、福祉専門職を目指す為の課題は何か	法人	10月16日	23
家庭的保育研修①	家庭的保育者の認定研修	法人	2月9日	6
家庭的保育研修②	家庭的保育者の認定研修	法人	2月14日	6
家庭的保育研修③	家庭的保育者の認定研修	法人	2月18日	6
全体施設長会	これからの雲柱社－施設長の課題を中心に－、法人のコンプライアンス（監事監査システム、苦情対応システム、雇用形態の整理・方針について、モラルサーベイについて）、事務連絡、各ブロックからの報告	法人	4月19日	35
全体施設長会	1日目：「ビジョン－雲柱社の中期計画」、第二次中期計画、地域ごとのグループディスカッション等、慰労会　　2日目：前日のまとめ、2010年度後期について	法人	10月24日	37
全体施設長会	第二次中期計画の具体的展開にむけて（第二次プロジェクト委員）、法人報告～2010年から2011年度へむけて～、今後の取り組むべき課題	法人	2月21日	37
全体施設長会	法人より状況報告、各事業所より報告、今後の対応について・まとめ	法人	3月17日	25
全体会	2009年度の事業の総括と2010年度の展望、社会福祉の現状と今後の課題、永年勤続表彰、新人職員紹介、異動・退職職員報告	法人	3月27日	347
マイスター研修	共同聖書研究、論文購読、賀川豊彦研究	法人	12月22日	10
パート研修Ⅰ	法人事業基本理念について～キリスト精神に基づいて～、社会福祉の現状と法人の取り組	法人	6月26日	41
パート研修Ⅱ－Ａ	社会福祉法人雲柱社の現状と今後の課題、パート職員の皆さんにになって頂きたいこと、話し合い	法人	10月23日	65
パート研修Ⅱ－Ｂ	キリスト精神について、ホスピタリティー、グループ討議	法人	1月15日	49
墓前礼拝	墓前祈祷会、雲柱社管理職研修	法人	4月17日	37
全私保連研修	基調講演、シンポジウム「新たな制度構築を見据えて	法人	4月26日	9
安全衛生推進予定者連絡会	安全衛生推進者の役割や業務内容	法人	6月29日	41

社会福祉法人　雲柱社　愛の園保育園　２０１０（平成２２）年度　事業報告

記入者（施設長）
小山　正弘

2010 年度をふりかえって
2010 年度は、施設長が代わっての一年であった。
・複雑な家庭環境に取り囲まれている子ども、気になる子どもはますます増えてきている。心理の松田先生からのアドバイス・子ども家庭支援センターとの連携がとても活きている。
・他の園の見学研修を行った。職員がそれぞれに感じたこと、考えたこと、実践してみたいことを出し合い、保育室の中の環境作りに生かすことが出来たものと思う。今後もこのような研修を通して、職員の持てる力が発揮出来、更なる質の向上を進めていけるようにしていきたいと思う。
・一時保育は毎月の受付初日から電話が鳴り続くほどニーズがあった。場所柄、小金井市在住の方より、国分寺市・小平市在住の利用者が多い。今後、待機児解消の為の「定期利用」が入ることで、市外在住の方のニーズに応えられなくなる事がないように注意する必要がある。
・第三者評価の利用者アンケートを受けた。「温かい雰囲気の中で子ども達が大事にされている、また私たち大人の事も受け止めてもらい、安心している」とおおむね温かい評価をいただいた。一方、「苦情・要望がいいやすいとはいえない」「一部の保育士ではあるが、子どもの名前の呼び捨てや乱暴な話かけがあり気になる」や、「門扉が開け放しになっていることもあり、セキュリティー面で心配である」などの指摘も受けている。保護者の声を真摯に受け止め、特にセキュリティー面については早急に具体的な対応の必要性を感じている。

１　施設運営

（１）実施事業

ア　特別保育等

・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：18 名）
・産休明け保育実施
・延長保育実施（1 時間延長後３０分は自主事業）
・延長保育事業（零歳児の受入れ）
・障碍児保育事業実施（3 名受け入れ）
・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施(１０名)

イ　地域子育て推進

・育児講座　　年 3 回実施
・退所児童との交流　年 3 回実施

・小中高生の育児体験受入れ　年 28 名受入れ
・育児相談　随時実施
・園庭開放　毎日
・プール開放　　とても好評であった。
・保育所体験　年４０回・４０人受入れ実施
・自園型年末保育　　（１０名）
・自主的取組　障碍児との交流保育

（２）児童の処遇

ア　クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
つぼみ	０歳	６名（２名）	１８名		午前フリー、看護師
たんぽぽ	１歳	4 名（１名）	２０名		午前、午後フリー
ちゅうりっぷ	２歳	4 名	２４名	１名	午前フリー
花	３歳	３名（１名）	26 名	2 名	午前フリー
星	４歳	２名	２６名		
月	５歳	２名	25 名		
延長		１名			
一時保育		2 名　(1 名)	10 名定員		(フリー)
他朝、夕、土曜日の保育士		25 名(25 名)			
合計	55 名（30 名）		１３９名	3 名	

イ　月別保育日数

４月	５月	６月	７月	８月	９月	合　計 296　日
24 日	24 日	25 日	26 日	26 日	24 日	
10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	
26 日	23 日	27 日	23 日	23 日	25 日	

ウ　健康管理

健康診断

乳児　　毎　５月

幼児　　年２回（　5　月、11　月）

歯科検診　　年１回（　6　月）

蟯虫卵検査　　年１回（　6　月）

エ　保　　育

各組の保育目標

つき組（５歳児）の年間目標

- 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主、自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
- 異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- 人の話をよく聞き、自分で考え自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- 自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標　評価・課題　　困ったことなどを友達に伝えたり、相手の話を聞いたり出来るようになれたら・・・と願ってきた。帰りの会や話し合い等話す経験を積めるように、保育者は言葉を拾って認めることを意識してきた。遊びでも自信のある遊びを探して一人一人が自信を重ねられるようにと思い保育をすすめてきた。運動会やクリスマスでの大勢の前で頑張った経験は大きく、一人一人が自信を付けてきたことで少しずつ帰りの会での「話したいこと」に発言する子どもも増えてきた。トラブルがあっても子ども同士で解決していく姿も多くなってきた。室内活動については、コーナーの作り方や棚の整理によって子ども達がおちついて活動出来るようになったと感じられた。

ほし組（４歳児）の年間目標

- 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- 友だちと遊ぶ事の喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- 意欲的に色々な事に挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- 人の話を聞いたり、自分の経験した事や思っている事を話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- 自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、その事を表現しようとする。

年間目標　評価・課題　　友達にも大人(保育士)にも認められることで子どもの表情はどんどん変わっていった。特に運動会やクリスマス会の聖劇などは、大人にやらされたのではなく、子どもがつくりあげていく感覚で進められるように配慮することが出来た。保育室の環境づくりは、「憩いのコーナー」をつくりたいというところからスタート。何度も棚の配置を換えたり、天蓋や植物、生き物を配置を変える度に子ども達の喜ぶ姿、過ごし方に変化が出てきた。環境の大切さを感じる時となった。子ども達が落ち着いて遊ぶことによって、大人にもゆとりが出て、視野も広くなり、何かあってもすぐに判断して動けるようになった。

はな組（３歳児）の年間目標

- 生活が自立してくる事で自信を持ち、自分のやりたいことが表現できるようになる。
- 外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。

・　食事・排泄・睡眠・衣服の着脱などの生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
・　自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
・　様々な物を見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かにする。

年間目標　評価・課題　　経験を通して自信がもて、生活や遊びのルールが守れる様になってきた。反面、相手に対して厳しく言い、行動に出たりしてのトラブルが多くなって来ている。３歳児特有の姿でもあると思うが、今後も一人一人の様子を見ながら相手の思いに気付いていけるような関わりをしていくことが大切であると感じている。不安定さを抱える子どもが少なくないので、気持ちを受容することを基本としながら、状況に合った関わりをしていった。年上のクラスから影響を受け、積極的にチャレンジし、誰か一人が出来るようになると、それが刺激になって遊びの輪が広がるという姿も見られた。

ちゅうりっぷ組（２歳児）の年間目標

・　たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け入れてもらう事で、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
・　身体を動かす事が楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
・　簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
・　保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
・　大人やまわりの事に興味を持ち、見立て、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標　評価・課題　　生活環境については、子どもの動線を考えて何度も担任間で話しあい、子どもがやりやすいように手順を決めていった。介助する場面も「次は～するよ」と大人が促していたところから、成長とともに、必要以上に手を出さず、「自分でやりたい」「先生がやって」と揺れる気持ちを受け止めながら、自分で行動できるように関わっていった。ちゅうりっぷは緩やかな担当制をとっている。その前提はあるものの、こだわりや『自分で』の気持ちが強くなるこの時期、子どもにとって安心できる大人を選ぶということが理想なのではないかとも考えられる。今後の課題としていきたい。

たんぽぽ組（１歳児）の年間目標

・　一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と、情緒の安定を図る。
・　保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い身体を動かすことを楽しむ。
・　安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などを自分でしようとする気持ちが芽生える。
・　安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
・　身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

年間目標　評価・課題　　代弁、言語化、会話などの対応を大切にして保育をしてきた。保育をしていく中で、子ども達の言葉にならない思いをくみとって相手に伝えていくことの大切さを、(かみつき、ひっかきのトラブルだけでなく遊びの中でも子ども達同士の関わりの関係を作っていく上で)とても大事だと感じられた。少しずつであるが、相手に対して「ごめんね」「わるかったな」という思いや自分をセーブする力もついてきているように感じられた。室内の

保育環境については、今後も更なる充実が課題。担当グループでの活動を大事にしつつ、状況に応じてグループを超えたかかわりが出来るように今後も考えていきたい。

つぼみ組（０歳児）の年間目標

- 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- 安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を変えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- 保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活が出来るようにする。
- 一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- 個人差に応じて離乳を進め、色々な食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- 優しく語りかけたり、発生や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- 聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- 安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを見たり、触ったりする機会を通して、身のまわりのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標　評価・課題　　子どもなりに生活面での見通しが持てて、次に何をするのか理解出来ている。大人と１対１の関係から友達同士への関心も広がってきている。「一緒だね」「うれしいね」など共感して関係を繋げていくような関わりを意識していった。クラス打ち合わせでは DVD を見ながらわらべうたの勉強会をしてきた。みんなで共通したものを学ぶことが出来、意識的に保育に取り入れることが出来てよかったと思う。今後の課題としては、担当制のあり方と協力体制のバランスをどのように考えていくかということだと思う。

つくし組（一時保育）の年間目標

- お家の生活リズムにあわせながら、安心して過ごせるようにする。
- 安心できる環境・人的環境を考え、居心地の事の良い空間を提供していく。
- 思いを受けとめ信頼関係を作り、情緒の安定を図る。

年間目標　評価・課題　　朝９時～１７時までの８時間保育が多くなっている。アレルギー食の子どものチェックを、前日当日の朝にしていたが、チェック漏れもあったため、調理職員とも相談し、アレルギー児表のチェック、名札の色分け、特にキャンセル待ちで入る子どものケースの場合は、更に一層注意する必要があることを実感している。子ども達は定期的に登園して来ている中で、関わる時間は少なくても成長している姿を見ることができた。０歳児であっても子どもなりに流れがわかってきているのか、泣くこともなく入室出来るようになっている。保護者にとっても、つくしに預けて安心という声が良く聞かれるようになってきている。

２０１０年度実施行事

４月　２日　入園式　・　保護者会総会（１７日）
５月　　日　保護者懇談会(随時各クラス)・　個人面談
６月　　日　歯科検診・歯磨き指導・保育参観・学童訪問
　　18 日　救命救急法講習会

19 日　地域食事会
26 日　地域お楽しみ会
28 日　プール開き・地域プール開放
7 月　 3 日　 まきばの会(ケアーの必要な子どもを支える会)
10 日　1 年生の会
16 日　0 歳父親懇談会
17.18 日　5 歳
9 月　10 日　Wercomeday（敬老の集い）
10 月　16 日　運動会
30 日　地域食事講習会
11 月　13 日　秋祭り
15 日　感謝礼拝・感謝訪問・歯科検診
クラス懇談会(随時各クラス)
１２月　18 日　クリスマス会・OB と地域のクリスマス会
1 月　 6 日　餅つき会
2 月　 日　保育参観・懇談会・年間総括
3 月　 日　新入児説明会・お別れ会食
19 日　卒園式
23 日　進級を祝う会
月例行事　誕生会・避難訓練

年間行事　評価・課題　　異動などもあり、形は残っているが意味合いなどあやふやになっている行事もあるという声が時折聞かれる。ひとつひとつの行事のありかた・意味合いをそれぞれ確認しあい、整理し、整えていくこと、マニュアル化しても良いものはマニュアル化していくなどが必要な時期であると感じている。

オ　栄養管理

集団給食施設栄養報告　　年　4　回
栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
給食供給者としての諸管理

栄養管理　評価・課題　　和食を多く取り入れていこうと数年前から取り組んできた。米を食べる機会も増えてきたので、日本の主食でもあるお米がどんな風に育って食べられるようになるのかを知ってほしいと思い「稲づくり」を実施してみた。子ども達が自主的に水やりをしてくれたり、興味の出た時に関わってくれたり、乳児の子どもも興味を示した。また、保護者の方も関心を寄せてくれていたので今後も続けていきたい。見本食は例年夏の期間は衛生面を考えて全く出していなかったが、今年度は毎回写真をとり印刷して見本ケースで展示することで、夏を生かした献立やどんどん形態が変わっていく離乳食を保護者に見てもらう事が出来よかったと思う。

カ　安全管理

非常災害時の避難訓練 毎月 1 回　隔月は夕方
引き渡し訓練の実施（　10 月　２1　日）

安全管理　評価・課題　　非常災害時に職員や子どもが混乱することが少しでも少なくなるように、毎月の避難訓練には力を入れてきた。しかし、実際に３月に東北関東大震災という地震を経験してみて、日常から災害に備えておくことの重要さを改めて感じさせられた。防災ずきん・懐中電灯・非常食の確認をはじめ、余震が未だ続く中、幼児は一年を通じて上履きをはくことを原則とすること、乳児の避難態勢ももう一度見直すなど、避難訓練がますます実際の災害を想定し、意識したものとなるように再確認が必要と感じられた。

（２）職員の処遇

ア　職員構成

園　　長	１名
主任保育士	１名
保　育　士	19 名
調　理　員	３名（栄養士含む）
看　護　師	１名
嘱　託　医	２名（非常勤）
臨時職員、パート職員	30 名

イ　健康管理

健康診断　　年　1　回（ 7～9　月）

細菌検査　　年 12　回

給食、０歳児調乳担当のみ毎月１回

ウ　職員会議

定例会　　毎月 2　回

行事前打合せ会（随時）

期別反省会（年　4　回）

リーダー会　（月１回）

乳児・幼児打ち合わせ会（週１回）

クラス別打ち合わせ会（月１回）

会議　評価・課題　　月２回職員会議を持っている。１回は牧師先生に来ていただいて、聖書の学びをした後、諸問題について話し合い。２回目は、学習会として今年度は主に『保育環境』についての学びをした。その他に幼児ブロック・乳児ブロックのブロック別会議の中で、自分たちの抱えている悩み問題をじっくり話し合う事によってお互いの保育を知り、理解しあう関係ができていった。リーダー会では気になる子のケースを中心に話しをし、乳児・幼児ブロック会は平日のお昼に打合せを持つて話し合ってきた。会議・打ち合わせの内容や進め方については、重複している書類や内容があると感じているので再検討できると良いのではないかという声も職員から出ている。今後の課題と考えている。

エ　研修報告

〇法人内研修

○園内研修

・牧師先生に来ていただいて聖書の学びをしている。

・発達の気にかかる子の巡回指導（月１回）

・他園の見学研修後、気づきを報告し、実践に生かす。ブレーンストーミングを使う。

○法人外研修

・小金井子ども地域ケアー連絡会

・子どもの文化学校研修

・民間保育園協会研修

・東社協保育団体研修　食事研修

研修　評価・課題　　法人内・法人外の保育園を見学し、「感じる」ことを大切にしてきた。愛の園が積み重ねてきたことを大事にしつつ、客観的に見つめ直し整理していくために、とても良い研修であると考えている。それぞれの研修が個人のものとしてだけでなく、よりよく皆に共有されるためにはどのように報告しつたえあっていくことが有効なのかを今後も考えていきたい。

オ　退職・福利厚生

社会福祉・医療機構　退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会　従事者共済会加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ　福利厚生倶楽部加入

２　施設管理

（１）事務関係

ア　会計事務、管理事務

・小口現金出納事務、・実費徴収事務

・労務管理（出勤管理、有給休暇管理　等）

イ　児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

・保育指導計画等の作成

・給食献立表等の作成

・健康診断記録表等の作成

事務関係　評価・課題　　子ども達一人ひとりの成長を考えていく上で指導計画の充実に努力している。 ・アレルギー児がますます増えてきて、食材が広がってきているので大変な面はあるが、医者、看護師、栄養士、保護者と話し合いながら進められ、他の子とあまり違わない物が提供できたのは良かった。子どもの食育を考える上で一人ひとりの食について保育者と調理側が調理委員会などを通し考えながら進めてこられたのはよかった。

（２）設備関係

ア　固定遊具の設備点検

・セキュリティーの門の設置

イ　老朽設備の点検、老朽箇所の更新

・二階給湯器

設備関係　評価・課題　　保護者から声のあった防犯に関して、セキュリティーの門を設置した事で保護者からは喜ばれた。しかし、乳児が散歩に出るとき避難車・散歩車の出入りがあるため、門扉を開き、そのままになってしまいかねない場面もあるなど盲点もある。子どもの飛び出しや不審者の出入りを防止するため、門扉の開け放しがないように、具体的に改善していくことが必要である。

（３）備品関係

ア　備品購入

・

イ　保育用品購入

・

ウ　給食用品購入

・食器補充

エ　固定資産物品購入

備品関係　評価・課題 子どもの生活環境について感じ、意見を出し合い、職員がチャレンジを続けている。それによって子ども達が落ち着いて遊んでいる姿が見られるとの報告も出ている。今後も安心して落ち着いて生活し遊べる環境づくりのために、棚を整えたり、おもちゃを充実させていきたい。

（４）災害対策

ア　避難訓練

毎月１回

イ　防災設備の点検委託

年２回（内、届け出１回）

ウ　非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×３食×（１日～３日）分

災害対策　評価・課題　　月に一回避難訓練を行なう中で、子ども達は火事，地震などが起こったらどうしたらよいかの話を聞き、避難の仕方も上手になってきている。非常食も防災訓練の日に昼食として食べながら、本当に地震が起こっても保育園には食べるものがとってある事を伝えるとともに、在庫のものを新しいものと取り替えるようにしている。

３　地域社会との連携

・地域の子育て中の家庭を対象に母子通園、プール開放、育児講座、お楽しみ会などをおこなった。

地域社会との連携　評価・課題

・園に入所している家庭で気になる家庭の事を近隣にある子ども家庭支援センターと連絡を取りながら、必要な場合には児童相談所、保健所、市の子育て支援課などと定期的に話し合いを持ってきた。

・地域に向けてのお楽しみ会、プール開放などはとても喜ばれている。また育児不安があり、週一回母子通園で来られていた家族も保育者の子どもとの関わり、ほかの子どもたちの姿を見たり、悩みを相談したりして安心しているようだ。

・一時保育の利用者も多いが、新年度は市内の方のみの「定期利用」という枠組みが入る。本来の「一時保育」を必要とする子育て家庭のニーズについても忘れないようにしていかなくてはと思う。

社会福祉法人　雲柱社　五日市保育園　2010（平成22）年度　事業報告

記入者　中部　壽美子

2010年度をふりかえって

○ 今年度４月より園長が交替した。また、保育主任が新しく同園の保育士の中から就任。園長を含め２名が同法人の保育園へ転勤となり、新しい体制で始まった。

○ 前園長から引継ぎ、内容変更を行って乳児の保育の充実を目指して保育を行った。実際動いてみると其々クラスごとの部屋が離れており、使い勝手が悪く子どもも大人も無駄な動きが多かった。また、それについて職員との話し合いや準備などが不十分なことが判明したので10月から年齢別に戻した。担任の中には、子どもの最善の利益を考える視点から続けてみたかったという声もあったが、結果的には年齢別のクラスに戻し落ち着いて保育が出来るようになった。
部屋の使い勝手から１,２歳児のトイレを年齢に合うように改修を行った。

○ 「かけはし」という五日市保育園独自の学童クラブ「低学年齢児の受入れ」を行ったが、今年度で中止となった。実際行ってみて場所と人手がなく安全の面からも無理があったこと、予算が取れず経営的にも難しかったこと。市から「市の学童クラブ」の定員割れを起こしたとの報告もあり、市と対立するという問題を抱えることになり、法人と相談し、とりあえず中止とした。しかし、保護者からかなり不満の声が出て「学童があるため五日市保育園に応募したのに」等、その理由でキャンセルされてしまったこともあった。

○ 昨年から続いて、「気になる子」が５人いるため、見学研修や園内研修で取り上げ、講師の影山達子先生を招いて、パートナーと正規職員の合同園内研修を行い、共通理解を深め保育に役立てた。パートナーさんからも勉強になったとの声もあり、次年度も同じ課題を持って続けたい。

○ 以前から課題となっていたが、パートナーの「報連相」が十分になされるように、１ヶ月一回クラスの話し合いの時間を持つようにした。子どもの様子や連絡事項や保育についての細かい話し合いが出来るようになった。

○ ４月は92名スタート。途中入園のニーズに応え、年度末３月で９６名となる。（定員97名）

○ ３月11日東北日本大震災があったが、直接被害はなかったものの、地震に対する意識が強くなった。計画停電や行事など慎重に進め、卒園式は予定通り行ったが、お別れ遠足は自粛した。

1　施設運営

（1）実施事業

ア　特別保育等

・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：６名）
・産休明け保育実施
・延長保育実施（1時間延長）
・延長保育事業（零歳児の受入れ）
・障がい児保育事業実施（その他：５名）
・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ　地域子育て推進

・小中高生の育児体験受入れ　年 27 日受け入れ

・保育所体験　年 10 回実施

・出前保育　年 11 回実施

・年末保育　12/29、30 に実施。

(2) 児童の処遇

ア　クラス編成（3 月現在）

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
つぼみ	0 歳	3 名	10 名		＋パート 1 名（看護師分）
たんぽぽ	1 歳	3 名	15 名		
ちゅうりっぷ	2 歳	2 名	16 名		＋ﾊﾟｰﾄ 1 名
れんげ	3 歳	2 名	1 7 名		
すみれ	4 歳	2 名	17 名	3 名	＋ﾊﾟｰﾄ 1 名
いちょう	5 歳	1 名	21 名	2 名	＋ﾊﾟｰﾄ 1 名
合　　計		11 名	96 名	5 名	

イ　月別保育日数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合　計 295 日
2 5 日	2 3 日	26 日	2 6 日	2 6 日	24 日	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
25 日	24 日	2 4 日	23 日	2 3 日	2 6 日	

ウ　健康管理

健康診断

乳児　　毎　月

幼児　　年 2 回（4 月 2 1 日、10 月 13 日）

歯科検診　　年 1 回（6 月 9 日）

蟯虫卵検査　　年 1 回（5 月 12 日配布。18 日回収）

エ　保　　育

各組の保育目標

いちょう組（5 歳児）の年間目標

①神と人から愛され、自分がかけがいのない存在であることを感じる子ども

②健康で体力のある子ども

③自分で出来ることを自分でする。また、意欲的に物事に取り組む子ども

④友達と遊ぶことを楽しむ子ども
⑤色々な人との関わりの中で相手を思いやりつつ、自己発揮できる子ども
⑥自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じとり、表現する子ども

年間目標　評価・課題

今年度の担任は、年長組としての受け持ちは初めてであったが、発達障碍「気になる子」に対してもよく対応していた。室内環境づくり等のクラス運営では大変なところもあったようだが、よく頑張っていた。卒園の頃には子ども達も落ち着いていた。子ども達は、お泊り保育や運動会、クリスマス会など行事を通して協力し、ひとつのものを作り上げる喜びを経験することが出来た。気になる子についての指導は、教育委員会主催する特別支援など巡回相談を定期的に来てもらい直接相談し、進める事が出来た。

すみれ組（4歳児）の年間目標

①保育士との関わりの中で、自分が大切にされ、安心して自分が出せる子ども
②身近な遊具や用具を使い、体を十分に動かし楽しむ子ども
③自分で出来ることを自分でする
④異年齢児に関心やいたわりを持つ。簡単なルールのある遊びを楽しむ子ども
⑤自然事象、動植物への関心や愛護の心、身近な社会事象などにも興味関心を持つ子ども

年間目標　評価・課題

発達障碍を持った子どもが３人と気になる子どもが多いクラスだった。4月から2歳児で1年間過ごした気になる子を本来の年齢のクラスに戻した。子ども自身が担任によって自分の行動を使い分けていたような場面も見られたり、環境への適応が難しいと思う場面もあったが、その都度必要に応じてしっかりと１対１でかかわり持つようにした。
更に「気になる子」の途中入園希望者もあった。今の状態ではクラスでの受け入れは難しいと思われ断った。周りの子ども達の成長もある中、何故この子だけは特別なのかという子ども達からの声もあり、専門知識を学ぶため、ワークスタジオ賀川に相談したり、園内研修では講師を呼んで学び合った。非常に担任も苦しみ悩むことが多かった。
全体としては、途中クラス担任が変わったが、子どもたちはいつも同じ流れで進められ、落ち着きがあり、自分で遊びを選び、周りに影響されず集中して遊びことが出来るようになって来ている。しっかりとした判断も付いてきたのではないかと感じている。

れんげ組（3歳児）の年間目標

①保育士との関わりの中で、自分が大切にされ、安心して自分が出せる子ども
②散歩や戸外遊びなどで、自ら楽しんで体を動かす子ども
③身の回りのことで、自分で出来ることをしようとする
④ごっこ遊び等友達と仲良く遊びを楽しむ子ども
⑤身近な自然や小動物に興味をもつ子ども

年間目標　評価・課題

2 歳クラスからの積み上げもあり、担任１人とパートナーの協力を得ながら室内の環境づくりについても年度当初から取り組んだ。朝の会などにおいても徐々に落ち着いてきていると感じられた。クラスの子ども達の雰囲気は良い。子ども一人一人に対しての受け入れ方も良くどのように動き援助していくのかわかってきているなとも感じられた。

ちゅうりっぷ組（2 歳児）の年間目標

①自分の要求を大人の援助を受けながら言葉で伝えようとする子ども。
②体を思い切り動かして遊ぶ子ども（走る、はねる、飛び降りる等）
③保育士に声をかけられながら、自分で出来ることをしようとする子ども
④少人数の友達と関わって遊ぶことを楽しむ子ども
⑤身の回りの事物や自然などに興味を持つ子ども

年間目標　評価・課題

全体の中でかみつきの子がいてクラスとしては影響力が大きく、危険のないようにパートナーについてもらい、いろいろな活動を積極的にやりこなすようにしてもらった。途中パートナーの交代があって不安を感じさせることもあったが、そのうちに本児自身会話が多くなって自分の意志が伝えられるようになってくると、徐々に落着きが見られ他児とのかかわりも気にならなくなってきた。全体に１歳の時から自由選択活動をよくするクラスで、活動中は集中してやる姿の子が多かった。また、早くから幼児との交流を持ち後半は違和感なく幼児クラスへの移行が出来た。トイレの工事が遅れ、トイレのサイズが合わず排泄の指導が遅れてしまったが、あまり影響はなくスムーズに出来た。

たんぽぽ組（1 歳児）の年間目標

①保育士に受け止められながら、自分の世界を広げていく子ども
②自由に体を動かして遊んだり、色々な道具を使い一人遊びを楽しむ子ども
③自分でしようとする気持ちを持ちながら、少しずつ基本的な習慣が身についてくる。
④大人からの話かけや絵本を喜び、自分でも片言を話すことを楽しむ子ども
⑤子ども相互のふれあいや、人とのふれあいを経験する。

年間目標　評価・課題

1 歳児は、低月齢の子どもと高月齢の子どもをグループに分け名前を付け、ゆるやかな担当制にした。低月齢の子どもは、成長を見ながら 0 歳児の部屋からスタートするようにした。その考えとしては、安全性を考え歩行・生活の中では特に食事や排泄などを中心にある程度 1 歳児クラスで生活が可能になったら移行するなど「移行の目安」を職員の話し合いで決め実行した。しかし、常に「子どもにとってどうか」という視点に立って考えようとするが、グループでの移動やかかわりに難しいところもあり、職員同士の連係プレーはより一層大切だと感じた。今後の乳児の柔軟な保育体制をどのようにしたらよいのかなど、１歳児クラスは月齢差・個人差が大きいので、職員同士の連係プレーを大切にし、今

後の乳児の柔軟な保育体制をどのようにしたらよいのか課題として考える必要がある。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

①特定の保育士との愛着関係が出来、安心して過ごせる。
②はいはい、伝い歩き等を経ながらしっかりと歩けるようになっていく。
③基本的生活習慣が芽生え、徐々に離乳食が完成していく。
④簡単な言葉を理解したり、言葉を発したり、大人の真似を楽しむ。
⑤身近な人の働きかけや言葉かけを通して、身の回りのものに関心を示す。

年間目標　評価・課題

ゆるやかな担当制をとり一人一人の成長を考えながら、安心して過ごすことができるように愛着関係を大切にし、進めていった。クラス運営は、シフトが複雑でなかなか話し合いの時間が持てない中で、クラスパートナーと担任が共通理解を持つために月1回の打ち合せを行った。年度の途中で園児が増え、それに応じて臨時職員を雇用した。新たに入園した子どもの月齢も低く、それぞれの生活（食事・睡眠等）の保障をすることは難しかった。年度の途中で園児数が変わる乳児クラスの現状を踏まえながらも、特に乳児はのんびりした雰囲気で過ごしてもらいたいので、今後も0歳児クラスの保育を職員全体で考えていく必要があると思った。

2010年度 実施行事

4月	1日	入園式
5月	14日	遠足（幼児は親子遠足）
6月	7日	花の日。老人ホーム訪問。
7月	3日	夏祭り
7月	15・16日	お泊り保育
8月	5日・6日	卒園児キャンプ
9月	17日	祖父母の集い
10月	16日	運動会
10月	21日	2歳クラス親子遠足
11月	5日	遠足（2歳クラス以外）
11月	12日	感謝祭・豚汁大会
12月	18日	クリスマス会
1月	11日	新年挨拶会
1月	15日	6年生同窓会
3月	12日	卒園式

月例行事　誕生会　園開放

年間行事　評価・課題

行事は予定表通り実施することができた。幼児の春の親子遠足は、遠足日和となり、場所は昭和記念公園だったが、他の施設や学校の遠足行事と重なって、非常に人出が多く次年度は場所を考慮した方がよいと思われる。

来年度から地域活動費補助金が中止となるが、行事はつぶすことができないので、予算について考えていかなければならないと思った。

昨年に引き続き、誕生日会とは別に、園児の誕生日当日に誕生日シールを子どもの胸に付け、「おめでとう」と声を掛けることにしたが、子どもたちや保護者の方はとても喜んでくれている。その子にとって独自のとても大切な日と捉えて、今後も大切に考えていけたら良いと思う。

オ　栄養管理

集団給食施設栄養報告　　年４回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理　評価・課題

・乳幼児期における成長・発達を促すエネルギー量、たんぱく質量を考慮し、季節感を取り入れ、栄養素のバランスのとれた献立を作成し、実施することが出来た。

・今後も引き続き、子どもたちに食の大切さを伝えていきたい（畑での野菜づくり・クッキングデー他）。

カ　安全管理

非常災害時の避難訓練（月１回）

引き渡し訓練の実施（9 月１日）

安全管理　評価・課題

毎月の避難訓練や９月１日の引渡し訓練は予定通り行うことが出来たが、3 月 11 日に東北地方に大地震があり、災害・避難などの意識が高かまったと感じた。特に日ごろの避難訓練は実際の災害で大人や子ども達はあわてることなく落ち着いて行動できたと感じているし、今後も更にもっと注意を向けて行いたいと思う。

(2) 職員の処遇

ア　職員構成

園　　長	１名
主任保育士	１名
看　護　師	１名（主任兼任）
保　育　士	10 名
産休・育休職員	１名

調　理　員　　3名（栄養士含む）
嘱　託　医　　1名（非常勤）
臨時職員、パート職員　　32名

イ　健康管理

健康診断　　年1回（10月23日）
細菌検査　　年12回（全員）

ウ　職員会議

定例職員会　　毎月1回
事前リーダー打ち合わせ会
乳児カリキュラム会議・乳児クラス打ち合わせ　毎月各1回
幼児カリキュラム会議・幼児クラス打ち合わせ　毎月各1回
反省会（2月10日）
非常勤職員研修

会議　評価・課題

かけはしが行われている時間帯は殆ど打ち合わせが十分出来なかったが、昨年同様事前にリーダーと議題を確認してから始めているので、各打ち合わせがスムーズに行われるようになってきている。内容にもよるが、役割を分担し、職員主導でどんどん進めていくことが出来るように整えていきたいと考えている。

エ　研修

・園内研修　毎月1回
・法人内研修（階層別研修・職種別研修・他職場体験研修等）
・他保育園見学研修
・その他研修

研修　評価・課題

非常勤職員が多く在籍しており、職員会議に出ていない職員には決定事項が伝わりにくいことが課題とされていたが、今年度から各クラスパートナーも入れて月1回打ち合わせを行い、クラス毎に職員会議の内容その他を伝えたり、又非常勤職員からも考えや気づきなど話し合いを行った。非常勤職員からは細かい点など担任と話し合うことが出来てよかったという声が多かった。また、今年度は、「気になる子」シリーズで正規職員や常勤職員非常勤職員研修の園内研修を合同で行うことができた。講師から現場に直結する問題点を一緒に共通して聞くことが出来た。非常勤職員はその勤務時間の関係からあまり会わない職員もいるので、これを機会に関係が密になり、良かったのではないかと感じている。利用者のニーズが増えている今日、保育をしていく仲間として非常勤

職員の働きの意味はとても大きい。非常勤職員の声をより一層聞き取り、今後に生かしていくことが大事だと考えている。特にクラスづきの非常勤職員については、担任と共に書類などの共通意識を持って、保育をしていくことが重要になってくる、と同時にその必要性が出てきていると感じる。

正規職員の園内研修について。今年度は影山達子先生をお招きして、「気になる子」についてお話をしていただいた。近年、特に発達障碍の子の入園が多くなってきている。その為、クラスへの影響が大きく、かといって受け入れないことも出来ず、日々、担任のそうした子ども達との葛藤の中でどのように接し、かかわっていくか、また周りの子ども達にどのように伝え、その子どもたちが「気になる子」たちをどのように見て育っていくか、かかわっていくか等に不安を感じ、担任としての悩みになっている。そうしたことから園として職員が同じように共通の意識を持って聴くために、現場で起こるさまざまな出来事を具体的な質問して話を聞き、答えてもらったり、専門的に発達障碍児の特徴などさまざまな観点から話を聴くことができた。職員間の協力関係を一層必要と考えれる手がかりとして更に今後も続けて学びの機会を持とうと考えている。

オ　退職・福利厚生

社会福祉・医療機構　退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会　従事者共済会加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ　福利厚生倶楽部加入

2　施設管理

(1) 事務関係

ア　会計事務、管理事務

・小口現金出納事務、・実費徴収事務

・労務管理（出勤管理、有給休暇管理　等）

イ　児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

・保育指導計画等の作成

・給食献立表等の作成

・健康診断記録表等の作成

事務関係　評価・課題

会計事務においてはまだ様子が理解できないこともあるが、前園長の整理してあるファイルに沿って整理したりわからないことは事務局で聞いたりなどして行っている、業務もまだまだ慣れていない。パソコン等の導入で更なる業務の効率化を目指したい。

(2) 設備関係

ア　固定遊具の設備点検

イ　老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係　評価・課題

特に２階の保育室の床で悪くなってきている箇所がいくつか出てきている。また、もともと幼児クラス様につくられた部屋をここ数年２歳児クラス（朝・夕は合同保育や延長保育室）として使用しているが、トイレ設備１,２歳のトイレを年齢に合わせたサイズに変えるため１２月に工事した。今年度は建物３年目検査があって、避難滑り台について、まだ滑り台としては機能を有しているが、劣化が進んできているなど指摘された。建物が非常に古くなってきており、天井、床板、壁の内側がはがれてきているなど不安を感じる。早い時点で耐震調査等の点検をしてもらい、今後どのように考えていくのか計画をたてていきたい。

(3) 備品関係

ア　備品購入

イ　保育用品購入

ウ　給食用品購入

エ　固定資産物品購入

備品関係　評価・課題

子どもがその興味・関心に応じて遊び、また生活の場面においても各々の空間が保障されるように、コーナー的な室内のつくりを必要とする。少しずつではあるがおもちゃの棚・ままごとセット・しきり等を購入し、全体的には充実してきているがまだ中途半端で今年度はおもちゃなど十分それ得ることが出来なかった。更に今後も家庭的で落ち着けるような雰囲気の環境づくりを目指し、少しずつ整えていく。また、絵本が古くなり整理し使えないものは処分した分、これから徐々に揃えていきたい。

昨年度同様「がた」や「きしみ」のあるイスなども出てきているので、よく点検し、必要な物を修繕したり購入していく予定である。

園庭の環境づくりはまさにこれからと考えられるので、必要な備品等についても考えていきたい。

(4) 災害対策

ア　避難訓練

毎月１回

イ　防災設備の点検委託

年２回（4/13、3/26 の２回）

ウ　非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3 食×（1 日～3 日）分

災害対策　評価・課題

避難訓練はほぼ予定通りに行われ、非常食糧の備蓄も出来ている。ただ、より現実的に災害を想定して訓練を行う為には、土曜日・朝夕・延長保育時間等、職員の人数が少なくなっている時間帯・曜日での避難訓練をしていく必要があると感じられた。

３月１１日東日本を襲った大震災の時は、日ごろの避難訓練が非常に生かされ、当日はあわてる事もなく、落ち着いた様子であった。群発性地震についても、あわてることなく特に変わった様子もなかった。

3　地域社会との連携

地域社会との連携　評価・課題

近隣の老人ホームや障碍者施設とは行事等を通して交流を続けている。特に障がい者施設は近いこともあり、散歩のときにお互い立ち寄るなど無理なく継続した交流が出来ている。小中高生の職場体験等も可能な限り受入れ、様々な人との交流が出来るようにしている。初めは慣れない子どももいるが、ほとんどの子どもは喜んで関わりをもっている。

育児困難家庭について、地域の民生委員と連絡を蜜に取りながら連携を大切にしている。

園庭開放は月に１日程度実施しているが、特に決められた日以外でも来ていただけるように案内している。園開放で来園された方は、誰でも給食の試食が出来るようにした。また、園開放で希望者があれば、身体測定なども行うようにした。２歳児の秋のバス遠足では、希望者５組を募って一緒にバス遠足に同行した。クリスマス会のプレゼントを作成するときは、園開放の方達にも陶芸を一緒にすることが出来るような企画も考え好評だった。今年度は来園者も多くわざわざ電話で問い合わせてくることが多かった。更に積極的に五日市保育園と地域の子育て支援として繋がりを持ち積極に働きかけていきたいと考えている。

4　その他（特記）

（1）卒園児キャンプ…8/5・6 日。青少年旅行村。30 名が参加。

（2）6 年生同窓会…1/16 日。保育園内で実施。

（3）つくし講座（親講座）…1/15。親子参加型のリトミック体験講座。

社会福祉法人　雲柱社　神愛保育園　２０１０（平成 22）年度　事業報告

記入者　伊藤　美代子

2010 年度をふりかえって

○　主任が変わって１年目の今年、いろいろな部分で協力し合い、確認しあいながら保育を進めてきた。中堅や若い職員が今までの主任の仕事を分担し、その中で成長してきているのが見えるのはうれしい。しかし、それはほとんどボランティアによるもので、夜遅くまで残ってもらったりしてできたことであった。ちょうどこの時期、モラルサーベイを実施し労働環境を見直ししていったが、神愛の歴史の中で大切にしてきたことを守りながら、今の時代の中で、どう変えていけるのかは今後の課題でもある。

○　第三者評価を受審し、モラルサーベイを実施したことの結果と合わせて見ていこうと思ったが、リンクして考えるまでには至らなかった。今回の評価で、保護者の満足度も、職員の満足度も、どちらも高いとはいえない結果に、管理者としてとてもショックだった。今の時代の保育園として、足りないところが見えていないのか。「子どもを育てる保育は保護者との関係が大事」と思って今までやってきただけに、管理職として考えさせられる部分である。すべての人に分かってもらうことは不可能だとしても、保育を通して保護者の満足度を上げる努力をしていきたいと思う。

○　区による「保育不可」の判定が出た障がい児を、上申書を提出して入園させることができた。このことも子育て支援をしている中で、その子の必要を見極められたことだと思う。そして、保育園全体でこのことを確認できたことも職員の成長につながっていったと思う。

○　子育て支援は 18 年目を終わることになる。担当者が代わり丸２年が過ぎたが、この２年間補助金の中の一部を返金しなければならないことになり、こんな関係でも人の配置を考えなければならないのかと思わされる。子育て支援の内容としては、担当者のがんばりが見え、新たな事にも挑戦しているし、地域のつながりのなかで事業が進むこともあり感謝している。一言で 18 年というが、その歩みは社会の必要を先取りした、本当に大切なものであったとつくづく思う。広がる子育て支援の働きをこれからも地に足をつけて進めていきたい。

○　卒園児支援のプログラムは多い。特に今まで行ってきた卒園児キャンプの場所が閉鎖されるということで、この１年新たな場所探しをしてきたが、運営主体は変わったものの続けられる事になりホッとしている。しかし、卒園児プログラムも参加者が減ってきている事実をどうとらえていくのか、日常の保育の中で、保育のつながりのなかで考えてきたこれらの事業を、これからどんな風に進めていくのか、何を必要とされているのか考えなければならないと思う。

1　施設運営

（1）実施事業

ア　特別保育等

・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9 名）
・産休明け保育実施
・延長保育実施（1 時間延長）
・延長保育事業（零歳児のスポット受入れ）

・障がい児保育事業実施（今年度は在籍３名）
・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ　地域子育て推進
・育児講座　年６回実施
・お年寄りとの交流　年 10 回実施
・退所児童との交流　年 10 回実施
・小中高生の育児体験受入れ　年 30 日間受入れ
・育児相談　随時実施
・保育所体験　年 14 回・28 人受入れ実施
・出前保育　年 11 回実施
・子育てサークル支援　年 15 回実施
・子育て情報誌の発行　年５回発行
・育児困難家庭への支援（1 名受入れ在籍、途中転園）

(2) 児童の処遇
ア　クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障がい児数	備考
つくし	0 歳	3	9	0	
たんぽぽ	1 歳	2	10	0	
もも	2 歳	2	14	0	
ちゅうりっぷ	3 歳	1	15	1	
ひまわり	4 歳	1	15	0	
ひまわり	5 歳	1	18	2	
子育て広場	その他	1			
合　　計		11	81	3	

イ　月別保育日数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
25	24	26	26	26	24	合　計
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	295　　日
25	24	23	23	23	26	

ウ　健康管理
健康診断
乳児　　毎　　月

幼児　　年２回（　5　月、　10　月）
歯科検診　　年２回（　6　月、　10　月）
蟯虫卵検査　　年２回（　6　月、　10　月）

エ　保　　育

各組の保育目標

ひまわり組（4・5歳児）の年間目標

・好きな友達やクラスの仲間と一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わう。
・様々な活動や遊びに意欲的に取り組んで行く。
・自分なりのイメージを表現することを楽しむ。
・自分の好きなこと、得意なことがあり、友だちのことも知り、皆で認め合うことで自信になっていく。
・人の話をよく聞き、自分なりの考えを持ち、自分の気持ちを言葉で伝えることができる。

年間目標　評価・課題

５歳児クラスには配慮を必要とする子どもが多く（障がい児が２名その他にも）、年長として、ひまわり組として集団で動くときには、特に配慮が要り、担任としては多くの力量を求められるクラスだった。だが、その力量不足もあり、担任間の関係もあまりうまくいかず、クラスとして計画していたいろいろなことが実践できずに終わってしまったことが多かったのは残念だった。それでも一人ひとりの子どもたちは着実に力をつけて、年長さんらしく育ってきた。改めて子どもの内側に秘められている成長力の素晴らしさを感じた。

（4歳児）の年間目標

・自分が思うこと、考えたことを言葉で伝えあい、相手のことも受け止められるようになってくる。

年間目標　評価・課題

4、5 才混合クラスの中で、５歳児とのいい関係を築き、落ち着いてきた子や、５歳児で時として周りに迷惑ともいえる行動をとる子に対して、その子の良さを認められる年中の姿がありうれしかった。年長の子のやることを見てまねをしようとしたり、優しくしてみたり。年中にも刺激になる部分はたくさんあったと思う。しかし、職員同士の信頼関係のなさが、子どもや保護者との信頼関係の形成に影響していたと感じられたことは、これは大きな反省である。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

・生活する中で自分でできることが多くなり、大人が受け止めていく中で自信が持てるようになる。「ぼくが、わたしが」と自分でやってみたいと思うようになる。
・身体を動かして遊ぶ楽しさを十分味わえるように、泥んこ遊び、水遊びなど年間を通して様々な遊びを楽しんでいく。
・大人に見守られながら、生活の流れが分かるようになり自分で身の回りのことが少しずつできるようになってくる。

・経験したことや楽しかったことなど、大人や周りの友達に伝えていくことが楽しいと感じられる。また自分の思いをたくさん出していく中で、少しずつ相手の思いに気付いていくようになる。
・ごっこ遊びを十分に楽しみイメージを広げていき、その中で友だちとの関わりが楽しいものとなってくる。

年間目標　評価・課題
まだ歩行ができず、生活面でも一つ一つに手助けが必要な 3 歳児の障がい児がおり、2 人体制では十分にできないとの申し出を受けて、フリーのパートさんに入ってもらってスタートした。人を厚く配置したことで当人やそのほかの子にも良い結果となったとは思う。しかし、管理職としては 15 人を 2 人の保育者で見られないというのはやはり課題が残ると思っている。しかし、大変な状況の中でクラスとしては 3 人の保育者がいい関係の中で様々なことに挑戦し、子どもたちも十分に楽しんでいた。また、今年は障がい児の通園施設 COCO とも積極的に交流し、保育につなげたり親子の支援につながっていると思う。

もも組（2 歳児）の年間目標

・沢山の自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して自分の気持ちを出せると共に、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
・自分の好きな遊びをじっくりと遊んだり、さまざまな遊びを通して他の子どもたちと遊ぶのが楽しくなり、一緒に遊びたいと思う仲間ができてくる。
・日常の様々な体験の中で感じる嬉しさや楽しさ、新しい発見などを大人や他の子どもに伝えようとしたり、思いがぶつかった時には「どうしようか」と少しずつ考えようとする。
・絵の具や土粘土など様々な素材に十分触れて、のびのびと表現活動を楽しむ。

年間目標　評価・課題
入園して慣れるのに半年以上かかった子もいた 2 歳児。一人の保育者を中心に受け止めながら進めてきた。気をつけてはいたものの、自己主張の多くなる時期、かみつきや引っ掻きなどが起こり苦情が出たこともあった。さらに気をつけるとともに、保育体制を厚くすることで、その時を乗り越えた。クラスの保育としては、積極的に食育に取り組み、子どもたちの喜びを増したと同時に、保護者への発信もタイムリーにできたことは評価できる。保育者同士の関係、保護者との関係づくりでは課題が残るが、基本的なところなのでしっかりと形成していきたいと思う。

たんぽぽ組（1 歳児）の年間目標

・保育士に親しみ、安定した中で十分に自分の思いを出す。
・一人ひとりが自分の興味あるものに向かい、好奇心をふくらませ、じっくりと満足するまで探索活動を楽しむ。
・他の子や保育士と一緒に遊ぶことを楽しむ。
・歩いたり全身を動かして遊ぶことを楽しむ。

年間目標　評価・課題
担任の中に、体調不良により 2 回の長期休暇を必要とした職員がおり、その辺でも関係を保つことに大変な時期があっ

たが、子どもの成長によって助けられた感がある。1歳児には自我の芽生えを受け止め、包み込むような対応が必要だが、保育者が対応しきれなくなってしまうこともあり反省は残る。お互いに素直に言える、聞ける関係づくりが課題である。保育の内容としては、表現活動も食育活動もこの年齢にしては、積極的に取り組めたのではないかと思う。

つくし組（0歳児）の年間目標

・園と家庭とで連携して、24時間の生活リズムを大切にすることで、気持ちよく過ごす。
・大人との関わりの中で、様々な欲求や要求を十分に受け止めてもらい、信頼できる大人の存在ができ、その大人を介して、周りの人や物へと興味を広げていく。
・姿勢を変えたり、移動、歩行など身体を十分に動かすことを楽しむ。
・室内外での探索活動を楽しみ、見る、聞く、触る、しゃぶるなどの感覚や手の動きが育つ遊びを沢山する。
・嬉しい、悲しいなどの感情が育ち、泣く・笑う・表情・仕草・喃語・片言などで自分の気持ちを表す。
・大人が歌う歌を喜んでいたりする中で心地よく過ごし、大人にあわせて声を出したり動作を真似て楽しむ。

年間目標　評価・課題

0歳児クラス3年目のリーダーと共に、一人一人の職員が力を合わせ、昨年の反省をもとにとてもよいチームワークの中で保育をしてきた。このことは子どもの育ちと保護者との信頼関係にも大きな影響を与え、最後の保護者会で感謝する親の声を聞いただけでなく、子どもの育ちをゆっくり、あまり心配せず見つめることの大切さをわかってもらえた事にもつながっていると思う。良い関係の中で仕事をすることは、仕事に積極的に向かうことにもつながり、手作りおもちゃなどにもいろいろ取り組んできたことは評価したい。いつでもこんな関係を作っていくことは、当たり前のことであるが、難題でもある。

2010年度実施行事

4月2日	入園式
6月15日	こどもの日、花の日
6月11日	親子遠足
7月7日	プール開き
7月15～17日	4･5歳児キャンプ
8月6日～8日	卒園児キャンプ
9月10日	おじいちゃん、おばあちゃんと親しむ会
10月9日	運動会
10月15日	いもほり遠足（3～5歳児）
10月19日	収穫感謝礼拝
11月7日	神愛まつり
12月18日	クリスマス会
1月7日	餅つき

2 月 21～26 日　作品展示
3 月 17 日　お別れ会
3 月 19 日　卒園式

月例行事　誕生会・隔月で園外保育

年間行事　評価・課題
年間行事については見直しをしながら進めている。行事の中心となる年中・年長クラスの中で見通しを持って進めることが難しく、周りをやきもきさせることもあったが、子どもたちが楽しんで行事に向かえるよう、必要な助けをしてこられたかと思う。行事については毎回保護者アンケートで多いと感じている人がいることは分かっている。反対に大切に続けてほしいと思っている人もいる。やはり双方の意見を考慮し、見直しが必要である。

オ　栄養管理

集団給食施設栄養報告　　年 4 回
栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
給食供給者としての諸管理

栄養管理　評価・課題
年間を通して、季節の素材を積極的に取り入れた献立をたてること、安心・安全な食材を使用していくことは、園としての大事な考え方である。それをより積極的に伝える方法として、季節の食材の展示を行なった。保育との連携という点では、「時間内」にできないことはしたくないという栄養士の意見も出て考えさせられるところである。いや違うでしょと言いたいところであるが、モラルサーベイなど実施している手前強くも言えなかった。アレルギー児への対応では、チェックリスト等も揃えて対応してきているが、それでも落ちてしまうことがあったのは大きな反省である。

カ　安全管理

交通安全教育（11 月 14 日）
非常災害時の避難訓練　毎月
引き渡し訓練の実施（9 月 1 日）

安全管理　評価・課題
避難訓練は子どもたちの中に浸透してきており、上手に避難できるようになっている。3 月に起きた大地震の際も子どもたちはほとんど動揺することなく避難していた。保育者の日ごろの訓練による落ち着きも大きかったとみている。課題として非常滑り台の使い勝手の悪さがあり、どうしていくか考えているが解決策はなかなか見いだせない。引渡し訓練は、日常の保育の中で行ってきたが、今回の大震災を経験し引き渡し場所となるところで（森下公園）引き渡し訓練をしたいと思っている。

（2）職員の処遇

ア　職員構成

園　　長　　1 名
主任保育士　　1 名

保　育　士　　11 名
調　理　員　　3 名（栄養士含む）
看　護　師　　1 名
嘱　託　医　　1 名（非常勤）
臨時職員、パート職員　　17 名

イ　健康管理

健康診断　　年　1 回（9 月～11 月）
細菌検査　　年　2 回（5 月、10 月）
給食、0 歳児調乳担当のみ毎月 1 回

ウ　職員会議

定例会　　毎月 2 回
行事前打合せ会（随時）
期別反省会（年 2 回）

会議　評価・課題

職員会議は少ない時間で中身の濃い話し合いにしたいと、工夫してきているし、職員の意識も少しずつ変化してきていると思うが、十分とはいえない。主任・リーダーは会議の進行（必要な話か、まとめられるものかを見極めて）を工夫しなければと思う。期末反省は、年 2 回で十分な話し合いの時間をとっている。特に年間反省では自己評価をしっかりしたいと思っているが、様式が定まらずその場限りになっているようで反省している。個人の研修計画とともに法人としての様式をもっていきたい。

エ　研修計画

- 園内研修（年 5 回）
- 法人内研修
- キリスト保育連盟研修
- 全国私立保育園連盟カウンセリング研修
- 子どもの文化学校研修
- 東社協保育士会研修、給食研修
- 行政主導の研修
- 江東区私立園長会研修・公私立園長会研修

研修　評価・課題

外部の研修は近場に出かけることが多かったが、職員が自分で学びたいと思うところにいけたのは良かったと思う。職員みんなで共有していくために、会議の冒頭に研修報告の時間を入れるようにしたが、これは研修に参加した本人も、また報告を受けた職員も双方にとって良かった。こんな保育がしたいと休日を使ってでも参加する意欲は評価していきたい。来年度は全国的な研修にも計画的に出かけられるようにしたい。また、荒馬に関する研修は園独自のものとして全額補助の考えを維持していきたい。

オ　退職・福利厚生

社会福祉・医療機構　退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会　従事者共済会加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ　福利厚生倶楽部加入

2　施設管理

(1) 事務関係

ア　会計事務、管理事務

・小口現金出納事務、・実費徴収事務

・労務管理（出勤管理、有給休暇管理　等）

イ　児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

・保育指導計画等の作成・日誌・児童票

・給食献立表等の作成･給食日誌

・健康診断記録表等の作成・保健日誌

事務関係　評価・課題
会計事務、管理事務とも法人事務局の助けを借りながら、把握できるように努めている。まだ、園の会計全体はすべて見渡せない部分もあるので、更に理解を進めていきたい。事務のパートを雇い入れ、日常の印刷・配布、小口の管理などの事務仕事もお願いできるので、保育者の事務量は少なくなってきている。しかし、依頼するには計画的にやらないと難しい。このあたりを更に計画的に進めることが課題である。保育、給食の事務はなんとか時間内にとの気持ちはあるが、現実は簡単ではないが、工夫の余地はあると思う。

(2) 設備関係

ア　固定遊具の設備点検

イ　老朽設備の点検、老朽箇所の更新

・　給食室給湯管工事

・　乳児室床磨き

設備関係　評価・課題
施設の建物自体の老朽化と設備の老朽化と双方を考えなければならない。見渡せば更新したい場所はいくらでもある。計画的にすすめていくことの大切さを痛感している。と同時に園舎改築を見通しどこまで補修していくのか考えさせられる部分も多い。

(3) 備品関係

ア　備品購入

イ　保育用品購入

ウ　給食用品購入
・お椀等食器
エ　固定資産物品購入
・　０歳児　サークル・ベビーベッド・収納棚
・　１歳児　保育室パーテーション
・　２歳児　ベランダ湯沸かし器
・　１階設置の倉庫
・　保育教材　巧技台

備品関係　評価・課題
手を入れたい老朽箇所はまだまだあるのだが、計画的にすすめていきたい。0歳児室の高床ベッドを撤去した後、柔らかい感じの円形のサークルを設置できたことは、保育室も明るく広くしよかった。しかし収納場所の不足はいつでも課題である。

(4) 災害対策
ア　避難訓練
毎月１回

イ　防災設備の点検委託
年２回（内、届け出１回）

ウ　非常食糧の備蓄
○（全園児数＋全職員数）×3 食×（1 日～3 日）分

災害対策　評価・課題
災害時の非難訓練もほぼ予定通り実施。実際に起こった時はどうなるのか課題はその都度出されるが、話し合いながら進める。園で用意している避難靴はクラスの子どもたちの実情に合っていないということで、新しく買い替えた。防災頭巾なども何年も使っているものは新しくしていく必要がある。また、今年も防災の日に、非常食を食べてみて子ども達にもその意識を持って欲しいと実行した。毎年続けるようにする。

3　地域社会との連携

・花の日に近くのデイサービスホームを訪問する。
・（十分ではないが）江東区子ども発達センター、親子教室との連携
・近隣の小中学校との連携―今年は、年長児の保護者対象に小学校の校長先生に講演会をお願いしたが、新型インフルエンザの流行と重なってしまったため、参加者が少なめで残念であった。また、夏の保育園体験ボランティアにも協力していただいている。反対に中学校の職場体験も受け入れ、相互交流となっている。

地域社会との連携　評価・課題

ある程度定期的にお年寄りの施設を訪問したいと思っているが、なかなか実行できずにいる。ご近所との協力関係については、今後もパートの人も含めた職員の対応を確認すると共に、職員全体で気をつけていくことを書類でも確認し、毎日チェックするようにしている。

子育て支援事業を進めていく上でも、みずべとの協力関係はもとより更に地域の保育ママさん、保健センターとの連携も努力していきたい。昨年発足した「地域情報交換会」を地域のつながりを見える形にする大事な機関として一緒に育てていきたいと思っている。

学校との連携では、新しい指針に則り、小学校長の講演会や交流等の連携を進めてこられたのはよかった。大事な場として続けていく。中学校では体験学習の場としての交流をこれからもはかっていきたい。

社会福祉法人　雲柱社　祖師谷保育園　２０１０（平成２２）年度　事業報告

記入者（施設長）
菊地　せい子

2010 年度をふりかえって

前園長が培ったことを踏まえつつ、新たな気持ち・発想で園運営に望んだが、組織作りと協力体制が出来ていたので当初からスムーズに園運営が出来たと思う。世田谷区は待機児が多い地域であるが、その解消に積極的に協力するため、２００９年度の分園開所に引き続き２０１０年には区で初めての認可保育園実施型の家庭的保育事業も６箇所で開所した。本園の職員との連携もうまくでき、まだ課題はあるにしてもまずは順調なスタートを切ることができた。

モラルサーベイでは職員の有給休暇・休憩等が取りにくいという結果が出たが、職員みんなで協力・工夫した結果、以前よりは取りやすい環境は整えつつある。

３月には東日本大震災が発生したが、子ども達への対応、４年前の改築で施設の耐震性が増していることなどは保護者から評価された。しかしこれまでも点検等はしていたが、今回の地震を機に防災関係備品のさらなる点検・整備、設備の防災機能の強化、職員の役割分担の見直しなどの必要性を痛感した。

１　施設運営

（１）実施事業

ア　特別保育等

・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：９名）
・産休明け保育実施
・延長保育実施
・延長保育事業（零歳児の受入れ）
・障がい児保育事業実施（特児対象：１名）
・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ　地域子育て推進

・小中高生の育児体験受入れ　４９日間受入れる
・保育所体験　延べ３００人以上受入れ実施
・出前保育　年７回実施
・育児困難家庭への支援

ウ　家庭的保育事業との連携

（２）児童の処遇

ア　クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
うさぎ組	０歳	３名	９名		看護師
あひる組	１歳	３名	１５名		
はな組	２歳	３名	１８名		

つき組	３歳	２名	２０名		
ほし組	４歳	１名（１名）	２４名		
ゆき組	５歳	１名（１名）	２４名	１名	
	その他	主任１名			
合　　計		１７名	１１０名	１名	

イ　月別保育日数

４月	５月	６月	７月	８月	９月	合　計
２６日	２３日	２６日	２６日	２６日	２４日	２９５日
10月	11月	12月	１月	２月	３月	
２５日	２４日	２３日	２３日	２３日	２６日	

ウ　健康管理

健康診断

乳児　　毎　月（１回～２回）　　＊耳鼻科検診　　年１回（　５月）

幼児　　年２回（　５月、１０月）　　＊視力検査（４、５歳児）年１回（　１０月）

歯科検診　　年１回（　５月）

蟯虫卵検査　　年１回（　５月）

エ　保　　育

各組の保育目標

ゆき組（５歳児）の年間目標

①・様々な活動に取り組み、仲間に認められる事によって自信を得、自己発揮する。

②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。

③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。

④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。

・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。

・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。

⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標　評価・課題

集団遊び、スポーツ遊びを多く取り入れたことで、仲間の存在を認める中で、自分の存在も見つけていくことができた。また、協力して沢山の事を乗り越えていったことで、頑張ってやりきったという達成感、諦めない気持ちを持つことの大事さを実感できたと思う。

ほし組（４歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。

②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。

・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
⑤・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標　評価・課題

一年間を通して、感情のコントロール（自分で言葉で伝える）することを大切にして過ごし、子どものイメージ力、発想力を形にあらわして、行事に取り組んだ。自分のことをしっかりやることが身についた。

つき組（３歳児）の年間目標

・基本的生活習慣の自立に重点を置き、一人ひとりに合わせて丁ねいに関わり、子ども達が自分でできる流れを作るようにした。そのため初めは差があったが最終的には一応の自立ができたと思う。
・環境的なこともあり異年齢の交流が少なかった。保育園の良さを活かすことが課題。
・クラス、仲間というところでは関係ができていたが小さくまとまりがちだった。

年間目標　評価・課題

個人差を考慮しつつ基本的生活習慣を身につけさせることはできたと思う。年間を通して絵本、紙芝居、素話などを楽しむ機会を多く持てた。また、どの行事でも子どもらしさを引き出し、みんな楽しむことが出来たと思う。

はな組（２歳児）の年間目標

・身の回りのことを自分でするようになるので、自立の要素を受け止め困った時は手助けをしながら自分でできる喜びを持たせる。
・保育者や友達と一緒に全身を使った遊びや、ごっこ遊びをする楽しさを体験できるようにする。
・反抗したり強く自己主張するようになるが、自我の芽生えとのときと受け止め、自信をもって行動できるように援助していく。

年間目標　評価・課題

子どもの自己主張や思いなどを受け止めた保育が出来たと思う。また、子ども自身が気持ちを切り替われるような関わりを目指した。遊びの中に音を取り入れることで歌や手遊びが好きになり、リトミックが始まったことでそれがさらに増し、そこから興味を広げて手遊び体操など積極的に行うクラスになった。

あひる組（１歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。

②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分にこない行い体を動かすことを楽しむ。

③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。

④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。

⑤・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ

年間目標　評価・課題
戸外遊びを積極的に持つことで充分な探索活動をすることができた。室内遊びでも安心できる環境を整えた。生活面全般に対しても自分でしようとする気持ちが出てきて、出来ることが増えた。また、保育者との歌遊びや絵本を楽しみ、言葉の発達を促す事が出来た。

うさぎ組（０歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子ども甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る

②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり,移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。

③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。

・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。

・個人差に手応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。

④・優しく語りかけたり 発語や保育士とのやりとりを楽しむ。

⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。

・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

,年間目標　評価・課題
月齢の高い子が多く、早くから園庭遊びや散歩、泥んこ遊びなど戸外での活動を楽しむことが出来た。なるべく同じ担当が子どもとの関わりを持つことにより情緒の安定を図った。また、食事や睡眠も場所を固定し、保障してあげる事で、子ども達も自分から席に着いたり、布団に入るなど見通しを持って生活することができた。

2010 年度実施行事

４月　　入園式　　イースター礼拝

5 月　　クラス懇談会　３、４、５歳児親子遠足

６月　　花の日子どもの日礼拝　一週間縦割り保育

５歳児キャンプ・プラネタリウム

７月　　夕涼み会　プール開き

８月　　卒園生遊ぼう会

１０月　　運動会　　ほのぼの会
１１月　　そしがや祭り　　収穫感謝祭
１２月　　クリスマス礼拝　　卒園生クリスマス
　１月　　餅つき　　１週間縦割り保育
　２月　　大きくなったよの会　　各クラス懇談会
　３月　　お別れ会　　卒園式　　進級式

年間行事　評価・課題
行事に取り組む際には、必ずその目的や取り組みを会議などで確認、検討し全体で共有した。卒園式は、子どもにとってどうか、という基本を踏まえ、担任の思いも取り入れながら行った。

オ　栄養管理

集団給食施設栄養報告　　年　２　回
栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
給食供給者としての諸管理

栄養管理　評価・課題
調理のカウンターで子どもとの会話をしつつ、畑で育てた野菜を使ってのクッキングをしていくことができた。食事は季節の物を取り入れながら、色など見た目も気をつけるようにしている。クッキング以外の食育ももっと増やし、子ども達や保護者が食にもっと興味を示してもらえるようにしていきたい。

カ　安全管理

非常災害時の避難訓練
引き渡し訓練の実施（９月９日（木））

安全管理　評価・課題
毎月安全点検をし、安全な環境を常に心がけている。東日本大震災を期に防犯担当（２名）を設置する。

（２）職員の処遇

ア　職員構成

園　　長	１名
主任保育士	１名
保　育　士	１４名
調　理　員	２名（栄養士含む）
看　護　師	１名
嘱　託　医	１名（非常勤）
リトミック講師	１名（非常勤）
パート職員	１４名

イ　健康管理

健康診断　　年　１回（　６月　）
細菌検査　　年１２回

ウ　職員会議

定例会　　毎月　１回　　乳幼児打ち合わせ　　毎月２回

行事前打合せ会（随時）　　クラス、食事打ち合わせ

期別反省会（年　２回）　　主任会

会議　評価・課題

司会者は会議の目的、内容等を勘案し、職員が意見を出しやすいような雰囲気づくりに努めた。議題を整理し、時間内で治まるような工夫も見られた。保育との同時進行となるため出席できない職員は記録を読み、報告を受け周知徹底を図った。

エ　研修

・園内研修　　・世田谷区の研修

・法人内研修　　・自主研修

・全国私立保育園連盟研修

・東京都社会福祉協議会研修

研修　評価・課題

園内研修では引き続き外部講師による研修を実施し、職員が学びを共有することができた。また、法人内研修、外部研修にも多くの職員を参加させることが出来たが、夏季の自主研修は参加者が少なかったのは残念であった。

オ　退職・福利厚生

社会福祉・医療機構　退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会　従事者共済会加入

財団法人雲柱社　福利厚生センター加入

２　施設管理

（１）事務関係

ア　会計事務、管理事務

・小口現金出納事務、・実費徴収事務

・労務管理（出勤管理、有給休暇管理　等）

イ　児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

・保育指導計画等の作成

・給食献立表等の作成

・健康診断記録表等の作成

事務関係　評価・課題

・園長、主任、パート事務職員の役割を確認しながら家庭的保育事業の小口も含む事務処理を行うことが出来た。職員の事務時間がなかなか取れず、勤務中の事務処理の仕方は課題である。

（２）設備関係

ア　固定遊具の設備点検

イ　老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係　評価・課題

・乳児のテラスの柵のささくれ、排水工事、幼児のシャワー、駐車場の整備、畳替え、厨房ダクトファン

補修工事等を行った。

（３）備品関係

ア　備品購入

・自転車、テーブル（地域の部屋）、冷蔵庫（事務室）、象印ポット（事務室）

・スクリーン（地域の部屋）別製棚（ホール）

イ　保育用品購入

・タオルポット（１歳児）絵本棚（２歳児）砂場シート、クリスマスツリー、ハンガースタン（３歳児）、

ウ　給食用品購入

・食器、鍋

エ　固定資産物品購入

・門扉、掲示板、メッシュテント、別製戸棚

備品関係　評価・課題

・電化製品の故障が多かったので新しく購入した。

（４）災害対策

ア　避難訓練

毎月１回

イ　防災設備の点検委託

年２回（内、届け出１回）

ウ　非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×３食×３日分

災害対策　評価・課題

・９月保育ネット烏山の合同避難訓練に参加し、地域の保育施設との災害時の協力体制を確認する。

３　地域社会との連携

地域社会との連携　評価・課題

・保育ネット烏山では、保育園紹介や防災訓練、児童館でのイベントなどに参加し、地域の保育園としての役割を果す。

・砧地域のぱる児童館、留学生会館等のフェスタにも参加し、他の団体との交流を果たす。

社会福祉法人　雲柱社　祖師谷保育園分園　２０１０（平成２２）年度　事業報告

記入者（施設長）
佐藤　洋子

2010 年度をふりかえって

○ 待機児童解消園としてスタートし、年度途中の入園児が数名いた。

○ 保護者から自主的に立ち上げられた「保護者の会」は、試行錯誤しながらも、2011 年度に繋ぐ土台作りが進められている。

○ 第 3 者評価の保護者アンケートの意見としては、園庭が狭い、運動遊具が少ないなどの意見が多かった。保育に関しても厳しい意見も有ったが、温かく信頼してくれる保護者も多くいることが分かり、支援しているつもりが支えられていることを感じた。

○ 昨年度は本園との合同行事に関して保護者の不満の声が多かった為、今年度は合同と単独と区分けして行ったところ満足の声が多かった。ただ本部より次年度より本園と一体化した分園の位置づけの運営方針の変更の示唆があり、２園の管理者、リーダー、本部も交えて話し合の場を持っている。

○ モラルサーベーや東日本大地震など初めての経験を通して、声かけや協力体制など職員の連帯も出来ている。

○ インフルエンザ等の重要な感染症の流行なく過ごせた。引き続き、保護者との連携と職員の感染予防の周知徹底をして、子どもたちの健康に配慮していきたい。

１　施設運営

（１）実施事業

ア　特別保育等

・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：９名）
・産休明け保育実施
・延長保育実施
・延長保育事業（零歳児の受入れ）
・障碍児保育事業実施（特児対象：２名）
・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ　地域子育て推進

・小中高生の育児体験受入れ　５０日間受入れる
・老人施設訪問 5 回
・出前保育　年　回実施
・緊急一時保育　（５名受入れ）

（２）児童の処遇

ア　クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
つくし組	０歳	３名	９名		看護師
すみれ組	１歳	３名	１４名		

たんぽぽ組	２歳	３名	１６名		
ちゅうりっぷ組	３歳	２名	１５名		
ひまわり組	４歳	１名	７名	１名	
さくら組	５歳		４名	１名	
	その他	園長			
合　　計		１３名	６５名	２名	

イ　月別保育日数

４月	５月	６月	７月	８月	９月	合　計 ２９４日
２５日	２３日	２６日	２６日	２６日	２４日	
10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	
２５日	２４日	２３日	２３日	２３日	２６日	

ウ　健康管理

健康診断

乳児　　毎　月（１回～２回）　　＊耳鼻科検診　　年１回（　５月）

幼児　　年２回（　５月、１０月）　　＊視力検査（４、５歳児）年１回（　１０月）

歯科検診　　年１回（　６月）

蟯虫卵検査　　年１回（　５月）

エ　保　　育

各組の保育目標

さくら組（５歳児）の年間目標

①・様々な活動に取り組み、仲間に認められる事によって自信を得、自己発揮する。

②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。

③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。

④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。

・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。

・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。

⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標　評価・課題

・少人数で４歳児クラスとともに生活、活動をする中で年長児として中心となって進められるように配慮した。

・５歳児として活動の広がりが持てるよう、本園や烏山保育園との交流を持つ機会や老人ホーム訪問をスタートすることができた。来年度はさらに増やしていきたい。

ひまわり組（４歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。

②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。

・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。

③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。

④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。

⑤・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標　評価・課題

・５歳児との合同クラス。年長児の遊びを見て難しいルールの遊びにも挑戦したり刺激を受けながら過ごせた。

・お泊り会も楽しみながら５歳児と共に過ごすことで自信となった。

ちゅうりっぷ組（３歳児）の年間目標

・基本的生活習慣の自立に重点を置き、一人ひとりに合わせて丁重に関わり、子ども達が自分でできる流れを作るようにした。そのため初めは差があったが最終的には一応の自立ができたと思う。

・環境的なこともあり異年齢の交流が少なかった。保育園の良さを活かすことが課題。

・クラス、仲間というところでは関係ができていたが小さくまとまりがちだった。

年間目標　評価・課題

・３～5歳での合同保育の生活が多く４・５歳児に引っ張られながらも、のびのびとした遊びが展開されていた。その分後半のクラス活動の経験が少なくなってしまった。。

たんぽぽ組（２歳児）の年間目標

・身の回りのことを自分でするようになるので、自立の要素を受け止め困った時は手助けをしながら自分でできる喜びを持たせる。

・保育者や友達と一緒に全身を使った遊びや、ごっこ遊びをする楽しさを体験できるようにする。

・反抗したり強く自己主張するようになるが、自我の芽生えとのときと受け止め、自信をもって行動できるように援助していく。

年間目標　評価・課題

・子どもたちの気持ちを汲み取ることは出来たが、それを活動や表現の場にもっと活かしていくべきだった

・担任間の連携は取れていたので、それぞれの情報やイメージの交換が出来て活動がしっかりと進めることが出来た。またそれが子どもへの良い影響として反映出来た。

すみれ組（１歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。

②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分にこない行い体を動かすことを楽しむ。

③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。

④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。

⑤・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ

年間目標　評価・課題
・月齢に開きがあるクラスだったが、月齢に合った玩具が揃えることができなかった。
・季節ごとの歌や手遊びを担任間で共通認識し提供していくべきだった

つくし組（０歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子ども甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る

②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり,移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。

③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。

・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。

・個人差に手応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。

④・優しく語りかけたり 発語や保育士とのやりとりを楽しむ。

⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。

・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標　評価・課題
・ゆるやかな担当制をとることにより、信頼関係をつくることができた。
・一人ひとりの生活リズムや個人差を踏まえ柔軟に対応することで新しい環境にもスムーズに慣れ保護者とも信頼関係を結ぶことができた。また様々な成長の様子を丁寧に見守り励ましていくことで、一人ひとりの発達を促すことができた。

２０１０年度実施行事

４月　　入園式　各クラス懇談会

５月　　３~５歳児クラス親子遠足

６月　　プール開き

７月　　夕涼み会　４，５歳児お泊り会

９月　　ほのぼの会
１０月　　運動会　５歳児ﾌﾟﾗﾈﾀ
１１月　　そしがや祭り　　収穫感謝祭
１２月　　クリスマス礼拝
１月　　餅つき
２月　　各クラス懇談会
３月　　お別れ会　　卒園式　　進級式

年間行事　評価・課題
・昨年度の課題であった本園との合同行事の区分けをして行った結果、保護者たちの満足の声が多かった
・次年度は本園との一体化に向けた日常的な交流を意図的にどこまでやれるか課題である
・2年目職員が中心になり経験ある保育士との連携でバランス良く取り組めた

オ　栄養管理

集団給食施設栄養報告　　年　２　回
栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
給食供給者としての諸管理

栄養管理　評価・課題
・献立表を子ども用としてひらがなで作成すると、毎日の食事に関心をもつ子どもが多くなった。
・毎月年齢に合ったクッキングや食育を見通しをもって行っていく。
・

カ　安全管理

非常災害時の避難訓練
引き渡し訓練の実施（９月１７日）

安全管理　評価・課題
・引き渡しの確認、人数の把握と受け渡しを各遅番の部屋で行う。
・実際に大きな地震を経験し、普段の訓練が活かされた事と見直しをしていく事が明確になる

（２）職員の処遇

ア　職員構成

園　　長	１名
家庭的支援者	１名
保　育　士	１２名
非常勤保育士	１名
調　理　員	２名（栄養士含む）
看　護　師	１名
嘱　託　医	１名（非常勤）
リトミック講師	１名（非常勤）
パート職員	１４名

イ　健康管理

健康診断　　年　１回（　６月　）

細菌検査　　年１２回

ウ　職員会議

定例会　　毎月　１回　　乳幼児打ち合わせ　　毎月２回

行事前打合せ会（随時）　　クラス、食事打ち合わせ

期別反省会（年　２回）　　主任会

会議　評価・課題
・夕方の職員会は参加人数が少なく、なかなか効率ある会議は難しいので、報告その他議事録を見たら理解できる議題と討議を主とする議題などに分け、一人でも多く会に参加し、自分の意見を話せる会議であるよう何度も見直しをした、全員での会議も含め経験の浅い職員も自分の意見を出してくれるようになったが、グループで討議したことを、どうまとめて共有できるようにするか課題である ・牧師の礼拝は平日の午後に実施した、職員会議の日より多く礼拝を守ることが出来ている

エ　研修

・園内研修　　・世田谷区の研修

・法人内研修　　・自主研修

・全国私立保育園連盟研修

・東京都社会福祉協議会研修

研修　評価・課題
・園内研修は、今必要なことを議題として取り上げてきた。保育をしていくに中で基盤となる部分を共有していきたいという職員の意識が高くなってきた。 ・自主的に学びたい研修（外部）へ行って欲しく、掲示したりするが参加者は５名だけだった

オ　退職・福利厚生

社会福祉・医療機構　退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会　従事者共済会加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ　福利厚生倶楽部加入

２　施設管理

（１）事務関係

ア　会計事務、管理事務

・小口現金出納事務、・実費徴収事務

・労務管理（出勤管理、有給休暇管理　等）

イ　児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

・保育指導計画等の作成

・給食献立表等の作成

・健康診断記録表等の作成

事務関係　評価・課題

・本園の様式をベースにして作成しているが、月日を追うごとに事務関係の書類も多くなり、特に会計事務等の提出は期限ぎりぎりの提出になった。次年度は本園事務員に事務量を補ってもらう方針である

・献立表などマンネリ化せず、他園の案なども入れて、より子どもたちの食べることの意欲に繋がるよういろいろ工夫をしていた

・イに関しては主任たちの話合による保育ブロックでの書式の統一化がまとめられた。実施は次年度からなった。

（２）設備関係

ア　固定遊具の設備点検

イ　老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係　評価・課題

・門扉（裏表）と再度センサーが作動しなくなることがあり、その都度早急に対応

・砂場の砂が、すぐに減ってしまうので、砂を足したり砂場から出た砂を定期的に集める。乳児用の砂場の高さがあるため中の砂を減らし転倒を防ぐ

（３）備品関係

ア　備品購入

・テレビ・冷蔵庫・畳

イ　保育用品購入

・各クラスの絵本や玩具の購入　０、１歳時食事エプロン等　跳び箱

ウ　給食用品購入

・食器類

エ　固定資産物品購入

園庭遊具・自転車置き場屋根設置

備品関係　評価・課題

・災害時に必要な情報を得るために地震の後に早急に購入し、情報を素早く提供できた

・園庭に砂場、滑り台のみだったので、狭い園庭のなか全身を使える遊具を購入した。今後も園庭の使い方を検討していく

（４）災害対策

ア　避難訓練

毎月１回

イ　防災設備の点検委託

年２回（内、届け出１回）

ウ　非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×３食×３日分

災害対策　評価・課題

・毎月実施している避難訓練は、子どもも大人も落ち着いて取り組むことが出来、実際に起きた東北大地震の避難はいつもと同じ誘導が出来、園庭から隣接の中学校のグランドへと避難できた

・今回の緊急事態には保護者への情報提供にかんたんメール使用にはたくさんの保護者から「安心だった」との言葉を貰う

・家庭的保育事業とも良い連携で合同避難訓練をしている

３　地域社会との連携

地域社会との連携　評価・課題

・保育ネット烏山に加わり世田谷区の３園（烏山・祖師谷本園・分園）共同で入園相談行う

・要保護児童支援烏山地区協議会研修参加

・老人施設（ロングライフ成城）の訪問や上祖師谷中学校の学生の体験受け入れを積極的に行う

社会福祉法人　雲柱社　烏山保育園　2010（平成22）年度　事業報告

記入者　吉岡　恵

2010年度をふりかえって

2010年度事業計画の前文で目指した4つの点に対して、以下のように報告する。

・民営化4年目として、初心に戻り、利用者に寄り添う

園長を含め、立ち上げから引っ張っていた中堅職員が異動・退職し、新しく7名の職員が異動・採用された。年度当初は流れをつかむまで多少時間がかかったが、年度の終わりには異動・採用者であることを忘れてしまう程、思いを共有して職務にあたっていた。各クラスの評価・課題にあるように「一人ひとりを大切にする」ことが共通の保育目標とされ、「思いやりをもった」大人や子どもとの関わりの中で実践された。

・自立と一体感を目指した職員集団の形成

管理職が3名になったが、どうしても管理職主導からは脱していない。問題がおこると即対応を心がけているため、職員が考える時間がない。後半、管理職の異動も決まった頃、大きなことは管理職が、小さなことは現場が判断するよう心掛ける。中堅職員は概ね実行できるが、4年目の職員はどんなことでも報告・連絡・相談をしてくる。今後あえて職員に問題をもどし、見守る姿勢を管理職が身につけたい。

・少数精鋭の職員育成

管理職や先輩に助言は求めながら、自分で学び・実践し・考察することで、各自の力をつけることを目指し、エピソード記録に取り組んだ。まだまだ課題は多く、記録の書き方・生かし方の勉強が必要であるが、自分の実践を振り返る習慣は付いてきている。また、素直に話し合える雰囲気もあり持続したい。

・烏山保育園の目的にそった環境設定

公立の建物の限界があり大きく改善はできないが、3年間で修繕してきた木のぬくもりのある室内設定と、手作り玩具など今あるものを見直した。手指・構成・ままごと・ホール・園庭の5グループに分かれ、写真をつかった遊具発達表を作るなど、実践的な話し合いがなされた。次年度も引き続き、烏山保育園として何を目指し、環境設定していくか確認し合う機会をつくりたい。

1　施設運営

(1) 実施事業

ア　特別保育等

・0歳児保育特別対策事業実施（0歳児取扱人員：13名）

・産休明け保育実施

・延長保育実施（0歳児の受け入れ、4時間延長）　＊月延長登録児…平均55名

・休日、年末保育　＊休日利用…日平均、6～8名　＊年末保育（2日間）…30名利用

・障がい児保育事業実施（1名）

・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施（10名）

イ　地域子育て推進

・出前保育　6回

・パートナー保育登録　60名

・中・高生の育児体験受入れ　延べ50人受入れる

・地域交流事業　年7回・概ね200人

・卒園生交流　　年4回・概ね60人

・育児困難家庭への支援　3名受入れ

(2) 児童の処遇

ア　クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ組	0歳	5名	13名		看護師　　パート2名
ちょうちょ組	1歳	4名	19名		パート2名
うさぎ組	2歳	4名	21名		パート1名
たんぽぽ組	3歳	2名	22名		
やま組	4歳	2名	22名	1名	パート1名
ひ組	5歳	2名	22名		
	その他	休日、延長4名　　主任2名			
合　　計		25名	119名	1名	

イ　月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合　計
30日	31日	30日	31日	31日	30日	361日
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
31日	30日	30日	28日	28日	31日	

ウ　健康管理

健康診断

乳児　　毎月（1回）

幼児　　年3回（5月、プール前、10月）

・視力検査（4、5歳児）年1回（10月）　　・歯科検診　　年1回（5月）

・耳鼻科健診　年1回（9月）　　・身体測定　　毎月1回

・蟯虫卵検査　年1回（5月）　　（胸囲、頭囲　年2回）

・受診に至るけがは12件あり、7件は念のため受診した歯科であった。民営化と共に戸外遊びが増えたが、子どもたちも慣れてきて、昨年度に比べ、けがの件数・程度も減少している。

・流行性耳下腺炎の罹患者数が４７名あった。早めに家庭に伝え予防接種を再度促すなど、今後工夫が必要。

・ヒヤリハットの共有はされているので、次年度は分析・検討をし、安全確保と事故予防に努めたい。

エ　保　　育

各組の保育目標

ひ組（5歳児）の年間目標

①・様々な活動に取り組み、仲間に認められる事によって自信を得、自己発揮する。

②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。

③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。

④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。

・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。

・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。

⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標　評価・課題

１日１回はクラスの集まりを持ち、クラスの問題や、行事の内容なども皆で相談したり、考えたりすることを大切にした。活動や行事に追われることもあったが、子ども達との信頼関係を深めるため、一人ひとりと丁寧に関わることを心がけた。

やま組（4歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。

②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。

・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。

③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。

④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。

⑤・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標　評価・課題

一人ひとりとの関わりを大切にした。クラスでの取り組みの中で、いろいろな制作材料に触れる機会を多くするよう心掛けた。基本的生活習慣は繰り返し丁寧に伝え、身についてきた。朝の集まりや遊びの中で、また、劇ごっこなどの場で子ども同士で相談し、自分の思いを伝えあう機会を多く持った。

たんぽぽ組（3歳児）の年間目標

①　・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。

②　・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。

③　・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。

④　・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。

⑤　・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標　評価・課題

基本的生活習慣は、個人の成長に合わせながら、前半はゆとりを持って大人主導ですすめ、後半は子ども達自身が出来ることを増やすよう配慮した。自分の思ったことや感じたことを、相手に伝えるということをクラス内で大切にした。ごっこ遊びを年間通して楽しみ、想像することの面白さを実感し、子ども自身がイメージを広げる経験を多くした。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

① ・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持を出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。

② ・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。

③ ・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。

④ ・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。

⑤ ・大人やまわりのことに興味を持ち、みたて・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標　評価・課題

低月齢・高月齢２グループに分かれ少人数で過ごすことにより、生活面で個別に関わったり、一人一人の気持ちを受け止めることができた。安心して保育士と関わり、楽しさを共有した。

ちょうちょ組（1歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。

②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。

③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。

④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。

⑤・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標　評価・課題

２グループに分かれて過ごしたことで,一人ひとりとの信頼関係を築き、安心できる保育士のもとで欲求や甘えを十分に出して生活した。室内環境においても２部屋に分け、落ち着いて遊びこむ姿がみられた。手指遊びなどもう少し提供できれば良かった。

ひよこ（0歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。

②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。

③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適な生活ができるようにする。

・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。

・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ、幼児食への移行を図る。

④・優しく語りかけたり 発語や保育士とのやりとりを楽しむ。

⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。

・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標　評価・課題

一人ひとりの子どもと信頼関係を深め、個々の生活リズムを作りながら、安定した生活を過ごすことができた。看護師・栄養士・保育士間で報告・連絡・相談が細かく持たれ、同じ気持ちで子ども達の成長を見守ることができた。手作り玩具を整えた。環境では、危険な面など反省・考慮に努め、担任間で確認した。

つき・ほし組（延長保育）の年間目標

①・家庭的で落ち着いた雰囲気で保育を行う。

②・個々の子どもの状態を深く捉えて愛情を注ぎ、細かい配慮によって楽しい時間を過ごす。

年間目標　評価・課題

１日また１週間の中で、動の遊び・静の遊びの時間のメリハリをつけることを心掛け、毎日の生活の中で、子ども達自身が延長保育での生活が身につくよう援助した。週のうち延長３～４時間となる子が何人かいたため、夜だけでなく日中の様子も把握し、一人ひとりの心の変化に敏感に気づくことを大切にした。

にじ組（休日保育）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。

②・安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち、一緒に遊ぶ楽しさを知る。

③・一人ひとりのペースを考慮して、無理なく食事や午睡をする。

④・異年齢児間で、世話をしたり世話されたりする喜びを知る。

年間目標　評価・課題

０～５歳児と幅広い年齢が利用し、継続利用児も１０人以上となった。とくに乳児の申し込みが増え、生活リズムの異なる異年齢集団として、詳しい日案をたて保育にとりくんだ。また離乳食の対応で保護者・栄養士・保育士との綿密な打ち合わせの場を持った。

年末は利用希望が多く定員を５名ふやした。休日年末保育とも地域に必要とされ、認知されてきた。これからますます乳児のニーズが高まることが予想される。安全で多様性のある保育をめざす。

2010年度実施行事

4月	進級式・入園式
5月	保護者会　4、5歳児遠足
6月	プール開き
7月	夏祭り　七夕　笹もやし　5歳児お泊り保育
9月	プールじまい　敬老の集い　お月見会
10月	運動会　5歳児遠足
11月	3、4歳児遠足　5歳児プラネタリウム遠足　焼き芋豚汁会 ＊仮）おやじの会遊歩道づくり
12月	クリスマス会
1月	餅つき
2月	節分　保護者会
3月	雛まつり　卒園・終了式　5歳児さよなら遠足

年間行事　評価・課題

民営化４年目で内容が整理され、積み重ねができつつある行事も増えた。しかし、日常の保育に取り入れながら行事へ持っていく見通しはまだ弱く、行事に追われることもある。今年度表現の発表の場として新たにクローズアップしたアートギャラリーや、震災のため別々に行い、かえって落ち着いた印象の卒園式・修了式について、次年度も検討していきたい。

オ　栄養管理

集団給食施設栄養報告　　年２回

栄養素の質、量のバランスを考えて献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理　評価・課題

献立の配布を前月の２０～２５日頃行い、余裕を持ってはじめての食材を家庭で試してもらえることができた。園としての離乳食の進め方を確立し、家庭との連携を深め、個人に応じた離乳食を提供できた。しかし、１歳児低月齢の食事形態に対しては次年度の課題である。またクッキングを含めた食育計画も保育士との連携が不十分であり、次年度はお互いの専門性をより生かし、各年齢に応じた一貫性のある食育活動を実践していきたい。

カ　安全管理

非常災害時の避難訓練

引取り訓練の実施

安全管理　評価・課題

前園長の危機管理意識の高さを継承し、避難訓練計画など同じように行うことができた。今年度より、不審者の侵入に関する訓練もはじめた。まだ不備が多く検討が課題である。

(2) 職員の処遇

ア　職員構成

園　長	1名
主　任	2名
保育士	23名
看護師	1名
栄養士	3名（調理師含む）
パート職員（調理、見回りも含む）	13名
リトミック講師	1名（非常勤）
嘱託医	1名（非常勤）

イ　健康管理

健康診断　　年1回

細菌検査　　年12回

給食、職員・非常勤毎月1回

ウ　職員会議

・職員会　月1回
・運営会（園長、主任）月2～3回
・乳児、調理打ち合わせ会　月1回
・幼児打ち合わせ会　月3回
・キリスト教勉強会　隔月1回
・クラス打ち合わせ会　期に1回
・延長、休日打ち合わせ　月1回
・献立、離乳食打ち合わせ　月1回
・安全委員会　毎月1回

会議　評価・課題

会議時間を見直し、6時開始としたことで、時間を有効に使う意識を持つことができた。昨年に引き続き、月のカリキュラム検討に時間をさくため、隔月の園内研修の中に組み込んだ。クラスの課題、個々の子どもの関わりを共有できた。その他、安全委員会・土曜打ち合わせは定着し、機能を果たしている。安全委員会では危険個所点検のほか、ヒヤリハットをあつめ職員会議で報告検討の流れができた。土曜の打ち合わせでは、利用者に即したサービス内容を担当全員で確認・検討し、円滑に保育を行うことができた。

週案打ち合わせは、使用場所や散歩の体制に終始しがちで、本来の意味の週案の検討がなされず、課題である。

エ　研修

・園内研修（中間年間保育まとめを含む）
・法人内研修
・自主研修
・世田谷区の研修
・全国私立保育園連盟研修
・東京都社会福祉協議会研修　他

研修　評価・課題

今年度は法人保育ブロックの環境研修の担当園であったため、「環境を考える」という柱をおき、各保育室環境づくりの実践及び、小グループに分かれた遊具などテーマ別の検討を行った。また保育実践、振り返りにつながる記録の取り方を学び、次年度の柱とする。

外部研修は、新規採用者も４年目を迎え、保育をとりまく様々な状況の中で、必要とされることを学ぶ機会を増やした。法人階層別研修には１年に１回全員が参加し、ミッションを理解できるよう工夫したが、運動会と重なった中堅Ⅱだけが不参加であった。

オ　退職・福利厚生

社会福祉・医療機構　退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会　従事者共済会加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ　福利厚生倶楽部加入

2　施設管理

(1) 事務関係

ア　会計事務、管理事務

・小口現金出納事務　・実費徴収事務

・労務管理（出勤管理、有給休暇管理等）

イ　児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

・保育指導計画等の作成

・給食献立表等の作成

・健康診断記録表等の作成

事務関係　評価・課題

事務関係　評価・課題

新園長となり、主任２名と管理職３人体制で運営を行った。また、非常勤事務を週２日入れ、事務の整備をすすめる。法人本部と連携しつつ、新体制での運営がようやく形となったが、次年度は管理職２名と副主任及びリーダーが３名という新しい体制に早くも移行するため、事務内容のより充実と効率化が課題である。

(2) 設備関係

ア　固定遊具の設備点検

イ　老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係　評価・課題

窓ガラスに４か所ひびがはいるなど、老朽化による修繕が突然必要となる。プールの水漏れなど大きな工事は区が行ったが、区・法人どちらが行うのか毎回検討が必要であり、保育園・保育課・支所の３者の連携が必要。

(3) 備品関係

ア　備品購入

・テラス倉庫　・掃除機　・裏庭遊歩道材料他　・砂場用砂

イ　保育用品購入

・0 歳児用ベット　・幼児用いす 70 個　・玩具他

・一輪車練習用玩具　・砂場用トレーラー

ウ　給食用品購入

・食器　・調理器具他

エ　固定資産物品購入

・事務室用書類庫

(4) 災害対策

ア　避難訓練

毎月 1 回

イ　防災設備の点検委託

年 2 回（内、届け出 1 回）

ウ　非常食糧の備蓄

（全園児数＋全職員数）×3 食×（1 日～3 日）分

災害対策　評価・課題

・保育ネット烏山の合同避難訓練に参加し、地域の保育施設との災害時の協力体制を確認し、その後も関わりを増やした。

・震災の際予想より揺れがなく、支所との合同建物であることが幸いした。また甲州街道に近く徒歩で都心より迎えに来る保護者も比較的、短時間でくることができた。

3　地域社会との連携

地域社会との連携　評価・課題

- 地域交流（園開放）では、担当者の丁寧な対応や栄養士や看護師からの話し、リトミックなど好評で定員のない回は、ホールがいっぱいになる。次年度はより母親同士の交流も深まるような内容を検討したい。
- 出前保育では、遊びや遊具の紹介だけでなく保護者の子育て相談なども聞くことができ、続けていきたい。次年度は新しい公園へ行き、交流の場をひろげたい。
- 近くの認証保育所に 5 歳児が 2 名しかおらず、要望があったため、年長クラスとの交流を数回持った。地域の保育の質の向上を目指す保育ネット烏山の目的に少し近づいた結果となった。

社会福祉法人　雲柱社　ともしび保育園　２０１０年度（平成２２）年度　事業報告

記入者（施設長）
三　幣　典　子

2010 年度をふりかえって

年主題　「支え合う」　　法人事業理念　保育理念にそって

主任が替わり 2 名の新入職員が入り、また非常勤職員も年度途中も含め 5 名が新しくなった。職員構成メンバーがだいぶ替わったが、報告・連絡・相談を徹底しながらも、職員ひとりひとりがより良い信頼関係を築いていけるよう支えあってきた。モラルサーベイの意識調査でも、職員関係が良好であることが結果としてでたが、仕事上では慣れあいにならず法人の理念を現場に生かしていきたい。

子育て広場では、3 階多目的室をオープンスペースとして地域の親子に開放したり、出前保育も初めて取り組んだ。通常の保育をしながらの地域活動は、職員の体制を組むことが大変ではあったが、地域の子育て支援に貢献し、ともしび保育園を知ってもらう良い機会ともなった。

保育方針「神と人から愛されかけがえのない存在であることを知る」
「ひとりひとりを大切にする」

保育目標　神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にする子ども
１．ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
２．のびのびとしなやかに、からだを動かして遊ぶ子ども
３．基本的生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども
４．さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
５．自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じとり表現する子ども

配慮点　＊誰もが神と人から愛され、かけがえのない存在であることを知るように保育する。
＊子ども達一人ひとりの個性や権利を尊重して保育する。
＊保護者が安心して働くことができ、子ども達が心身共に健やかに育つよう保育する。
＊保護者とともに、地域との交流をもって子育ての援助をする。

事業の内容と展開

１．安全な環境整備
3 月 11 日の東日本大震災の時も、落下物や転倒物もなく安全に子どもを園内で待機させることができ、耐震面での安心を確認できた。安全委員が毎月チェックリストのもとに園内を点検して修繕や備品の購入をすすめてきた。今後はより、具体的で実用的なものを配備していきたい。

２．非定型一時保育の柔軟な受け入れ
江東区の待機児対策で認可・認証保育園が増え、一時保育室もこの地域で増えた。登録者数は 190 名近くだったにもかかわらず、就労で一時保育を利用していた家庭が認証に入所したため、定員 10 名を満たない日が多かった。利用者ニーズをリサーチして再検討していく必要がある。

３．子育てひろばの充実
月 1 回オープンスペースという形で自由に来園日を実施。月曜実施の時は 8 組の参加があった。

今年度より地域日誌を作成し、記録を残すことにより来園者の把握につとめた。

４．出前保育

「予約なしで気軽に行かれる」、と一時保育こあら組の親子が参加してくれた。公園に遊びにきている親子がほとんどいない時もあり支援センターや児童館にポスターを貼らせてもらい宣伝した。活動場所やプログラムの周知について検討が必要である。

５．職員研修

今井和子先生を年４回招いての園内研修を行う。一度、園に来て保育の様子を見てもらい、気づいたことを話してもらった中からともしびで大事にしてきた保育を改めて考えていく機会となる。また日誌の書き方で、各自の日誌を事前に送り、添削してもらい子どもの見方や日誌を書くことのポイント等を学ぶことができた。

６．第三者評価受審

（株）医療福祉経営研究所により第三者評価を 11 月に受審。「子どもの主体性を引きだす保育」「地域に向けた子育て支援」「働きやすい職場の構築」が強みとして出された。課題としては「保育のねらいを保護者と共有すること」「職員育成計画の作成」「ヒヤリハットデータの活用」が示された。利用者調査は 56.5%の回答率となり、毎年の調査に保護者の意識も低くなっている。課題改善に向けて 23 年度に取り組んでいく。

施設運営

（１）実施事業

ア　特別保育等

・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：１２名）
・産休明け保育実施
・延長保育事業（２時間延長）
・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施　５名

イ　地域子育て推進

・育児講座　年６回実施
・お年寄りとの交流　年１０回実施
・退所児童との交流　年６回実施
・小中高生の育児体験受入れ　年４０日間受入れ　延９２名
・育児相談　随時実施　年間１１０件
・保育所体験　年６０回　延４０組受入れ実施
・子育てサークル支援　年８回実施　延８３名
・子育て情報誌の発行　年１２回発行　６２４通
・育児困難家庭への支援　（３名受入れ在籍）
・外国人児童受入れ　（５名受入れ在籍）
・年末保育　１２／２９・３０実施　３名受け入れ

（２）児童の処遇

ア　クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ	０歳	４名	１２名		
りす	１歳	４名	１９名		保育アシスタント１名
うさぎ	２歳	３名	１９名		
こぐま	３歳	２名	２０名		
ぱんだ	４歳	１名	２１名		保育アシスタント１名
きりん	５歳	１名	１９名		保育アシスタント１名
こあら一時保育	1～５歳	１名	１０名	３名	保育アシスタント２名
その他		２名			
合　　計		17名＋4名	１１０名＋１０		パート職員１２名

イ　月別保育日数

４月	５月	６月	７月	８月	９月	合　計 ２９５日
２５	２４	２６	２６	２６	２４	
10月	11月	12月	１月	２月	３月	
２５	２４	２３	２３	２３	２６	

ウ　健康管理

健康診断

乳児（0歳児）　　毎　月　　一回

幼児　　年２回（　５月１３日、１０月７日）

歯科検診　　年２回　乳児（６月１７日、１１月１８日）幼児（　５月２０日、１０月１４日）

蟯虫卵検査　　年２回（　５月６日、１１月１５日配布）

年間目標　評価・課題

「のびのびとしなやかに自分のからだを動かして遊ぶ子ども」

- 月の目標、配慮、保健指導、保護者への働きかけやおたより等　年間計画に沿って保健業務を行った。受診に至る怪我は２２件。昨年と比べ約２倍の受診件数であったが、転倒など子ども自身の不注意での怪我が目立った。しかし、環境設定等、安全面について考え直すことが必要である。
- 感染症については、例年同様１～２月はインフルエンザに罹患する子どもが目立ち、７月はヘルパンギーナが目立った。その他の感染症は単発で発生し、年間を通して水痘と流行性耳下腺炎の罹患者はいなかった。
- 今後の課題は、安全面と危機管理の見直しを考えていく事が必要である。

エ　保　　育

各組の保育目標

きりん組（５歳児）の年間目標

① 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。

② 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。

③ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身につけ、理解して行動する。

④ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。

・ 異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。

・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。

⑤自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標　評価・課題

・様々な活動や行事を通して友達と刺激し合い、認め合いながら育ち合う姿が見られた。

・友達との生活や遊びの中でぶつかり合う経験をし、その中で互いの思いを伝え合ったり認め合うことを繰り返し、成長していった。

・自分たちで生活や遊びを進めていく力がつき、様々な場面で友だちと協力し合う姿があった。

ぱんだ組（４歳児）の年間目標

① 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。

② 友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。

・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。

③ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。

④ 人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っている事を話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。

⑤ 自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標　評価・課題

・意欲的にいろいろなことに挑戦する姿が多く見られたので、その姿を大事にして見守ったり、出来たことに対しては共に喜び自信へと繋がるようにしていった。

・みんなの前で話す、クラスで話し合うということを多く持ち、言葉で伝える楽しさを味わえるようにしつつ、伝えることの大切さも知らせていった。

・自分の思いと友だちの思いとの間で葛藤する姿があり、保育者の仲立ち支援を得て、少しずつ自分で気持ちをおさめたり折り合いをつけ、子ども同士で解決していくようになっていった。

こぐま組（３歳児）の年間目標

① 生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現せきるようになる。
② 外遊びを十分するなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
③ 食事・排せつ・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
④ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
⑤ 様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づきか感性を豊かにもつ。

年間目標　評価・課題

・基本的な生活習慣が身に着くように、保育者２人が分担して個々に声を掛けたり、必要に応じて介助するように心掛けていった。
・友だちとの関わりの中では、自分の気持ちを相手に言葉で伝えられるようになり、ごっこ遊びも様々な種類があったり、いろんな役になったりと遊びが広がっていった。
・身近な自然を通して様々なことを感じていた子ども達であった。自分達で調べることはあまりできなかった為、もう少し保育者が働き掛けてもよかったのではないかと思った。

うさぎ組（２歳児）の年間目標

①たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちをだせるとともに、自分のきもちを切り替えられるようになる。
②身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
③簡単な身の周りの活動を自分でしようとする。
④保育士を仲立ちとして生活や遊びのなかで、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
⑤大人やまわりのことに興味をもち、見立て・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標　評価・課題

・イヤという気持ちを受け止めてもらうことで、また、自分の中で満足するまでやることで納得し「～だけど～してみよう」という風に気持ちを切り替えて次の行動に移ることが出来ていた。
・「同じ遊びをする友達」から「気の合う友達」と一緒に過ごすことが楽しくなり、友達関係や遊びが広がっていった。経験したことがごっこ遊びにつながり発展して楽しむ姿もあった。
・好きな物や使っていた物に対してこだわりの強い時期であった。子どもの所有意識をどこまで大切にしていけるかを何度も話し合った。3 期になると「貸して」「あとでね」「いいよ」とやりとりに随分変化が見られ成長を感じた。

り　す組（１歳児）の年間目標

①一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
②保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。

③安心できる保育士との関係のもとで食事・排せつ等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
④安心できる大人に見守られる中で、他のこどもにも関心を持ち、関わろうとする。
⑤身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標　評価・課題

・園内研修で学び、くるみ・まろんのそれぞれのグループの分かれての少人数保育を大切にしていった。その事により個々の甘えや欲求に丁寧にこたえていくことできた。
・まろんグループは食事時間を早め、眠くなる前に食事が済んで十分な睡眠時間を確保できた。
・くるみグループは、その時どきの子どもの気持ちを大切にしながらの保育を心がけていった。
・手つなぎ歩き（散歩）も早くから取り入れ、年明けには歩いて散歩に行くようになり、道中で立ち止まって花や動物、工事現場等、興味深くみたり探索活動を楽しんでいった。

ひよこ組（０歳児）の年間目標

① 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
② 安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行なう。
③ 保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
・ 一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排せつなどの生理的欲求をみたし、情緒の安定を図る。
・ 個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食に慣れて幼児食への移行を図る。
④ 優しく語り掛けたり、発音やなん語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
⑤ 聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標　評価・課題

・担当制を大事にし、甘えや欲求を十分に受け止め、個々の生活リズムを大事にしながら、生活面を中心に担当保育者が丁寧に関わっていくことで、安心して過ごすことができた。
・毎日の掃除や遊具の消毒などを徹底することで、感染症などを大幅に防ぎ、快適な生活ができた。
・保育者同士の連携を深め、声を小さくしたり無駄のない動きをする事で、子ども達が動揺せずに過ごせるようにしてきた。

こあら組（一時保育）の年間目標

① 一人ひとりの子どもの欲求を十分満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
② 保育士に見守られながら、様々な生活や遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。
③ 一人ひとりの家庭での生活リズムに考慮して、無理なく食事や午睡をする。
④ 安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち一緒に遊ぶ喜びを知る。
⑤ 身の回りの様々なものを見たり、触れたりして、自然や事象に興味・関心をもつ。

年間目標　評価・課題

・昨年度よりも仕事で一時保育を利用する家庭が減ったため、登録者数が１９０名近くだったにも関わらず、定員が１０名に満たない日が多かった。来年度、利用者ニーズをリサーチし、一時保育のあり方を再検討していく必要がある。
・ひとり一人が安心できる場所になるよう保護者との信頼関係を築きながら丁寧に保育をしていった。
・子ども同士で顔や名前を覚えて､会えるのを楽しみに子ども同士が育ち会う姿が見られた。初めて来た子が泣いていると､慣れてきた子が頭をなでる姿も見られた。

２０１０年度実施行事

４月　１日　入園式（83,864 円）
５月２１日　親子遠足　(川口グリーンパーク)（204,750 円：バス代 118,000 は保護者徴収））
６月　７日　子どもの日花の日礼拝　(8,400 円)
７月　４日　夕涼み会　（20,000 円）
　　１５～１６日　年長お泊まり保育（ファミリーロッジ五日市）（117,937 円）
　　２８～３０日　小中学生キャンプ（五日市青少年旅行村）（546,000 円参加者徴収）
７月２１日～８月３１日　中高生ボランティア受け入れ
９月１６日　祖父母会（14,674 円）
１０月　９日　ファミリーデー（123,722 円）
１０月２２日　いもほり遠足（幼児）（215,877 円）
１１月　１日　収穫感謝祭
１２月１１日　クリスマス礼拝･祝会（206,725 円）
　　１７日　地域ともしびクリスマス
　１月　６日　餅つき会（7,178 円）
　２月２５日　大きくなったね遠足（36,000 円）
　３月１９日　卒園式　卒園を祝う会　（274,800 円）
　月例行事　誕生会　（プレゼント 350 円×110 名）

年間行事　評価・課題

・例年通りの行事を行ったが、夕涼み会のイベントは職員有志による子ども向けコンサートを行い、外部イベントショーを呼ばなくても「子どもにとって身近な先生たちのコンサートだったのでよかった」と好評であった。
・卒園式も震災後であったが予定通り無事行うことができた。

オ　栄養管理

集団給食施設栄養報告　　年４回

食事年間目標

１食べ物の大切さ、食事の楽しさ、感謝する気持ちを伝える。
２クッキングを通して作る事の楽しさを知る。
３食育を通じて「食」に興味を持つ。

栄養管理　評価・課題

・食物アレルギー児に対して特に配慮（除去食・代替食）し、保育士と調理とで連携を密にとり、誤食がないよう気をつけていった。
・食育として栄養３色ボードを作り、３つの栄養素と身体についての関わりに興味を持つよう伝えていくことが出来た。
・子どもと一緒に食事をする中で、食べることの楽しさやマナーを伝え、日々の食事を大切に心がけることができた。

カ　安全管理

救急救命講座　ＡＥＤの使い方講習会　２月４日（大人対象）

非常災害時の避難訓練　毎月一回

引き渡し訓練の実施（９月１日）　　緊急時・災害時カードの導入　緊急メールの活用

危機管理マニュアルの整備

安全管理　評価・課題

・昨年に比べ、病院に受診する怪我が２倍となった。特に骨折や２カ月近い通院となるものもあり残念であった。事故記録簿やヒヤリハットを職員みんなで共有し、事故防止につなげていきたい。
・簡単メールは震災後は特に頻繁に活用し、保護者との速やかな連絡に役だった。
・門扉のオートロックがたびたび故障しそのたびに修理してきたが、今後は門扉の取り換えも含んだ修繕をしていきたい。

（２）職員の処遇

ア　職員構成

園　　長	１名
主任保育士	１名

副主任保育士　　１名
保　育　士　　１５名
調　理　員　　２名（栄養士含む）
看　護　師　　１名
嘱　託　医　　２名（非常勤医師･歯科医師）
嘱託職員　　１名
非常勤職員、パート職員　　１７名

イ　健康管理

健康診断　　年　２回（　５月 14 日、１０月１日）
細菌検査　　年１２回　（職員全員）

ウ　職員会議

定例会　　毎月１回　　乳児･幼児カリキュラム会　毎月１回
行事前打合せ会（随時）
期別反省会（年３回）　年度末会議６回

会議　評価・課題

・毎月 1 回の職員会は３時間以上かかることが多かったが、昨年に比べると協議内容を絞り超過勤務を減らすことができた。年度末の会議も震災後の登園自粛で子どもの出席が少ない時にクラス会議や乳児・幼児会議を日中に行い残業をなくした。
・昼間の委員会も文書を整理して、検討事項を集中して話し合うようにしていきたい。

エ　研修計画

・園内研修　年５回
・法人内研修　　階層別・職種別研修
・私保連カウンセリング研修　４名参加
・厚労省・江東区保育課・全国保育協議会･東京都社会福祉協議会・全国私保連
　東京民保協などによる研修

研修　評価・課題

・園内研修は外部講師として、今井和子先生を招いて日誌などの記録の取り方や乳児保育を学び、課題が多く与えられた。23 年度も引き続きスーパーバイザーとして来ていただき、1 歳児 2 グループの保育や「気になる子ども」のかかわり方の事例研究をしていく。
・今年度は自主研修に参加する職員が多く意欲が感じられた。特に子ども文化研究所の年齢別保育に参加し個々のスキルアップにつながった。
・第三者評価に改善課題にも挙げられた、職員個人の研修計画の作成に取り組んでいく。

オ　退職・福利厚生

社会福祉・医療機構　退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会　従事者共済会加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ　福利厚生倶楽部加入

2　施設管理

（1）事務関係

ア　会計事務、管理事務

・小口現金出納事務、・実費徴収事務

・労務管理（出勤管理、有給休暇管理　等）

イ　児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

・保育指導計画等の作成

・給食献立表等の作成

・健康診断記録表等の作成

事務関係　評価・課題
・事務の非常勤職員を雇用したことで、週に 2～3 回は一時保育料などの現金を銀行に預け入れることができ、昨年の指導検査の指摘事項を改善することができた。 ・管理職(園長・主任)の仕事量を副主任や事務職員と分散させ、事務仕事の負担を軽減し、保育内容や職員育成により力をいれていきたい。

（2）設備関係

ア　固定遊具の設備点検

・砂場の砂を入れ替えた

・園庭の水道を 1 本はずし、砂場周りの動線を広くした。

イ　設備の点検・修繕

設備関係　評価・課題
・駐輪場にライトを設置したことで、夕方や夜の送迎を安全に行えるようになった。 ・エレベーターの定期点検の業者委託をした。子どもが使用することはないが、3 階や屋上に荷物や家具を運ぶために使用。3・11 の震災後はすぐに業者がメンテナンスに来て安全を確認した。 ・幼児クラスのふとん棚の下段扉が 3 クラスとも外れてしまう。布団の大きさぎりぎりにした設計のミスではあるが、何度か修繕しても外れるので、扉そのものを別のものに変えていく必要がある。

（3）備品関係

ア　備品購入

・　主任用パソコン（126,800 円リース）

・　記録用ビデオカメラ（98,000 円）

イ　保育用品購入

・　新年度準備用品　（361,245 円）
・　各クラス遊具　（95,344 円）
・　１、2 歳クラス遊具棚

ウ　給食用品購入
・新年食器類の購入　（56,560 円）

エ　固定資産物品購入
・避難用テント　（130,326 円）
・1 階テラスすのこ（タッチマット）（220,000 円）

備品関係　評価・課題
・年度初めに 1 歳児クラスと 2 歳児クラスの遊具棚を購入し、日常に使用する机や椅子も不足分を追加する。また、幼児クラスのテラス用のすのこが仮設時代からの古いものだったので、子どもの足に安全なタッチマットに変え、環境も良くなった。

（4）災害対策

ア　避難訓練
毎月 1 回
避難降園訓練（引き渡し訓練）9 月 1 日

イ　防災設備の点検委託
年２回（内、届け出１回）

ウ　非常食糧の備蓄
・スーパー保存水 1.5ℓ8 本×8 ケース・アルファ米５Ｋ×４箱・炊き出しセット五目御飯５k×２
豚汁 30 人分×３缶・白粥４０ｇ×２４袋・保存用ビスケット８０食×２缶
非常用備蓄おやつ　７袋×７個　その他使い捨て容器（お椀・皿・スプーンなど）
防災用品の購入　（162942 円・避難用テント含む）

災害対策　評価・課題
・3 月 11 日の東日本大震災では、子どもを安全に避難待機させて緊急メールで速やかに保護者に知らせることができ、日ごろの訓練が役に立った。その後も余震や放射線への対策は江東区や法人の指示に沿いつつ、災害時の対応について決めたことを、職員と保護者に伝えている。今後も危機管理のマニュアルを細かく作成し災害に備えていく。

３　地域社会との連携

・　コーラスともしび（中高齢者コーラス活動）との交流、園行事の参加
・　東陽･大島･深川北・南砂子ども家庭支援センターとの連携
・　近隣の中学は２砂中と江戸川区の中学の職業体験をうけいれた。都立高校はあまり意欲的でない生徒が奉仕の時間の単位の関係で保育ボランティアに参加したような子もいて、課題が残った。

地域社会との連携　評価・課題

・元園長の芳賀先生より、職員向けキリスト教勉強会を月１回昼に行った。アドベント礼拝や地域ともしびクリスマスでも礼拝説教を依頼し引き続きともしびを支えてもらった。
・今年度から第五砂町小学校から５・５交流（五年生と五歳児）と称して、五年生が保育園に来たり年長が学校探検や学校給食を一緒に食べさせてもらったりして、積極的な学校との交流ができた。小学校との連携という保育所保育指針のねらいに沿った取り組みとなった。
・発達センターＣＯＣＯとは、障害児が在籍しなくなったので臨床心理士が来園する機会がなくなり残念だった。一時保育の利用者にＣＯＣＯに通う子どももいるので連絡はとっていきたい。

４　その他（特記）

・昨年は近隣から子どもの声の苦情や自転車の止め方による苦情が多くあったが、２２年度は苦情がはいることがほとんどなかった。行事のたびごとに挨拶に行き、クリスマスや卒園式には祝い菓子を配り、近隣や町会に支えられていることの感謝を表し保育園を理解してもらえるよう今後もつながっていきたい。

社会福祉法人　雲柱社　光の園保育学校（平成２２）年度　事業報告

記入者　（施設長）
園長　　酒井　眞理子

2010 年度をふりかえって

☆　光の園保育学校は「キリストの愛により共に育ち合う」ことを保育方針としている。子どもたちの保育を通して、子どもだけではなく、親も家庭も職員も、そして地域も、キリストの愛によって共に育つことをめざしている。そうした中で子どもたちの「神と人から愛されていることを知り自分や周りの人を大切にできる子ども」としての成長を願い、大切に保育していることを、新入園児説明会や入園式の時に保護者の方に伝えている。又、園だよりやクラス懇談会、父母の会等を通して全園児の保護者に伝えてきた。

☆　今年度はモラールサーベイ委員会（安全衛生委員会）を立ち上げ、管理職と委員会とが学びつつ労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図ることができた。また、職員の安全と健康を（メンタルヘルスも含む）を確保していくことができ、職員全員でゴールデンルール「誰とでも目を合わせて挨拶しましょう」を実行する。さらに、各クラスのカリキュラムの話し合いの時間や事務仕事の時間が取れるように見直しをしてきた。

☆　第三者評価を（職員、保護者アンケート）実施し、その結果をふまえて全職員で保育の質の向上に繋がるよう話し合い、課題の共通理解を図った。利用者対応に関しては、全職員が丁寧に寄り添う関係を大切にし、利用者にとっての最善の利益を考え合いながら保育をしてきた。保育は一人で負うのではなくチームワークでしていくことを確認し、管理職、保育士、看護師、調理、事務がそれぞれの役割を担いながら連携していくことの大切さを学び合うことができた。

☆　環境整備として、プレイルームの天井や壁をぬり、流しの改造やドアやクローゼットを設置し、地域活動の場所や遊びの場として安全に使用できるようにした。又、全クラスのカーテンを明るく、薄手のものにしたことにより、明るい雰囲気の保育室になる。

☆　地域との新しい連携

・本所賀川記念館の三法人で話し合い、それぞれの事業内容の報告や地域と連携できること等を考えていくことを目的とする「地域連絡懇談会」を立ち上げる。（年２回）
ご案内機関等―――近隣の小、中学校、町会長、民生委員、光の園父母の会、記念館父母の会、中ノ郷、ボランテイアグループコスモス会、民生委員、児童指導専門員、理事長等
今年度２回とも地域の方々に沢山参加していただき、有意義なときを持つことができた。

・幼、保、小、中、連絡協議会に参加し地域の学校との連携を密にしていった。（横川小学校にて）

１　施設運営

（１）実施事業

ア　特別保育等

・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：９名）

・産休明け保育実施　（４３日から）

・延長保育実施（２時間延長）
・延長保育事業（零歳児の受入れ）
・障碍児保育事業実施（特児対象：３名、その他：１名）
・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ　地域子育て推進

・育児講座　年６回実施
・お年寄りとの交流　年２５回実施
・退所児童との交流　年８回実施
・小中高生の育児体験受入れ　年１１日間受入れ
・育児相談　随時実施
・保育所体験　年１１回・３６人受入れ実施
・調理講習会　　年３回
・外国人児童受入れ　４名受入れ在籍
・年末保育　１２／２９実施　　３５名　・　３０日　１８　名
・在宅支援　パートナー登録者　　５９名
・出前保育　年７回　　１回につき約　９２　名・　約４６　組
・ナースリールーム　　年１５回　　１期５回１５組、２期５回１４組、３期５回５組

（２）児童の処遇

ア　クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考：心理相談
つぼみ組	０歳	６名	１８名	０名	
もも組 さくら組	１歳	４名	２４名	０名	
たんぽぽ組 すみれ組	２歳	４名	２４名	０名	２
ちゅうりっぷ組	３歳	２名	２８名	０名	１
ばら組	４歳	２名	２８名	０名	１
ゆり組	５歳	２名	２８名	０名	
	その他	リーダー（０才　乳児幼児）			
合　　計	２２名	１５０名	０名		

イ　月別保育日数

４月	５月	６月	７月	８月	９月	合　計 ２９３日
２５日	２３日	２６日	２６日	２６日	２４日	
10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	
２４日	２４日	２３日	２３日	２３日	２６日	

ウ　健康管理

健康診断

乳児　　毎　　月　１回

幼児　　年２回（　５　月、１０　月）

歯科検診　　年２回（　５　月、１０月　）

蟯虫卵検査　　年２回（　６　月、１１　月）

エ　保　　育

保育目標（保育ブロック統一）

１．ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども

２．のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども

３．基本的生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども

４．さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども

５．自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じ取り表現する子ども

各組の保育目標

ゆり組（５歳児）の年間目標

①・さまざまな活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。

②・さまざまな遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しみ、新しい体験にチャレンジする。

③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。

④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。

・　異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。

・　人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。

⑤・自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標　評価・課題

前年度より子どもたちの活動をボードに貼ることを引き継いだことで、子どもたちも見通しを持ち準備し活動することができた。休みの後経験したことを友だちの前で話し、伝える機会を作っていくことで子どもたち一人一人の自信へと繋がっていった。異年齢のクラスへ遊びに行くことで年下の友だちを労わる姿も見られた。挑戦意欲が高く一つひとつの行事を通し、仲間と作り上げる達成感を感じている姿が見られた。１対２８人で過ごす時の戸外活動の取り組み方（散歩の行き方や園庭の使い方）を他クラスとどう協力していくかに課題があると感じる。

ばら組（４歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。

②・友達と遊ぶ喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。

③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。

④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。

⑤・自然や身近な事がらに触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標　評価・課題

子どもたちと生活、遊び、友だちとの関わりなど皆で話し合い考えていくことを大切にしてきた。行事では、子どもたちが「やりたいこと」を話し合い決めることができ、皆で考えたことで、プロセスも大切にでき、当日は精一杯それぞれの力を発揮でき、その後の余韻もみんなで楽しむことができた。年長児クラスへの憧れも１年間通して感じていくことができ、一人ひとりが年長児といることで、思いやり、優しさ、強さを教えてもらうことができたように思う。自分たちも早く同じように小さい子たちのお世話がしたいという気持ちが強くなってきている姿がみられ成長を感じた。

ちゅうりっぷ組（３歳児）の年間目標

①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。

②・外遊びを十分するなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。

③・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。

④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。

⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標　評価・課題

１２名ずつの２クラスから２８名の大勢の集団になった。自分の持ち物が増え混乱することもあったが、生活リズムや身辺自立を掴むまで１４名ずつの２グループでの活動をしていくことで徐々に出来るようになり、自信へと繋がっていった。行事など年中組・年長組と関わることも多く共に楽しい経験ができたのはよかった。今年度より３期にぶどうの会（地域のお年寄りの方との交流）にも参加でき、楽しい交わりができたので来年度にむけ、良い経験となった。

たんぽぽ組　すみれ組（２歳児）の年間目標

①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せると共に、自分の気持ちを切り替えられるようになる。

②・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。

③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。

④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。

⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたて・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標　評価・課題

生活面では前期は月齢差、個人差が大きいので個別に関わることを大切にし、後期は自分で出来た達成感を味わい自信につながるような、さりげない援助を行ってきた。言語面では、上手く言葉に表現できない子どもに対して、代弁し、相手に思いが伝わるように見守り、自己主張も強くなる時期なので待つゆとりを持ち、受け止めながら子どもが自分の力で表現できるように援助してきた。友達関係では、イメージを共有し遊ぶ姿が見られるようになり、保育者も一緒に遊びに加わることで遊びが展開し、その中で、ルールや約束、順番等を伝えることで子どもたちもいろいろな約束事などを身につけることができた。

2 歳児は２クラスあるので、担任同士がいろいろなことを共通理解し、一つひとつの経験を柔軟に子どもたちとの関わりの中で行っていくことを大切にしてきた。

もも組　さくら組（１歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。

②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。

③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。

④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。

⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標　　評価・課題

子どもたち一人ひとりの気持ちを受け止め、その思いが友にも伝わるように言葉にならない思いを保育者が言葉にしていくようにした。保育者も共に遊びを展開していく中で、「楽しい」と友だちと感じ合う機会を大切にしてきた。又、子どもたちが見通しを持って動けるように同じ生活の流れを心がけてきた。子どもが安心できる「人」と「場所」を築いていく為、担任同士で子どもの姿の気付きなど、日々伝え合って保育をしてきた。

つぼみ組（０歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。

②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行なう。

③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。

・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。

・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品になれ幼児食への移行を図る。

④・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。

⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。

・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標　評価・課題

ゆるやかな担当制をとることで、子ども一人ひとりの甘えや欲求を細やかに受け止め発達を促すことができた。冷凍母乳も保護者のニーズに応え内容を見直し、期間を３日間にのばし対応した。低月齢、高月齢に分かれているが、１８名の子どもたちを全員で見守るように心掛けてきた。できるだけ戸外に出て自然を感じたり、地域の方々との関わりが持てるようにしてきた。壁に可動式のいじり玩具を設置したことにより、室内遊びを充実することができた。発達に応じて玩具、絵本等の入れ替えをし、自ら興味をもって動き出したくなるように環境を整えてきた。食事に関しては栄養士と担任が連絡し合い食材の形態等、個々に合わせて離乳食を進めることができた。又、アレルギー対応についても看護師にアドバイスをもらい、細やかな対応ができた。

２０１０年度実施行事

４月　　１　日　入園式　　１２日　イースター礼拝

５月　　２１日　幼児親子遠足（３，４，５歳児）

６月　　１２日　だんご虫広場（１年生の会）　１５日　子どもの日花の日

	２９日　プール開き		
７月	８～９日　お泊り保育（年長）	１６～１７日　お泊り保育（年中）	
９月	４日　創立記念日	１０日　祖父母招待会	
１０月	９日　ファミリーディー	２２日　芋ほり遠足（５歳児、４歳児）	
１１月	３日　バザー		
１１月	１８日　収穫感謝祭	１９日お料理パーテー	
１２月	１８日　クリスマス礼拝	卒園児クリスマス	２７日　餅つき
２月	２５日お別れ食事会		
３月	１２日　卒園式	２３日　進級式	

月例行事　誕生会

年間行事　評価・課題

5月の幼児親子遠足については、3、４、５歳児クラス総勢176名で昭和記念公園にバスで行く。３歳児は４，５歳児との体力の差があるので、同じようにすることの難しさがあるので、公園内のプログラムを工夫することで楽しむことができた。人数が多いことに関しては来年度の課題として考えていく。他の行事に関しては、楽しく無理なく行うことができて良かった。クリスマス礼拝、ページェントのビデオ撮影を保護者が撮らないようにし、自分の目を通し、心をこめて参加できたことは、子どもと同じ気持ちになれて大変良かった。

オ　栄養管理

集団給食施設栄養報告　　年４回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理　評価・課題

- アレルギー児の代替え食対応が増えているので、個人献立表を作成し毎週行っているカリキュラム会議でも確認し合ったり、調理室内での朝のミーテイングを密にして間違いがないようにしてきた。
- 調理と保育との連絡を密におこなった結果、間違いがないようにトレーを使用することにした。
- 食育やクッキング保育は年間カリキュラムをたて調理と保育とが連携し、見通しを持って進めることができた。今年度も他園で好評だった一匹丸ごと、さんまや金目鯛を焼いたり煮たりして食べ、食育という視点からでも良い経験となった。

カ　安全管理

交通安全教育　　随時、各クラス散歩の度に行なっている。

非常災害時の避難訓練　（　９月　１日）

引き渡し訓練の実施（９月　１日）

安全管理　評価・課題
環境整理マニュアルに基づいて定期的に点検をしている。 引き渡し訓練を今年度も、消防員立会いのもと、横川公園でおこなった。臨場感がありいつもより、保護者の協力も多く得られた。保護者の方も広域災害には危機感をもっているので、カンタンメールや園便りにも、避難場所等を詳しく記載した。

（２）職員の処遇

ア　職員構成

園　　長　　１名
主任保育士　　１名
保　育　士　　２２　名
調　理　員　　３　名（栄養士含む）
看　護　師　　１名
嘱　託　医　　２　名（非常勤医師、歯科医師）
嘱　託　　１名（９月から３月）
臨時職員、パート職員　　２７　名

イ　健康管理

健康診断　　年　１　回
細菌検査　　年６　　回
給食、０歳児調乳担当のみ毎月１回

ウ　職員会議

定例会　　毎月　１　回
行事前打合せ会（随時）
０歳児、乳児、幼児、食事等各カリキュラム会議(月１回)
期別反省会（年　３　回）

会議　評価・課題
会議の目的にあわせ、会議の前に打ちあわせの時を作り工夫できたことがよかった。法人の事業基本理念や保育ブロックの事業目標等を会議の初めにみんなで唱和することで、理念や目標の共有化ができたことは良かった。課題となっていた、保育当番のため会議に出られない職員に関する会議内容の伝達の方法として、議事録を読み確認をしていくことで、全員が会議内容を把握できるように徹底している。会議時間を配分しながら時間内に終了できるように、主任、リーダー会でアジェンダーの確認をし、工夫することで定刻内に終わることも多くなってきている。

エ　研修計画（研修費用）

・園内研修　　年５回　　約５万円
・法人内研修
・保育団　　全国私立保育連盟研修参加

墨田区保育協会主催の研修（年４回）約２万円
東社協の研修

研修　評価・課題
園内研修がスキルアップにつながるように外部講師による研修や看護師による研修内容を充実し学んだ。（リトミック、わらべうた、環境チエック、救急法、発達障害と児童虐待等）特に社会の現状認識や子どもへの関わり方や保護者との関わり方の対応について学びあうことができた。

オ　退職・福利厚生
社会福祉・医療機構　退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会　従事者共済会加入
株式会社リラックス・コミュニケーションズ　福利厚生倶楽部加入

２　施設管理

（１）事務関係

ア　会計事務、管理事務
・小口現金出納事務、・実費徴収事務
・労務管理（出勤管理、有給休暇管理　等）

イ　児童処遇事務（保育、給食、健康管理）
・保育指導計画等の作成
・給食献立表等の作成
・健康診断記録表等の作成

事務関係　評価・課題
・　園長、主任、事務パートでの職務分担を話し合い実践を重ねることで、事務作業に追われながらも対応できるようになってきている。 ・　職員の事務作業に関して、PC 対応が必要なものが増えてきているので、スムーズにいくよう DVD も含めて PC を購入した。

（２）設備関係

ア　固定遊具の設備点検
園庭アスレチックの点検

イ　老朽設備の点検、老朽箇所の更新
・　保育室サッシの修理
・　１歳児、２歳児クラスの畳を新しくする。
・　プレイルームのリフォームを行う。
・　２階ベランダ格子扉の修理

・　１階、２階のトイレの窓の網戸を設置する。
・　１歳児クラス（もも）の布団入れを新しく設置。
・　２歳児クラス（すみれ）の布団入れの扉付け

設備関係　評価・課題
・地域活動に使用しているプレイルームのリフォームをして、整理整頓をし、安全に使える場所となる。窓,扉のサッシ等継続して設備の点検しながら補修を行なっていく必要がある。

（３）備品関係

ア　備品

布団入れ（もも）

イ　保育用品購入

・　各クラス用遊具

ウ　給食用品購入

・　食器

エ　固定資産物品購入　　なし

備品関係　評価・課題
事務用品のコピー機を新しくリースしたことで、調子がよくなり、事務作業が円滑になると共にコピー使用料のコストも安くなる。

（４）災害対策

ア　避難訓練

毎月１回

イ　防災設備の点検委託

年２回（内、届け出１回）

ウ　非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×３食×（１日～３日）分

災害対策　評価・課題
備蓄している物の賞味期限を定期的（年１回の引き取り訓練に合わせて）に点検している。 防犯訓練を年２回行なったが、建物の構造上、誰でも出入りが出来るので、現在すぐできる所から見直しピロティへの鍵や２階のセキリテイを時間により施錠するようにした。今後も継続して考えていく必要があり大きな課題である。３月１１日の大震災後建物の点検、ヒビが入った園庭（砂地）や壁や通路脇に隙間があいてしまった所等を専門家にみていただく。

３　地域社会との連携

・東駒形教会、賀川記念館との連携　、法人地域関係機関との連携
・「どすこいくらぶ」のボランティアとの定期的な交流
・　墨田福祉保健センター「みつばち園」「横川小学校」とのネットワークを強めていく。
・　子育て支援総合センターとの連携を必要に応じておこなっていく。

地域社会との連携　評価・課題

・　館内の三法人で連携しながら館設備のことや事業内容等について月１回報告、検討し合っている。行事関係や子どもや職員の礼拝等大きな支えとなっている。
・　新しく地域連絡懇談会をおこなった。（５月、２月）
・　地域の横川小学校との就学前プログラム等の連携を今年度は６回持ち、年長組の子どもたちと小学校の子どもたちや先生と豊かな交流を持つことができた。
・　幼,保、小、中の連絡協議会に参加し、互いの状況や、情報の共有、相談等の連携を作り繋がりを大切にしている。
・　これからも子どもをとりまく地域との関わりが広まり繋がり、顔が見える関係が構築できるように関わりを作っていくことを大切にする。

４　その他（特記）

＊３月１１日の東北地方太平洋沖地震における、光の園の対応として１４時２６分より（地震発生時）保育室での避難態勢をとる。何度か余震があるたびに放送をし、安全確認をおこなった。交通機関も止まり、電話もパンク状態になったので、カンタンメールで保護者に子どもの無事を伝えて、お迎えができる方からきていただく。人数が少なくなった時間から１階の事務室横の４，５歳児クラスにてお迎えを待つ態勢を取る。（懐中電灯の準備もしておく）
何時のお迎えになるかわからないので、炊き出しをし、おにぎり、サンドウイッチ、お茶の準備をして、残っている子どもたち、お迎えにこられた保護者の方に提供する）　最終お迎えは２１時３０分。その後０歳児親子が２３時３０分から翌１時３０分まで自宅に入れなくて避難してくる。実家の茨城に祖父母が車で迎えに来る。当日園長、主任、職員２名が交通不通のため園に泊まる。

＊　災害対策委員を設置する
　構成委員　－　園長、主任、リーリーダー、分園リーダーとする。

＊　保育園の斜め前に他法人が平成２３年度４月より新設園を開所するので服部理事長と園長が竣工式、開園式に出席する。

社会福祉法人　雲柱社　黎明保育園　2010（平成 22）年度　事業報告

記入者　上松　恵子

2010 年度をふりかえって

2010 年度は施設長がかわり、新しい体制でスタートする。今までの保育を大事にしながら、保育、事務、労務、学童との連携など見直しをしていく一年であった。就業規則など、法人のルールに則って、適正な運営を心掛けた。職員にとってはとまどうこともあったと思うが、いい方向へ変えていくため、ということで理解を求めた。今年度は年度途中の職員異動がほとんどなく、安定して保育を行うことができた。

モラルサーベイでのアンケート結果では職場への満足度が低い数値であった。有志による委員会によって「より良い職場づくり」を考え、職員全員で取り組むことも行い、自分たちの問題として前向きにとらえるようになった。

一時保育は多くの利用があり、在宅での子育て家庭への支援が益々必要になっている。毎月の出前保育は定着してきているが、午前中の学童室を利用しての月 1 回ひろば活動（子育てサークル支援）は参加者が少なかった。その他、子育て講座なども含めて地域活動をいろいろ行ってきたが、地域のニーズを考えて、内容、時間、場所など見直ししていくことが課題となった。

大規模な修繕として、２階テラス修繕を行う。これにより安全にテラスで遊べるようになる。また、東日本大震災発生時、テラスから避難することができた。修繕が終了していたので子どもたちの命を守ることができ、安全管理の徹底を痛感させられた。

1　施設運営

（1）実施事業

ア　特別保育等

・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：10 名）
・産休明け保育実施
・延長保育実施（1 時間延長）
・延長保育事業（1 歳以上児受入れ）
・障がい児保育事業実施
・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
・一時保育事業

イ　地域子育て推進

・小中高生の育児体験受入れ　年 20 日間受入れ
・育児相談　随時実施
・保育所体験　年 20 回・20 人受入れ実施
・出前保育　年 10 回実施
・子育てサークル支援（ひろば）　年 6 回実施
・子育て情報誌の発行　年 10 回発行
・育児困難家庭への支援（1 名受入れ在籍）
・年末保育　12/29～12/30 実施

（2）児童の処遇

ア　クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ	0 歳	3	10		
うさぎ	1 歳	3	15		
こあら	2 歳	3	18		
ひつじ	3 歳	2	19	1	
ぱんだ	4 歳	1	19	1	
きりん	5 歳	1	19		
一時保育		2	10 名定員		
合　　計		15	100		

イ　月別保育日数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計 297 日
25	24	26	25	26	24	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
25	24	26 年末有	23	23	26	

ウ　健康管理

健康診断

0 歳児　　毎月

乳児　・幼児　　年 2 回（6 月、11 月）

歯科検診　　年 2 回（6・11 月）

蟯虫卵検査　　年 1 回（5 月）

エ　保　　育

各組の保育目標

きりん組（5 歳児）の年間目標

・心身ともに健康な体で意欲的に過ごす　・友達同士認め合い、力を合わせて活動する

・自分で考え表現する　・自律して生活する　・イエス様と共に生きる

年間目標　評価・課題

クラスという集団の中で仲間と共に一緒にすごし、遊び、みんなで一つのことをやりとげ、楽しむことを大切にしてきた。宿泊保育や運動会、聖誕劇などを通して互いを認め合いながら、経験を重ね、仲間という意識を強め、活動を進めることができた。自分で考え行動をする機会を多く持ち、生活の中での自律を意識してすごすことで、年長児としての成長がみられた。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

・友達と一緒に充分遊ぶ。・自分の持っている力を出し合って行動する。
・物事に関心を深め、考え表現する。・基本的生活習慣が身につく

年間目標　評価・課題

グループ活動、ゲームなどを通してグループ内の仲間意識を持てるように促してきた。また、クラスの集まりでホワイトボードに文字を書き、言葉を音と形で伝えていった。小学生の兄姉がいる児が多いので興味を持ってやりとりできた。手は何をするために神さまがくれたのか？など身体、心の存在、働きなどを考えあうことで自分の身体や心について自覚していけるようになった。

ひつじ組（3歳児）の年間目標

・自分で出来ることは、自分でする。・体を使ってよく遊ぶ
・みんなで遊ぶ楽しさを知る。　・自分の思いや感じたことを言葉で伝える。

年間目標　評価・課題

「〇〇しよう」と子ども同士で仲間を集め、ルールを守ったり、新しいルールを作ったりと遊びを発展させるようになる。子ども同士のケンカではまだ大人の仲介が必要な場面もあるが「ごめんね」「ありがとう」が自発的に出たり、子どもが仲介役となり助け合う姿もでるようになった。解決に導くためにはもう少し手助けが必要である。

こあら組（2歳児）の年間目標

・自分のことは自分でしようとする。・周りの人に興味を示し、要求を言葉で伝えようとする。
・遊びに集中し楽しむ。　・全身を使った遊びを楽しむ

年間目標　評価・課題

クラス担任だけでなく、3歳児の担任とも相談しながら、子どもの自立に向けて保育カリキュラムをたてた。また、期ごとの反省の時にも子どもたちの状況に合わせてカリキュラムの見直しをした。個々で多少の差はあるものの自分の身のまわりのことは、ほぼ自立することができた。絵本や物語の世界を遊びに取り入れながら子ども同士だけでイメージを共有し、遊ぶことができるようになった。具体的なイメージが強い分、女児の間ではこだわりが強くケンカになることもみられた。保育者が気持ちをくみとり、仲介となることが必要であった。

うさぎ組（1歳児）の年間目標

・よく食べ、よく眠る。・欲求や要求を行動や覚えた言葉で表そうとする。
・全身を使った遊びを楽しむ。・自分の興味のある物で遊ぶ。

年間目標　評価・課題

ゆるやかな担当制をとり、特に新入園児には同じ保育者が関わることで信頼関係を築いていった。保育者が仲立ちとなり、友だちと関わりを持つようにし、じっくりと一人遊びを楽しむ一方、気の合う友だちと会話を楽しんだり、遊ぶ姿も多く見られるようになる。友だちと関わるなかで順番やルールを繰り返し伝えることにより、友だちを思いやる優しい心を育てるように関わっていった。

ひよこ組（0 歳児）の年間目標

・よく遊び、よく食べ、よく眠り気持ちよく過す。
・発達にあった手足、身体の動きが見られるようになる。
・個々の要求や欲求を表し求めようとする

年間目標　評価・課題

担当制では食事を最も大切にしてきた。食事の時間を通して生理的欲求を満たし、子どもの愛着、信頼関係を築いていった。また、それぞれの担当児を抱え込みすぎてしまわないように空いた時間、担任がそろっている時に一人一人のことを話し、細かい情報から悩んでいることまで伝え合うようにした。保護者とも朝、夕のタイミングをみて日中の様子や連絡事項などを丁寧に伝えることによって保護者の方から家庭状況や悩み、時には愚痴なども話してくれ、それによって子どもたちの心情の変化やその子をとりまく環境まで考慮した関わりをすることもできた。

こぶた組（一時保育）の年間目標

・意欲と主体性を持って共に生きる。
・一日の生活を無理なく、楽しく過す。

年間目標　評価・課題

子どもの気持ちを受け止めるということに重きを置き、安心して園での生活を送れるようにその日の登園メンバーや子どもの状態により、保育内容の変更や時間配分の考慮、関わり方、受け入れスペースの活用などをし、柔軟に対応していった。当日キャンセルにより 10 名の定員に満たなくなってしまう日もある反面、予約がいっぱいで入れないという声もあり、改善すべき点である。

2010 年度実施行事

4 月 1 日 入園式
5 月 8 日 親子遠足（幼児）
6 月 7 日 親子遠足（乳児）
7 月 1 日 プール開き
9 月 10 日 さんまの日
29 日 芋ほり遠足
10 月 9 日 運動会
14 日 イースター礼拝
15 日 ウェルカムパーティー
9・10 日 こどもの日・花の日礼拝訪問
15・16 日 お泊り保育
17 日 おじいちゃん・おばあちゃんと遊ぼう会
22 日 焼き芋大会

11 月 6 日 おまつり広場　　17 日 収穫感謝祭礼拝　　19 日 豚汁パーティー
12 月 18 日 クリスマス礼拝・祝会
1 月 14 日 もちつき会
3 月 2 日 幼児お別れ遠足　　19 日 卒園式　　30 日 進級式
月例行事　誕生会　身体測定　避難訓練

年間行事　評価・課題
行事の目的や内容を見直しながら、実施してきた。反省をもとに次年度は変更する行事もある。

オ　栄養管理

集団給食施設栄養報告　　年 2 回
栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
給食供給者としての諸管理

栄養管理　評価・課題
献立内容をいろいろ見直してきた。季節の素材を積極的に取り入れた。魚の姿煮、そら豆、枝豆、とうもろこしなどの皮むき、野菜の型ぬきなど実際に目で見て、楽しんで食べることを大切にした。幼児クラスは時期に応じてクッキングを行い、作ることの楽しさを味わうことができた

カ　安全管理　毎月 1 日安全点検

交通安全教育
非常災害時の避難訓練（毎月）
引き渡し訓練の実施（9 月 1 日）
環境教育、ゴミ処理を通してリサイクルの大切さを学ぶ（11 月）

安全管理　評価・課題
園内研修で講師による危険予知トレーニングを行う。安全な環境づくりへの意識を高めることができた。

(2) 職員の処遇

ア　職員構成

園　　長	1 名
主任保育士	1 名
保　育　士	16 名
調　理　員	4 名（栄養士含む）
看　護　師	1 名
嘱　託　医	1 名（非常勤）
臨時職員、パート職員	18 名

イ　健康管理

健康診断　　年２回（6 月、11 月）

歯科検診　　年２回（6 月、11 月）

細菌検査　　年 12　回

蟯虫検査　年１回

ウ　職員会議

職員会・毎月１回　　リーダー会・月２回

行事前打合せ会・随時

乳児・幼児・食事カリキュラム・月１回　　乳幼会・月２回

保育のまとめ、振り返り（年２回）

会議　評価・課題
職員会は毎回議題を前もって知らせ、会議が時間内に効率よく行われるように心がけた。また、会議の内容と回数を整理した。 保育の中間まとめでは自己評価チェックリストに基づいて自分の保育を振り返り、グループで話し合う機会を持った。はじめてのことであったが職員には好評であった。

エ　研修計画

・園内研修（6 回）

・法人内研修

・葛飾区子育て支援課・葛飾区私保連・全私保連・厚生労働省・東京都社会福祉協議会
ムジカ音楽教育研究所・キリスト教保育連盟・子どもの文化研究所

研修　評価・課題
キャリア別に研修を組みスキルアップできるようにした。数名は自主研修にも参加。研修報告は十分時間がとれなく、もっと職員みんなで共有できるようにしていくことが課題。次年度は SDS も取り入れていく。

オ　退職・福利厚生

社会福祉・医療機構　退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会　従事者共済会加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ　福利厚生倶楽部加入

2　施設管理

(1) 事務関係

ア　会計事務、管理事務

・小口現金出納事務、・実費徴収事務

・労務管理（出勤管理、有給休暇管理　等）

イ　児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

・保育指導計画等の作成

・給食献立表等の作成

・健康診断記録表等の作成

事務関係　評価・課題
会計、労務管理の事務処理を見直し、適正に処理できるように取り組んだ。軌道にのるにはまだ時間がかかる。 保育指導計画等は法人統一の書式を使う準備をしたが、職員への周知が徹底しなかったことは反省点であり、実際の計画作成指導が次年度の課題である。

(2) 設備関係

ア　固定遊具の設備点検

園庭の固定遊具のメンテナンス

イ　老朽設備の点検、老朽箇所の更新

テラスの柱の腐食は早急に取り掛からなくてはならない修繕として法人本部に業者との話し合いを依頼する。費用分担、工事方法など何度かの話し合い後、決定する。11 月末～12 月にかけて修繕を実施。このことが後の東日本大震災発生時、安全にテラスから避難できることにつながった。 建物が老朽化してきているので修繕箇所も増えてきている。

（3）備品関係

ア　備品購入

イ　保育用品購入

ウ　給食用品購入

エ　固定資産物品購入

備品関係　評価・課題
4・5 歳児おもちゃ棚購入。

(4) 災害対策

ア　避難訓練

毎月 1 回

イ　防災設備の点検委託

年 2 回（内、届け出 1 回）

ウ　非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3 食×（1 日～3 日）分

災害対策　評価・課題
東日本大震災時には毎月の避難訓練通り、園庭に避難することができた。常日頃の訓練の大切さを改めて感じさせられた。 毎年、非常食の入れ替えを行なっているが備品の見直しをしていくことが課題。

3　地域社会との連携

＜れいめい堀切・宝学童保育クラブも加わって事業が行われた＞

(1)　おまつり広場、地域活動、もちつき会、保育ボランティア活動、卒園児学童キャンプ
運動会、卒園式、一時保育登録児クリスマス

地域社会との連携　評価・課題
行事を通して地域や教会の方を招いたり、また、地域の行事にも参加してきた。地域とのつながりもできてきており、これからも大切にしていきたい。一時保育・出前保育など地域活動での在宅子育て家庭への支援が益々重要なものとなってきているが、地域のニーズにどう応えていくかが課題となる。

(2)　小学生事業

～事業の評価と今後の課題～

各プログラム活動は、学童卒所児限定及びボランティア保険に加入という条件で開始したが、月間70名を越す子どもたちが遊びを通してボランティア活動に参加してくれた。また、ウェルカムパーティー・学童児と合同キャンプ・おまつり広場・スポーツ大会と年に数回ではあるが、活動を展開できたのは収穫である。 子どもたちからは、ちょっとした居場所として学童が利用され、保護者からは、居場所があることによって安心すると感謝の言葉を頂いた。 今後としては、学童の保育事業の特別活動として活動を定着していく必要がある。

～体育室活動（設定スポーツの回数、延べ人数、１回平均）～

種目名	回数	延参加者	１回平均
（例）ドッチボール	10	100	10
合計			

(3)　その他の行事（２０１０年度に実施した事業をすべて報告する）

月	行事名	内　　容
５月	ウェルカムパーティー	学童春のお祭り
８月	学童合同サマーキャンプ	宝学童・高学年と合同キャンプ
	ののはな合同ディキャンプ	ののはな（教会員）とのイベント
１０月	ハロウィンパレード	仮装して地域を回る
	黎明保育園　おまつり広場	黎明保育園との合同イベント
１月２２日（土）	鍋＆スポーツパーティー	鍋とスポーツを楽しむ

(4)　野外活動

開催日	活動内容・行き先等	対象者	参加者数
8月3～5日	学童合同サマーキャンプ 千葉県千葉市少年自然の家	4～6年生	**15人**

※活動の評価と課題

学童児と合同ではあったが、4年生～6年生の子どもたちが参加してキャンプを行なうことが出来た。また、学童のキャンプ活動を邪魔することなく、上手な住み分けが出来ていたのは評価できる。次年度も、継続して行っていきたい。

(5)　小学生対象年間イベント

開催日	イベント名	参加者数
５月１５日（土）	ウェルカムパーティー	１０名
８月１９日（土）	野のはな合同ディキャンプ	８名
１１月６日（土）	黎明保育園　おまつり広場	１５名
１月２２日(土)	学童児・卒所児交流プログラム(鍋＆スポーツ大会)	２０名

※活動の評価と課題

＊ウェルカムパーティー：学童の行事に実行委員として参加し、事前準備としてゲーム作りや看板作りを行い、当日は店番や手伝いとして参加した。

黎明保育園おまつり広場：子ども劇場を担当し、劇やダンスを創作し、ゲームブースの担当を担った。

両行事とも、学童や保育園と連携し積極的な関わりを行ない、地域との交流を深めた。

スポーツ大会＆鍋パーティー：単独で行事を行なった。当日は、クッキングをしてウェルピアでスポーツ活動を行なった。

学童で大切にしている子どもたちの思いを尊重した活動が、高学年でも展開することができており、今後も活動を継続していく必要がある。

(6)　中・高校生対象事業

事業の評価と今後の課題

以前から中高生との関わりが弱く、２００８年から職員体制が変わった現在では、活動が積極的になってきた。

遊びを通してボランティア活動を行い、各イベントでは職員の補助を担うなど責任感も芽生えてきた。特におまつり広場では、学童児と協同でダンスを創作し、地域の人たちに披露する事ができたのは評価できる。

今後としては、学年のバランスが悪く中学２年生での活動しか展開できていないので、高学年プログラムの卒業生を待ちつつ、現状を維持していきたい。

③行事など

開催日	活動内容	参加者数
５月１５日（土）	ウェルカムパーティー	４名
１１月６日（土）	れいめいおまつり広場	３名
１月２２日（土）	鍋＆スポーツ大会	２名

(7)　合同イベント

開催日	活動内容	参加者数
５月１５日（土）	ウェルカムパーティー： 『れいめい（宝・堀切）学童と黎明保育園との合同イベント』	３００名
６月２５日（金） ～２６日（土）	学童合宿：『れいめい（宝・堀切）学童合同合宿』	宝３０名 堀５０名

(8)　地域の人のための事業

事業名	活動内容	回数	延参加数
ののはな交流	イースター礼拝	1	30
ののはな交流	子どもの日、花の日礼拝	1	30
ののはな交流	ののはなデイキャンプに参加	1	30
ののはな交流	収穫感謝祭	1	30
ののはな交流	クリスマス礼拝	1	30
堀切京南自治会交流	氷川神社神輿担ぎの宣伝と有志で参加	1	15
堀切京南自治会交流	敬老もちつき会の宣伝と有志で参加	1	5

サマーキャンプでは、れいめい宝、堀切の両学童児、高学年、スタッフ、ボランティアを含めて 120 名程で行なった。特にボランティアに対する指導及び教育に力を入れ、無事にキャンプを終えることができたことは 2010 年度の最大評価である。

4　その他（特記）

指導検査では文書指摘事項があり改善した。また、今後適正な運営を心掛けていく。

学童クラブ事業部門　（れいめい堀切学童保育クラブ）

事業の評価と今後の課題

保育体制が安定していた為、子どもたちの様子やクラブ内の雰囲気はとても落ち着いていた。秋以降は、職員の諸事情（妊娠）により配慮等が必要になり、体制が不安定になったが、子どもたちの目覚しい成長があり、乱れることはなかった。

職員の移動（配置換え）がなく安定した関わりを続けることで、保護者や地域の人たちとの交流が増え、職員が学童と共に地域に受け入れられている雰囲気が感じられる。

今後としては、黎明保育園からの入所する児童が減少しているので、2011年度から入所説明会を設け入所の増加を図る。そして園から学童、各プログラム活動を経て、アルバイトやボランティアとして地域に戻ってくることを願って保育活動を展開していきたい。

クラブ在籍数－学年別、男女別－

学年別	1年生		2年生		3年生		その他		合計	延長保育（実利用者数）
男女別	女	男	女	男	女	男	女	男		
4月	9	13	11	11	8	3	0	1	56	7
5月	9	13	11	11	8	3	0	1	56	7
6月	9	13	11	11	8	3	0	1	56	15
7月	9	13	10	11	8	3	0	1	55	10
8月	9	13	10	11	8	3	0	1	55	7
9月	9	13	10	10	8	3	0	1	54	9
10月	9	13	10	10	8	3	0	1	54	9
11月	9	13	10	10	8	3	0	1	54	9
12月	9	13	10	10	8	3	0	1	54	7
1月	9	13	10	10	8	3	0	1	54	6
2月	9	13	9	10	8	3	0	1	53	6
3月	8	13	9	10	8	3	0	1	52	8
合計	107	156	121	125	96	36	0	12	653	100

事業報告

～日常活動～

（一日保育）8:30登所-9:00勉強タイム-10:00自由タイム-12:00昼食-13:00ビデオタイム・自由遊び-15:00おやつ・掃除・自由遊び（校庭開放）-17:00帰りの会

室内ではままごと・オセロ・ブロック遊び。庭ではドッジ・サッカー・縄跳び。校庭では、一輪車・鬼ごっこなどで遊ぶ。

～延長保育～

18:00～19:00　室内で宿題やおもちゃ遊びで過ごす。

～おやつ～

フルーツやひと手間加えたものを多く提供し、駄菓子ばかりにならないように配慮した。
手作りおやつでは、季節行事やイベント毎にちなんだおやつを提供した。

～グループ活動・誕生会等～

誕生会（毎月実施）・ゲーム会・手芸タイム・工作・学習などを行う。
生活班グループを作成し、おやつを食べたり、掃除やお祈り当番のグループ活動を行なった。
昼食会を行い、共にクッキングをする等の活動を行なった。

行事・外出

月	行事名	内容
4月	イースター礼拝	ののはな（教会員）とのイベント
5月	ウェルカムパーティー	学童春のお祭り
6月	子どもの日・花の日礼拝	ののはな（教会員）とのイベント
	お泊り合宿	宝学童と合同合宿
7月	警察署による防犯訓練	本田警察署員との訓練
8月	サマーキャンプ	宝学童・高学年と合同キャンプ
	野のはな合同ディキャンプ	ののはな（教会員）とのイベント
9月	氷川神社祭り	地域町会のイベントへの協力
10月	ハロウィンパレード	仮装して地域を回る
11月	収穫感謝礼拝	ののはな（教会員）とのイベント
12月	クリスマス会	学童のクリスマス会
2月	お別れ合宿	3年生限定のお別れ合宿

その他の活動－個人面談、保護者会、他

4月入所式　5月保護者会　7月キャンプ説明会　10月個人面談　2月新入所児面接
3月新入所児説明会・卒所式　10月保育園運動会に参加　11月保育園おまつり広場に参加
2月卒所児を対象に鍋＆スポーツ大会を実施（20名ほど参加）

学童クラブ事業部門　（れいめい宝学童保育クラブ）

事業の評価と今後の課題

今年度は年間を通して入所と退所の変動が激しく、また障碍を持つ児童の受け入れ増加で職員体制も変化した。在所児童の特徴も多種多様で、4名の障碍児、私立小学校から通う児童、外国籍の児童、アレルギーを持つ児童など保護者も含めて様々な支援、対応を必要とした。職員の専門性や知識の向上が今後の課題である。活動の様子としては昨年からの集団遊びが浸透した影響からか、自由遊びでも集団が形成され、まとまっている様子が見られた。今後の発展としては、子ども集団のなかで上級生のリーダー性が芽生えるような促しが必要である。イベントや活動プログラムで取り入れていきたい。

クラブ在籍数ー学年別、男女別ー

学年別	1年生		2年生		3年生		その他		合計	延長保育
男女別	女	男	女	男	女	男	女	男		
4月	2	7	4	5	4	3	1	0	26	6
5月	2	8	4	5	4	3	1	0	27	4
6月	2	7	4	5	3	3	1	0	25	4
7月	2	7	4	5	3	3	1	0	25	4
8月	2	7	4	5	3	3	1	0	25	4
9月	3	6	4	5	3	3	1	0	25	4
10月	3	6	4	5	3	3	1	0	25	2
11月	3	7	4	5	3	3	1	0	26	5
12月	3	7	4	5	3	3	1	0	26	6
1月	3	7	4	5	3	3	1	0	26	5
2月	3	7	5	5	3	3	1	0	27	6
3月	3	7	5	5	3	3	1	0	27	4
合計	31	83	50	60	38	36	12	0	310	54

事業報告

～日常活動～

＜一日保育＞8:30登所　9:00学習タイム　10:00自由遊び　12:00昼食　13:00昼食後のんびりタイム　14:00自由遊び（公園や季節の活動）
16:00おやつ　16:30掃除　17:00帰りの会　（学校終了後から同様に保育）

～延長保育～

18:00～19:00　室内で宿題やおもちゃ遊びで過ごす。

～おやつ～

16:00（複数の学校の為、登所時間を考え遅めのおやつ） 手作りのおやつを提供し、様々な食に触れる機会を増やした。また、アレルギー児を配慮した手作りおやつを提供し、学童全体で共有できるきっかけとした。

～グループ活動・誕生日会等～

グループ活動・・・掃除当番、食前・食後のお祈り、帰りの会の挨拶当番 誕生日会・・・人数が少ないこともあり、それぞれの誕生日に誕生会を実施。誕生日の児童に関する問題を出す『お友達クイズ』を行なった。

行事・外出

月日	行事名	内容
5 月 15 日	ウェルカムパーティー	新しい入所児、保護者を受け入れるパーティー
6 月 25・26 日	お泊り合宿	夕食作り、お楽しみ会（スポーツ大会）
8月4，5，6日	キャンプ	千葉市少年自然の家 田んぼあそび、ナイトハイク、ハイキング、キャンプファイヤー、制作
10 月 1 日	上千葉砂原公園遠足	雨天の為、学童のプレイルームにてゲーム会を実施。
10 月 27 日	ハロウィンパーティー	仮装しお世話になっている地域の方々の所を訪問
12 月 18 日	クリスマス会	会食、学童児の出し物発表
3 月 25 日	お別れ遠足	お台場遠足を予定していたが、東日本大震災の影響により中止。

その他の活動－個人面談、保護者会、他

＊保護者関連　・5 月保護者会・7 月キャンプ説明会・10 月個人面談・2 月新入所児面接・3 月新入所説明会 ＊その他活動　・毎月集団遊びの実施・10 月黎明保育園運動会参加・11 月黎明保育園おまつりひろば参加・1 月卒所児対象のイベント

社会福祉法人　雲柱社　高根学園保育所　２０１０（平成２２）年度　事業報告

記入者（施設長）
土　屋　恵　子

2010 年度をふりかえって　～事業の内容と展開～

２歳児保育の要望に応えるため、１クラス増やし２クラスで対応をした。経済的には、部屋の改修費やロッカー・オルガン等の費用を要したが、低月年齢と高月齢で分けることができ、子ども達が安定しスタートから順調な保育ができた。

また、子ども達が、集団生活を通じて社会性をはぐくむ為、様々な活動を展開した。具体的には、お茶のお点前を２０年間継続実施した。礼儀を学び人を思いやることができるようにとスタートしたが、効果が十分あり定着した事業となった。また、元保護者であるネイティブスピーカーの協力を得て英語で遊んだりする機会を昨年に引き続き実施した。小さいクラスほどネイティブに近い発音ができ、身の回りのことや歌を英語で表現して楽しんでいる。

子育て支援センター事業では、地域関係施設との連携を密にして、積極的の出ていく保育を行った。地域に大変好評で来年度は、新たな地区でも出前保育を計画している。

これらの仕事をしていく為に最も基本となる「神と人とに仕える仕事をする」ため、御殿場教会中島牧師を招いて、賀川豊彦の思想実践（キリスト精神）を学習した。

１．２歳児クラスを１クラス増設し、２クラスとした。
　（一時預かりの部屋を２歳児のクラスにする為改修）
２．一時預かり事業は、集団保育の利点を生かす為、各クラスにて対応した。延３００名利用した。
３．子育て支援センターでは、地域の連携を密にして、月２回積極的に出前保育を行った。
　また、食事体験は好評で口コミで広がり、利用者が２倍以上に増加した。
４．様々な文化に親しむ為、お茶のお点前を引き続き実施した。４０分間継続してお点前をすることもでき、相手を思いやる実践活動として効果を上げた。また「英語で遊ぼう」は、日本語は一切使わないですべて英語で行っているが、大変保護者からも好評である。また、体操教室では、子ども達の運動能力が向上し、自由遊びで鉄棒・縄跳びを楽しんでいる。また、小さいクラスの子もよい影響を受け、進んで挑戦する姿が見られる。
５．御殿場教会中島牧師を月２回招いて、勉強会等を実施し、「神と人とに仕える仕事をする」為、賀川豊彦の思想実践（キリスト精神）を学んだ。

１　施設運営

（１）実施事業

ア　特別保育等

・産休明け保育実施　２名
・延長保育実施（１時間延長）年間延べ５８９名利用
・乳幼児保育事業（零歳児の受入れ）

・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
・一時預かり事業

イ　地域子育て推進
・地域子育て支援拠点事業（センター型）
・育児講座　年１２回実施　１７５名参加
・お年寄りとの交流　年４回実施
・退所児童との交流　年２回実施
・小中高生の育児体験受入れ　年間受入れ延べ１１２名
・育児相談　随時実施
・保育所体験　年６回、３２人受入れ実施
・子育てサークル支援　１才児クラブ１４回（２１６名）、２才児クラブ１４回（２７０名）
・子育て情報誌の発行　年１２回発行
・外国人児童受入れ（１人）
・出前保育（サロンを含む）２４回

（２）児童の処遇
ア　クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ちゅうりっぷ	０歳	2	6		途中入所があった為、
たんぽぽ	１歳	3	15		年齢区分による人数と
ひまわり	２歳	4	24		保育士数が異なる
もも	３歳	2	22		
すみれ	４歳	1	26		
ゆり	５歳	2	30		
	その他	5			子育て支援3、一時預かり2
合　　計		19	123		

イ　月別保育日数

４月	５月	６月	７月	８月	９月	
２５	２３	２５	２６	２６	２４	合　計
10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	２９３日
２５	２４	２３	２３	２３	２６	

ウ　健康管理

健康診断

乳児　　年２回（　５月、　１０月）

幼児　　年２回（　５月、　１０月）

歯科検診　　年１回（　５月）

蟯虫卵検査　　年１回（　５月）

エ　保　　育

各組の保育目標

ゆり組（５歳児）の年間目標

①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。

②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。

③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。

④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。

・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。

・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。

⑤・自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標　評価・課題

鉄棒、とび箱、縄跳びやドッチボール、フルーツバスケット等の集団あそびは様々な遊具や用具を使い、体を動かし喜んで挑戦できた。その中で自分の意見や思いを相手に伝え、相手の意見を聞き入れながら協力し合う子どもも増えていった。友達との関わりの中で自己表現する喜びを共感していけた。クラスで問題があった時などは子ども達の意見を大切にしながら話し合いをした。健康安全についての意味を伝え、確認していく事で自ら行動ができるようになった。

すみれ組（４歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。

②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。

・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。

③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。

④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。

⑤・自然や身近な事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする

年間目標　評価・課題

できるだけ一人ひとりの言葉をよく聞いて、気持ちを受けとめるようにしていった。言葉で伝え合うことの大切さには、特に重点を置くようにした。自分の気持ちを伝えてくれる子が増えた。意欲的に体を動かすには、保育者のはたらきかけも大切なのだという事を感じた。体を動かす時間を決めて、できるように保育者が日常の中で工夫していきたい。基本的な生活習慣、手を洗う、うがいをする、持ち物を片付ける、持ち帰る、上着をかける、などは、保育者の丁寧な声かけが必要だった。

もも組（３歳児）の年間目標

①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
②・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
③・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に基本的な習慣が身につくようにする。
④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標　評価・課題

戸外での活動を多くしていくことで、身体を動かす楽しさや集団遊びの楽しさを感じることができた。基本的な生活習慣が身につくよう、一つ一つゆっくりと進めていき、難しい部分は援助していくことで自信へつなげていくことができた。ごっこ遊びでは、もう少し子どもたちの興味に寄り添ったものを用意し楽しむことができれば良かった。

ひまわり組（２歳児）の年間目標

①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
②・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりと楽しむ。
⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたて、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標　評価・課題

低月齢クラス：一人ひとりの成長に合わせ生活していくことで、徐々に身の回りのことが自分で出来るよう援助していった。ごっこ遊びや会話の中では、子ども達の話に耳を傾け保育士が仲立ちをして、友だち同士の会話や言葉のやりとりが広げられるようにしていった。戸外では、散歩や集団あそびを通して、自然に触れたり友だちと体を動かして遊び楽しさを感じられるようにした。

高月齢クラス：一人ひとりひ優しく話し掛けたり、子ども達からの声を丁寧に受けとめていくように心掛けていった。また個人差を把握し、子ども達のやってみようという意欲を

大切に、時間がかかってもじっくり寄り添い、見守り援助していった。できることが増えていく喜びをその都度一緒に喜んでいった。活発に遊ぶようになり、子ども達同士のかかわりも増えてくるようになるにつれて、様々なごっこ遊び、集団遊びを取り入れ、思い切り体を動かし、楽しんでいくことができた。月齢や興味に合わせ、玩具の入れ替えをもっと工夫できたらよかった。

たんぽぽ組（１歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。

②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。

③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。

④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。

⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標　評価・課題

全ての目標を基盤として、まずは保育士との信頼関係を築けるようにし、安心して生活・活動ができるようにしていった。また、身のまわりの自然への関心を高め、触れていけるよう戸外での遊びや散歩へ出掛ける機会をつくっていった。月齢が高く、体力もあったので、体を動かして遊んでいったが、室内遊びでは、椅子に座ったりして落ち着いて遊ぶ時間が少なかったように感じる。集中して取り組める活動や玩具をもっと用意できればよかった。

ちゅうりっぷ組（０歳児）の年間目標

①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。

②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。

③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。

・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。

・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れさせ幼児食への移行を図る。

④・優しく語りかけたり、発音や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる。

⑤・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。

・安心できる人的物的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触ったりす

る機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標　評価・課題
前年度の反省をふまえ、月齢と家庭生活、個々のペースを考え、一人ひとりに合わせていくことができた。玩具に関しては、静と動を分け、可動遊具で体をたくさん動かし、バランスをとる事と、つまむ、入れる、ひっぱるなどの指先遊びを充実させることができた。

2010 年度実施行事

４月　３日 入園式
５月１３日 春の親子遠足　１７日 さつまの苗さし
６月１０日 花の日の礼拝と訪問　２３日 花火教室
６月３０日、７月１日　保育参観
８月　３日 卒園生のつどい
９月１８日 運動会　２９日 秋の遠足
１０月２７日 芋掘り･焼芋大会
１１月　８日 球根植え　１１日 幼児祝福式　２５日 収穫感謝祭
１２月　１日 もちつき　１８日 クリスマス会　２１日 イブ礼拝
１月１１日 雪あそび
２月１２日 お茶会　１７日 観劇
３月　３日 ふれあいピクニック　１９日 卒園式
月例行事　誕生会

年間行事　評価・課題
親子遠足については、今まで春に全体で一回行っていたが、今年度は春と秋に分けて実施した。（春は３歳以上児、秋は未満児）年齢に合わせた場所を選択することができ、保護者にも好評だった。地域に参加した行事（消防出初式、交通教室）を地元のケーブル放送で一週間発信することができ、地域へのＰＲができた。

オ　栄養管理

集団給食施設栄養報告　　年１回
給食供給者としての諸管理

栄養管理　評価・課題
監査で、保存食用冷凍庫の温度が高くマイナス２０℃以下になっていないので、設置場所、機器の能力等検討し、マイナス２０℃以下とすることと指導を受けたので、機能を満たす保存食用冷凍庫を購入し、専用の温度計で管理している。

カ　安全管理

交通安全教育（　６月１７日、１０月２２日、２月７日）交通指導員による「子どもの安全教室」
非常災害時の避難訓練（　１１月４日）
引き渡し訓練の実施（　１１月４日）

安全管理　評価・課題

災害時に備えて毎月１回御殿場市地域防災無線通信訓練を行っている。東日本大地震の際は、電話が使えなかったが地域防災無線により情報を交信することができた。停電の為、保護者への一斉メールが不可能だったので、今後に備えて自家発電装置の購入を検討している。（今回の地震の時には保護者会長の自家発電装置をお借りして対応できた。）
交通指導員による「子どもの安全教室」を年３回開き、交通事故の防止に努めた。また、地域の「高根防犯まちづくりの会」に加入し、のぼり旗を立てたり、登降園時に巡視し近隣の方々と声かけをし、連絡を密にした。

（２）職員の処遇

ア　職員構成

園　　長	１名
主任保育士	１名
保　育　士	１９名（パート４名含む）
栄　養　士	２名
調　理　員	１名
事　務　員	１名
嘱　託　医	２名（非常勤）

イ　健康管理

健康診断　　年　１回（　１１月と２月に分かれて）
細菌検査　　年２４回
　調理師、保育士　毎月２回

ウ　職員会議

定例会　　毎月　１回
期別反省会（年　２回）

会議　評価・課題

会議に先立ち牧師からの言葉をいただき、会議を開いた。この為、職員が何を大切にしていくべきかが理解でき、積極的な意見が出やすくなってきている。

エ　研修計画

・園内研修
・法人内研修
・保育団体研修（県保育所連合会、市保育の会等　その他研修）

研修　評価・課題
御殿場教会の中島善子牧師を招いて、聖書の学びを行った。「神中心という事」このテーマで聖書の学びを行った。全ての研修参加者は研修レポートを提出して、それを全職員に回し職員に伝達研修ができた。保育団体研修にも積極的に参加し、資質を高め共有化を図った。

オ　退職・福利厚生

独立行政法人福祉医療機構　退職共済制度加入

静岡県社会福祉協議会　従事者共済会加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ　福利厚生倶楽部加入

２　施設管理

（１）事務関係

ア　会計事務、管理事務

・小口現金出納事務、・実費徴収事務

・労務管理（出勤管理、有給休暇管理　等）

イ　児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

・保育指導計画等の作成

・健康診断記録表等の作成

・保育要録の作成

事務関係　評価・課題
特に問題はなかった。

（２）設備関係

ア　固定遊具の設備点検

イ　老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係　評価・課題
特に問題はなかった。

（３）備品関係

ア　備品購入

木製ロッカー2 台	140,000	

白木棚（背板付）２台	52,800	
本立て２台	60,000	
はき替えベンチ２台	41,000	
オルガン耐震器具セット	21,800	
対面式避難車１台	97,177	

イ　保育用品購入

オルガン１台	82,800	

ウ　給食用品購入

ｽﾃﾝﾚｽ折りたたみワゴン１台	90,000	
ホットプレート（子育て用）	10,000	

エ　固定資産物品購入

保存食用冷凍庫（専用温度計付）	132,510	社団法人御殿場愛郷報徳社の寄付
食品庫（特注キャビネット）２台	390,100	共同募金寄付金269,000円、自己資金90,100円

備品関係　評価・課題 検収の結果、すべて問題がなかった。

（４）災害対策

ア　避難訓練

毎月１回

イ　防災設備の点検委託

年２回（内、届け出１回）

ウ　非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×３食×（１日～３日）分

災害対策　評価・課題 ツナ缶、乾パン、140名×3食×1日分　　飲料水２日分

３　地域社会との連携

地域社会との連携　評価・課題

周辺小学校とお便りなどの情報を交換し合い、交流を図った。また、子育て支援センターでは、地域福祉団体と連携し、出前保育や地域子育てサロンを実施した。

社会福祉法人　雲柱社　墨田区押上保育園　2010（平成22）年度　事業報告

記入者　松長とも子

2010年度をふりかえって

○ 民営化２年目の大事な年ではあったが、園長の松長が介護休暇となった為、主任が園長代理となって３ヶ月業務を遂行した。幸いに職員は大幅な入れ替えもなく、一人は持ち上がりのクラス編成を行ったので混乱も少なく、子どもや保護者の方とのつながりを強める事ができた。

○ 保育内容に関しては、今まで行われてきた保育を踏襲することを基本に置きながら、乳児の保育は集団を少数にして子どもたちが長い間「待つ」ことがないような動きに変えていき、幼児の保育は子ども達の意見を多くとりいれた行事内容にしていくなど保育の見直しを図りながら行った。また、昨年同様、行事の変更や保育内容に関しての変更も保護者からの同意を得てから行うようにした。中には、反対のご意見も頂いたが、書面や直接お話を通しご理解を得て行なった。

○ 区が入札した業者による「第三者評価」を受審した。また区の「モニタリング」としては、検証シートの項目に沿って行った。アンケートの結果は概ね良い評価をいただいたが課題も多い。安全対策の点では「心配だ」と答えた人が多かったので、オートロック解除の時間を考えていく必要がある。また、引き続き職員の人間関係力や対人援助力を向上させる努力が求められている。

○ また、法人がおこなったモラルサーベイのアンケートを通して、利用者への要望に答えて行こうとする強い気持と同時に、職場への不満も多く出された。経験者の多い保育集団であり、その経験が保護者の安心に繋がっているところもあるが、保育観の違いの壁も大きく、クラスを超えた横のつながりが持てずちょっとしたことも声を掛け合えないことにその原因があるようだ。共通認識に立つプロセスを今後充分にしていく必要がある。

○ 今年度から、4時間延長保育を始めた。開始にあたり、プロジェクトを立ち上げ準備をし延長担当として専任を定めて望んだが4時間申請者は１名のみだった。

○ 法人研修の「環境を考える」と言うテーマを担当園として１年間取り組んだ。クラスごとに考えたことを全職員で話し合いを重ねて日々の保育に活かしていくことが出来た。

1　施設運営

（1）実施事業

ア　特別保育等

・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
・産休明け保育実施
・延長保育実施（４時間延長）
・延長保育事業（零歳児の受入れ）
・障がい児保育事業実施（その他：２名）
・アレルギー児に対する除去食実施

イ　地域子育て推進

・退所児童との交流　年１回実施
・育児相談　随時実施

・外国人児童受入れ

・年末保育　12/29～12/30 実施

(2) 児童の処遇

ア　クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障がい児数	備考
いるか組	0 歳	4 名	9 名		
りす組	1 歳	4 名	14 名		
うさぎ組	2 歳	4 名	18 名		
こあら組	3 歳	2 名	20 名		
ぱんだ組	4 歳	2 名	20 名		
らいおん組	5 歳	2 名	20 名		
ぺんぎん組	0～5歳まで	1 名	4 名定員		
合　　計		19 名	101＋4		

イ　月別保育日数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
25 日	23 日	26 日	26 日	26 日	24 日	合　計
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	295 日
25 日	25 日	23 日	23 日	23 日	26 日	

ウ　健康管理

健康診断

乳児（0 歳児）　　毎月　3 回

幼児　　年 2 回（6 月、10 月）

歯科検診　　年 2 回（5 月、 2 月）

蟯虫卵検査　　年 2 回（6 月、11 月）

エ　保　　育

各組の保育目標

らいおん組（5 歳児）の年間目標

何にでも自分から意欲を持ち、最後まで頑張れるたくましい身体と心を持つ子ども

仲間の中で、協力してできたことをみんなで喜びあえる集団やお互いに尊重しあったり、時には、失敗を許しあえる関係を育てる。

・基本的な生活習慣の自立を目指し、見通しを持っていきいきと生活する。

・集団の中で自己主張をし、人の立場を考えながら行動できる。

・集団生活や遊びを通して、協力しあう大切さを知り、仲間意識を深める。

年間目標　評価・課題
保護者からの要望や期待の大きいクラスだったが、廃材を工夫して製作に取り組んだり、歌うことがとても好きな子ども達の姿があったり、クラスのカラーをうまく引き出し子ども達が１人ひとり個性豊かに過ごしていた。子ども達が生活を自分でできるように、製作物を入れるカゴを設置した。遊具棚の配置換えをしたり、午睡後の布団を子ども達がしまえるように押入れの場所を変更したりして、子ども達の自発的な活動を促した。

ぱんだ組（4 歳児）の年間目標

基本的な生活習慣を身につける

自分の気持ちを言葉で表現し、相手の気持ちにも気づいていく

集団遊びを楽しみ仲間関係を広げていく

いろいろな経験をする中で、期待を持ち楽しく生活する

年間目標　評価・課題
年長組との部屋が離れているので、意識しながら、自然に子ども達が行き来できるようにしたことによって、昨年よりは他クラスへの出入りが行われている。クラスカレンダーを作り、こどもたちが行事などへも積極的にまた見通しを持って参加する姿も見られた。

こあら組（3 歳児）の年間目標

基本的な生活の仕方が分かり、自分からしようとする。

自分の要求や思ったことを相手に言葉で伝えられるようにする。

友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知り、共感できる関係を作っていく。

手指や身体全体をたくさん使って、色々な遊びを楽しむ。

年間目標　評価・課題
部屋の中で興味が持続できるように環境を整えた。遊びとしては手作り遊具の積み木やおままごとコーナーが充実してきてよく遊び込めていた。また、筆を使って絵を描き一人ひとりがのびのびと表現している。子ども達のけんかについて、親から数回苦情を受ける。傷をつけた子の親へは伝えているのかと言う事に関しての苦情であった。保護者同士の関係を取り持つ園の援助力が問われた。

うさぎ組　すみれ組（2 歳児）の年間目標

生活習慣が身についていく。

いろいろな経験を通して、自分の思いや要求を言葉で伝えようとする。

保育士や友だちと楽しく遊ぶ。

身体を使った遊びを十分に楽しみながら丈夫な身体作りをしていく。

年間目標　評価・課題

部屋づたいにトイレが設置されてない為、トイレの誘導の問題があったが、今年度はスムーズに行われた。子ども達が落ち着いて生活できるためには、大人のチームワークがまず第一であるので担任同士充分話し合い動きを決め、声を掛け合って行った。。遊具棚を購入し、子ども達が出来るだけ自分で選んで遊べるように遊びの環境を整えた。シールやカゴを用意し片付けも子ども達がしやすいようにしたことによって、子ども達が片付ける習慣が身についてきた。

りす組（1歳児）の年間目標

食事、排泄、睡眠、衣類の着脱などの活動を通し、自分でやろうとする。
歩行が安定し、身体を十分に動かして遊ぶことを楽しむ
ひとり遊びを楽しむ
身近なものに興味を持ち、探索活動を十分に楽しむ
保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、言葉のやり取りを楽しむ
色々な思いや要求を言葉や態度で表現しようとする

年間目標　評価・課題

新入児を 5 名加えてスタート。4 名の担任の役割分担がうまく機能して行く為に何度も話し合いを持った。低月令、高月令の２グループに分かれちょっとの時差をつけて、食事やおやつを取るようにしたところ、とても落ち着いて生活ができた。また、遊具棚を購入し遊びのコーナーを分けて設置したことによってトラブルも減った。

いるか組（0歳児）の年間目標

・よく寝て、よく食べ、よく飲み、機嫌良くすごす
・快、不快や、要求を泣いたり、声を出して表現し、また心地よさを知る
・意欲的に生き生きと遊ぶ
・大人や友達との関わりを喜ぶ
・見る、聞く、触れるなどの外界の刺激しっかりと受け止める
・発達の道筋にそって体を動かすことを喜ぶ

年間目標　評価・課題

産休明けコーナー担当と高月齢児担当者が、ゆるやかな担当制にして保育を進め、部屋の使用も子ども達の成長に応じて換えていった。
調乳室が部屋続きに設置されている為、離乳食やミルクづくり冷凍母乳解凍をするなど栄養士が 1 名離乳食担当者として配属しチームワークを強めているが、この体制を 6 月までとして、その後は調理室で行うことにした。良さとしては、調理室のスタッフ全員が協力体制を取りやすいことであるが、マイナスとしては子どもや親との関係がとり難くなるという点である。

2010 年度実施行事

4 月　1 日　　進級　入園おめでとうの会

5月　　保護者会（1日毎に各クラス）
6月18日　蟯虫検査
6月24日　プール開き
8月27日　プールおさめ
9月　9日　おじいちゃんおばあちゃん会
10月　9日　運動会
10月22日　バス遠足（5歳児、4歳児）
12月　1日　お楽しみ会
12月17日　餅つき会
12月29日　年末保育
12月30日　年末保育
1月27日　ごっこ遊び
2月　　保護者会（1日ごとに各クラス）
3月　4日　3歳児さよなら遠足
3月11日　就学お祝い会
3月14日　4歳児さよなら遠足
3月15日　5歳児さよなら遠足
3月23日　忘れないでねの会
3月31日　お別れ会
月例行事　誕生会

年間行事　評価・課題

基本的にはいままでの行事を踏襲をした。１年間の反省をしっかり踏まえておこなったので大きな混乱はなかった。しかし、運動会は雨天となり、体育館での運動会だったが参加者全員の一体感がもてた。就学祝い会の日の午後に大震災が起り、大事な行事は終了していたことは良かったが、保護者の方が予定していた祝う会は４月２日までのばしておこなった。さよなら遠足は中止とした。毎月の誕生会を乳児クラスも合同で行い、職員が出し物をして楽しい会を持つようになった。

オ　栄養管理

集団給食施設栄養報告　　年４回
栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
年間クッキング保育を作成
給食供給者としての諸管理

栄養管理　評価・課題

・　アレルギー児の除去食対応で間違いがないように調理と保育との連絡を密に行った。
・　区が食育の見直しを行い、クッキングを取り入れる方針を提示してきたので、お米とぎ

やクッキーづくりなどレパートリーを増やし行なった。

カ　安全管理

交通安全教育（6 月、9 月）

非常災害時の避難訓練（9 月 1 日）

引き渡し訓練の実施（9 月 1 日）

安全管理　評価・課題

・交通課の指導を受け春と秋の 2 回、交通安全の指導を受けた。

・環境安全マニュアルに基づいて定期的に点検をしている。

・年 1 回行う引き取り訓練も 2 年目なので、昨年より多い保護者の参加があった。大震災当日は、長い時間地震が起こり、余震も幾度となく繰り替えし揺れがきたがそのたびに職員が落ち着いて子ども達の安全について対応した。いつもの避難訓練が生かされたと思われる。しかし、親への連絡が付かず、心配なさった保護者の方も多くいたので連絡の機能を強化していかなければいけないと痛感した。

(2) 職員の処遇

ア　職員構成

園　　長	1 名
主任保育士	1 名
副主任保育士	1 名
保　育　士	22 名
調　理　員	3 名（栄養士含む）
看　護　師	1 名
嘱　託　医	2 名（非常勤）
臨時職員、パート職員	26 名

イ　健康管理

健康診断　　年　1　回

細菌検査　　年 1～2 回

全職員毎月 1 回

ウ　職員会議

定例会　　毎月　1 回

昼礼　　毎日　1 回

行事前打合せ会（随時）

０歳児、乳児、幼児、食事等各カリキュラム会議（月 1 回）

期別反省会（年 2 回）

会議　評価・課題

毎日昼礼をおこなった。構成メンバーは各クラス１名、その他の専門職１名、その他出られる者とした。怪我はもちろんだが伝え忘れや、親からの苦情も出し合い早急な対応に努めた。子ども達の喫食状況は昼礼の時間で確認できたが、クッキングや献立確認がなかなか出来なかったので調理との打ち合わせの会議を来年度は取るようにしたい。

エ　研修計画（研修費用）

・園内研修　　年５回

・法人内研修

・保育団　　全国私立保育連盟研修参加　　なし

墨田区保育協会主催の研修（年５回）約２万円

東社協の研修

区の研修

研修　評価・課題

・園内研での話し合いを大事にした。

・外部研修としては墨田区の研修に参加したが、中には民営化の問題点など居心地の悪い研修は少しづつ改善されているようだ。

・緊急保育集会に６名が出席でき、保育の状況を知る機会を得た。

オ　退職・福利厚生

社会福祉・医療機構　退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会　従事者共済会加入

株式会社リラックス・コミュニケーションズ　福利厚生倶楽部加入

2　施設管理

（1）事務関係

ア　会計事務、管理事務

・小口現金出納事務

・実費徴収事務

・労務管理（出勤管理、有給休暇管理等）

イ　児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

・保育課程の作成

・保育指導計画等の作成

・健康診断記録表等の作成

・保育要録の作成

事務関係　評価・課題

・「第三者評価」を受審、また区による「モニタリング」をうけた。職員の（自己）評価票を加えることになった。

(2) 設備関係

ア　固定遊具の設備点検

なし

イ　老朽設備の点検、老朽箇所の更新

・　床研磨（階段部分のみ）

設備関係　評価・課

床がささくれていて裸足保育では危険があると判断し昨年度に引き続き床研磨の工事をした。

(3) 備品関係

ア　備品購入

・　１歳用遊具棚
・　２歳用遊具棚
・　デジカメ１台
・　掛け時計

イ　保育用品購入

・　各クラス用遊具

ウ　給食用品購入

・　食器補充

エ　固定資産物品購入

・

備品関係　評価・課題

区との備品取り決めとして、現在使用している備品が故障したり壊れた場合は、区の担当者が購入か修理かの判断することになっている。ただし 3 万円以下のものは、法人が対応することになる。洗濯機や掃除機が次々と動かなくなり、区に報告し購入していただいた。

(4) 災害対策

ア　避難訓練

毎月１回

イ　防災設備の点検委託

年２回（内、届け出１回）

ウ　非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3 食×（1 日～3 日）分

エ　防犯訓練　　年３回

災害対策　評価・課題
非常食糧の備蓄を追加する。特に水を追加した。 地震後、建物の点検をした。建物は特に問題がなかったがテラスのタイルに亀裂があった。

3　地域社会との連携

・東駒形教会との連携

・同法人児童館との連携

地域社会との連携　評価・課題
東駒形教会関連施設として年に一回開催している合同研修に職員の半数が参加。地域の施設との良い交流の時となった。

社会福祉法人　雲柱社　小金井市福祉共同作業所（平成２２年）２０１０年度　事業報告

記入者（所長）網　野　一　也

１．総括

・ 今年度は、利用者 18 名（定員 19 名）からのスタートとなった。9 月に新しい利用者が、1 名加わり利用者は、19 名（定員）となるが、11 月に特例子会社への就職決まる。研修期間が、終了するまでは籍を置くこととし、3 月末で退所となった。
・ 予想通り、不況の影響により作業受注量が落ち込んだ。利用者の工賃安定を図るため、多少難易度のあがる新たな作業を受注した。グループかがわの他の事業所とも協力し、受託作業を行った。
・ 今年の猛暑は、清掃班にとってかなりの重労働となった。休憩を何回もとる。十分水分を補充するなどの対策をとったが、体調を崩す利用者が多くみられた。そのことを考慮し、効率よく作業し清掃時間を短縮するための器具を取り入れた。風呂清掃では、風呂清掃時の転倒防止のため、折りたたみ式のコーンを購入。滑りやすい個所に設置し安全対策を強化した。
・ 今年度も一泊旅行では、利用者の安全のため、観光バスを使用した。
・ 利用者の排泄介助・新型インフルエンザ・ノロウイルスへの対応等において、利用者・職員の手洗い、消毒を徹底し安全面・健康面に配慮した。
・ 利用者の加齢にともない成人病などの疾病を持つ方も多くなってきているため、日々の健康への配慮や医療機関に通院しているかの確認等を家庭と取り合うよう努めた。
・ 地震発生時の避難については、日頃の訓練通りに並び、職員の誘導に従い速やかに避難することができた。作業所は、3 月 14 日のみ午前までの開所にしたが、それ以降は、計画停電時も通常通り開所している。計画停電時は、小金井市より貸与された大型の懐中電灯 5 台を使用し、安全面に一層の配慮をした。

２．施設運営

（１）実施事業

作業内容

受託作業：福祉会館内清掃・福祉会館風呂清掃・小金井市凧制作・割り箸袋入れ・説明書折ケース組み立て・付録袋詰め・パッキン袋の製作作業・箸しゃもじセット入れ

（２）利用者の支援

利用者現員　１８名

支援方針

・明るく、楽しい作業所の雰囲気を大切にし、毎日の職員会で作業面・生活面ともに個別の援助内容を考え継続的に支援した。
・意欲的・安定的に作業へ取り組めるよう作業配置、作業内容を提案し環境及び作業備品を整えた。
・利用者の自主性を重んじ、行事の企画から話し合い、支援した。

健康管理

１２月　６日　　健康診断　小金井市障がい者検診

１月１３日　　内科検診　嘱託医

主な行事

４月　６日　　花見会（２．６万円）

６月　４日　　日帰り旅行（９．５万円）
１０月２２日・２３日　一泊旅行（２７．４万円）
１２月２４日　　クリスマス会（５．５万円）
２月２３日　　慰労会（４．０万円）

（３）職員の処遇

職員構成

所　長	１名
主任支援員	１名
支援員	２名（正規職員）
支援員	２名（週３日パート職員）
支援員	１名（障がい者雇用職員）
嘱託医	１名
相談員	１名

健康管理

健康診断　　年１回

会議

法人全体集会	３月２６日予定を延期
ＧＫ全体職員会	７月１７日・１２月１１日
成人部門全体会議	６月２６日・２月１２日
運営会・成人部門会議（所長、主任）	月１回
職員会議	月１回（ケース会議含む）
ショートミーティング	毎　日

研修

法人内研修　法人外研修

３．施設管理

（１）設備関係

・特になし

（２）備品関係

・地上デジタルテレビを購入した。
・加湿器を補うために冬場の乾燥を緩和する用具をとりいれた。

（３）災害対策

・避難訓練…福祉会館全体避難訓練　３月１６日
　　小金井市福祉共同作業所内避難訓練　年６回
・非常食糧の備蓄

４．地域社会との連携

・福祉会館まつりに参加し、陶芸品の販売を行う。
・福祉会館利用者が主催する会に参加し、合唱・踊り・お茶会などで交流した。
・障がい者週間では、例年通り利用者がポスターを描き、ＣＯＣＯバス、市内の公共施設へ展示された。
・東京都立多摩科学技術高校より高校生６名の実習生を受け入れた。

社会福祉法人　雲柱社　賀川学園　２０１０（平成２２）年度　事業報告

記入者（施設長）
中　村　悠　子

○　さくらの木との協力関係を強化したことで、週１日通園クラスの受け入れ枠を確保できた。
○　保護者への情報提供として、「ほけんだより」を月１回、定期的に発行する取り組みを始めた。
○　家族が参加できる機会を提供することを模索し、平日以外の参観を検討したが、週１日通園クラスとの兼ね合いもあり、今年度は参観日程を早めに周知し、家族が参加しやすいように配慮した。
○　家族支援を充実させるため、週１日通園クラスの保護者会を実施した。
○　愛の園保育園との交流は、園庭遊び、焼き芋・餅つきへの参加を行った。
○　非常勤職員の勤務時間を見直し、以前よりも打ち合わせがしやすい設定とした。
○　日常業務との兼ね合いから、他の施設への見学を調整することが難しかったが、一部実施できた。
○　教材費・光熱水費の節約に努めるための手がかりとして、過去の使用状況を一覧にまとめた。
○　3 月に発生した東日本大震災後も、給食の提供を含め、可能な限り療育の機会を提供できるよう、勤務体制や役割分担を工夫した。

1　施設運営

（1）事業実績

・集団保育と個別学習　　年間療育日 276 日、延べ利用者数 7,577 人
・外来相談（入園待機児）　　年間実施日 31 日、延べ利用者数 74 人
・きょうだいの会　　月１回実施
・卒園生のアフターケア　　必要に応じて引き継ぎ、学校見学を実施

（2）児童の処遇

ア　クラス編成（定員 35 名）

・週５日通園クラス　３クラス（27 名）
・週４日通園クラス　１クラス（6 名）
・週１日通園クラス　７クラス（33 名）

イ　健康管理（週 4/5 日通園クラス）

・内科検診　　年２回（4 月、10 月）
・身体測定（身長・体重）　毎月
・身体測定（頭囲・胸囲）　年２回（4 月、10 月）
・歯科検診　　年１回（11 月）
・蟯虫卵検査　　年１回（5 月）

ウ　主な行事（週 4/5 日通園クラス）

4 月　入園式	5 月　春合宿	6 月　お楽しみ会	9 月　運動会
10 月　遠足	12 月　クリスマス会	2 月　スケート体験	3 月　卒園式

エ　栄養管理

・給食会議を職員会議内で毎月実施し、園児の様子や指導員の意見を献立や配膳に反映させるよう努めた。

オ　安全管理

・看護師による定期的な遊具の安全チェックを行った。

（3）職員の処遇

ア　職員構成

園　　長（常　勤）　　1 名　　※他事業所との兼務
主任指導員（常　勤）　　1 名　　※運転手と兼務
児童指導員・保育士（常　勤）　　11 名

調　理　員（常　勤）　　1名　　※他事業所との兼務
事　務　員（常　勤）　　3名　　※他事業所との兼務
看　護　師（パート）　　1名
児童指導員・保育士（パート）　　4名
調　理　員（パート）　　5名　　※他事業所との兼務
事　務　員（パート）　　1名　　※他事業所との兼務
※この他、嘱託医1名及びスーパーバイザー3名（心理・作業療法士）を業務委託。
※今後の事業展開を考え、臨床心理士1名を業務委託。

イ　健康管理
・健康診断　　年1回（7～10月）
・細菌検査　　調理員のみ毎月1回

ウ　職員会議
・グループかがわ全体職員会（年3回）
・児童部門会議（年5回）
・児童部門職員会議（年2回）
・定例職員会議、リーダー会議（各月1回）
・ケース会議　（年10回）
・クラス会議　（基本的に週2回、個別のケース会議を含む）
・報告会（平日療育日に毎回）

エ　職員研修
・法人本部研修（経験年数別）　…延べ9名参加
・かがわブロック研修　…年2回、延べ26名参加
・スーパーバイザーによるカンファレンス…6回、各回10名参加
・外部機関の主催する講習会の参加　…9講座、延べ11名参加
・学校・施設見学　…16ヶ所、延べ18名参加

2　施設管理

（1）設備関係

ア　平成21年度共同募金会配分金により、6月に老朽化のため幼児用組み立てプールを買い替え、日除けシートを設置した。

イ　老朽化と猛暑の影響により、エアコンが作動しなくなり、急遽保育室と調理室の買い替えを行った。

（2）災害対策

ア　6月に地震対策として園内の家具を確認し、転倒防止の器具を取り付けた。

イ　園庭の水捌けを改善するため、ダスト舗装工事を行った。

ウ　災害時に備え、避難訓練を毎月1回実施するとともに、保護者への引渡し訓練を 8 月～9月に実施した。また隣接する愛の園保育園・かがわ工房との合同総合避難訓練を10月に実施した。

エ　防災設備の点検を委託により年2回実施（内、消防署への届け出1回）、非常時食糧の確認を園の防火管理者が実施した。

オ　3 月に発生した東日本大震災に関連して、停電時の施設設備の動作確認、保護者との連絡方法の確認、保護者へ水筒持参の依頼、避難用品の補充、情報収集のためのテレビの増設、など対応した。

3　地域社会との連携

（1）実習生やボランティアを積極的に受け入れ、障がい児やその家族の理解者を増やし、福祉に関心を持つ人材を育成するよう努力した。

（2）グループかがわ後援会主催のバザー（11月）に職員・保護者が協力し、近隣住民や地域の事業者との交流を図った。

（3）都立小金井特別支援学校の運営連絡協議会委員と小金井地域ケア連絡会世話役を受諾し、地域の関係機関との協力や情報交換を行なった。

社会福祉法人雲柱社　かがわサポートセンター・ウイングス　2010（平成 22）年度事業報告

記入者（センター長）　　石原　久枝

総　括

利用者は現在 70 名が契約をしている。児童が 41 名で成人が 29 名。その中で行動援護は 14 名。体の成長に伴い、小学校高学年や中高生の支援困難ケースが増加傾向だが、ウイングスと小金井生活実習所の兼務が週 4：1 の割合になったことにより、以前より手厚い支援ができるようになった。反面、シフトの関係上、職員ヘルパー同士が顔を合わせる日が少なく、連携が難しいと思わせられる一面もあった。ヘルパー数は 2011 年 3 月現在実働 15 名（男性 4 名：女性 11 名）で、2 名を除きほとんどが近隣の大学生。今年になって近隣のボランティアサークル（国分寺子どもクラブ）から口コミで登録ヘルパーが増え、6 月の雲柱社ガイヘル研修からも 2 名ヘルパーが登録した。ただし、利用者の 9 割近くが男性にもかかわらずヘルパーは女性の方が多く、支援の配置が難しいため、新規ヘルパー獲得はまだ課題としては残っている（ガイドヘルパー養成研修は 2011 年度二回開催予定）。

１　施設運営

（１）実施事業

①知的障害児･者　居宅介護事業

②知的障害児･者　移動支援事業（各市町村の地域生活支援事業）

③その他有料の預かり事業

※ウイングス利用の８０％以上は②の移動支援事業

（２）利用者の処遇

ア　利用者数

総利用者数７０名

【利用者分布一覧】

市町村名	小金井市	国立市	府中市	小平市	杉並区	日野市	国分寺市	東村山市	武蔵野	多摩市	墨田区	計
人数	25	8	8	13	1	2	8	2	1	1	1	70

イ　利用者支援について

利用者個々の意向の尊重に基づいた余暇充実を目指した。

保護者との連絡は電話やメール等でこまめにとるようにした。かがわ工房、かがわの家、さくらの木所属の利用者が多いため、職員間で細かく連絡をとるよう努力した。

3 月の東日本大震災の後は安全のためしばらく支援を中止した。その後も要望が多かったため支援は再開したものの、活動地域や内容を限定しての活動としている。インフルエンザ流行の時期はマスク着用、手洗いの徹底などを周知した。

安全管理については職員が事業所名義の携帯電話を常に携行し、事務所に職員が不在のときにでも転送されてきた電話やメールにて緊急時に必要な対応が出来るようにした。

活動としては平日の放課後支援や、土曜日、祝日のお出かけや夏休みの預かり企画等を個々の希望に合わせて行なった。

（３）職員の処遇。

小金井生活実習所との兼務で１名職員を配置した。また、課題だった男性ヘルパーも少しずつ増え始め、中高生や成人の支援も以前より増やすことができた。課題としてはヘルパー毎の支援の質にばらつきがあるので、ヘルパー支援マニュアルの整備や研修をすすめ、人材確保と育成に力をいれて今後もさらなる支援体制の拡充、強化をする必要がある。

【ヘルパー数】※2011 年 3 月時点　斜体太字は常勤ヘルパー

	週５回以上支援	週３回以上支援	週１回程度支援	月１～２回程度支援	それ以下の頻度
男性	*1*	*1*	4	*1*	0
女性	0	3	4	4	0

２　施設管理

KAGAWA 館３０１号室を事務所として利用。日常的な利用者の出入りは少ないが、雨天時や屋外での支援困難者などの支援の際に奥の保育室を利用するため、衛生面の管理を徹底した。トイレの水が流れない不具合が発生したので修繕した。

３　地域社会との連携

「居宅ネット」（東京の居宅介護・移動支援事業所の連合組合）との連携を強化し、合宿や総会などにも出席するようにした。

社会福祉法人雲柱社かがわの家　２０１０（平成２２）年度事業報告

記入者　　中　村　悠　子

１．　総括

今年度は寮と日中事業所が協力を図り、地区ごとで連携体制をとって利用者の支援を行った。利用者の状態を把握しやすく、利用者も職員もわかりやすい体制で対応することができた。また、月に一度チームの代表者で会議を行い、寮全体の把握や確認を行った。年末年始の利用は昨年度の１名から２名に増えた。３６５日体制の勤務を整備して対応している。

利用者も少しずつ年齢を重ねてきている。それぞれ生活のペースの見直しをしたり、より健康面に配慮して支援をしていく必要があると感じる。

３月に東北地方で大規模な地震が発生し、備品の備えの見直し、また、避難場所や緊急連絡先の確認等を改めて行い、災害に備えた。今後も緊急な状況を想定して整備を行っていくとともに、職員間で対応の確認をしていく必要があると痛切に感じた。

２．　施設運営

（１）施設体系（２０１１年３月）

施設体系	定員	利用者数
ケアホーム（共同生活介護）	２６名	２６名
グループホーム（共同生活援助）	１名	１名

（２）利用者の支援

・　利用者数（２０１１年３月）

ホーム名	定員	利用者数
シリウス	６名	６名
ミラ	５名	５名
カペラ	５名	５名
ベガ	４名	４名
ジュピター	７名	７名
計	２７名	２７名

・　安定して生活できること、身の回りのことが一人で出来ることを目標に、個別支援計画を作成し、保護者個人面談時に保護者からの同意を得た。
・　職員同士の話し合いの時間を増やし、支援の充実を図った。
・　宿泊行事については全寮で実施するのではなく、各寮ごとで企画し、それぞれのペースや楽しみに応じたものを提供した。余暇活動は誕生日会や外出、外食など、各寮で実施した。
・　利用者の余暇支援や休日利用の対応で、サポートセンターウイングスとの連携を引き続き図ってきた。保護者の方の高齢化に伴い、週末に帰宅する際に利用されるケースも少しずつ増えている。
・　病気の感染を防ぐため、帰寮時の手洗い、うがいを行って予防に努めた。また、朝の

検温を毎日行い、体調管理の把握をしている。その他食事、睡眠などについては、家庭や日中事業所とも連携して様子を把握し、健康管理に留意した。保護者の定期的な通院付き添いが困難な利用者については、職員が付き添って医師と相談、確認を行った。

（３） 職員の処遇

・ 日中の職員や夜間支援専門員、パートを各寮に配置し、宿直の回数を調整した。
・ 職員の健康診断は年１回実施した。
・ 会議は、ＧＫ全体職員会（年３回）、成人部門全体職員会（年２回）、グループかがわ運営会議（月１回）、成人部門運営会議（月１回）、かがわの家地区会議（月１回）を実施した。また、ケース会・行事前打ち合わせは随時実施した。
・ 研修は、勤務体制上全員が参加することがなかなか困難であった。

３． 施設管理

（１） 施設整備

・ KAGAWA 館の老朽化による給排水工事を行った。
・ 2011 年のテレビ地上デジタル化に向けて、総務省にチューナーの無料配布の申請を行い、各寮に設置した。

（２） 設備関係

・ ベガの各居室に鍵を取り付けた。
・ シリウス、ミラの建具の修繕を行った。また、シリウスの洗濯機が故障し、新しい物を購入した。

（３） 災害対策

・ 避難経路や消火器の設置場所を確認し、非常時に対応できるようにした。
・ 消防設備の点検を実施した。
・ 避難訓練の実施を行った。
・ 各寮の服薬の一覧を取りまとめ、災害時に対応できるようにした。

４． 地域社会との連携

・ お祭りや資源回収など、町内会の行事には積極的に参加した。また、町内の会議には定期的に出席し、地域の方に理解を得られるように努めた。
・ 職場への通勤など、近隣とのトラブルにならないように、利用者によっては職員が付き添うなど配慮した。
・ 小金井グループホーム連絡会に参加し、市内の関係機関との連携を深め、情報を取り入れた。

社会福祉法人雲柱社　小金井生活実習所　２０１０（平成２２）年度事業報告

記入者　　中　村　悠　子

１．総括

・平成２２年度は、以前から入所希望を出されていた１名を新たに生活介護事業に迎えてスタートした。年度末の現員は生活介護事業３３名（定員３２名）、就労継続支援事業Ｂ型１２名（定員１０名）でそれぞれ定員を超えているが、一日の平均利用者数は 39,6 人だった。

・短期入所の稼働率は約４８％で前年度の約３０％より稼働率を上げることができた。しかし、地域からの利用希望もあり、今後短期をフルに稼働するための体制整備が急務となっている。

・地域の障がいのある方の雇用の機会を広げるため、障害者雇用を行なった。今まで職員が担ってきた清掃業務を中心に働いてもらうことで、職員の業務内容の分担や効率化を図った。

・ケアホーム設立を考える会では、建設に向けての用地取得を目指したが、建設に適した用地の取得には条件面で折り合わず実現できなかった。今後も保護者の方と近隣でケアホーム建設に適した土地の取得を目指していく。

・３月に発生した東日本大震災では、建物や人的被害はなく避難も落ち着いて行うことができた。避難場所や保護者や家族、関係機関との連絡手段など今後さらに災害対策を進めていく。

２．施設運営

（１）　施設体系（２０１１年3月）

施設体系	定員	利用者数
生活介護事業	３２名	３３名
就労継続支援事業Ｂ型	１０名	１２名
短期入所事業	２床	

（２）　利用者の支援

・利用者本人やご家族の方からの要望を聞き、個別支援計画を作成した。作成した支援計画は半期ごとの見直しを行い、保護者の方に説明し同意を得た。

・生活介護事業では、新たに創作プログラムに講師を招いた。新しい活動内容に取り組むことができ、出来上がった作品を持ち変えると保護者からも大変喜ばれている。

・就労Ｂでは、利用者ミーティングを定期的に開催してきた。主な内容は行事やイベントの内容や希望の確認だが、今後も定期的に開催し、中身をさらに充実させたい。また、自主製品の新たな開発を進めている。

・短期入所は、保護者の急病などで緊急的にお預かりするケースが数件あった。また、保護者の入院に対応するため、年末年始も含め約１ケ月間お預かりするケースもあった。

・保護者会（年２回）、個別面談（年２回）、グループ別参観日（各グループ１回）、保護者学習会（年１回）、クリスマス会コンサートなど保護者の方々と交流を深める場を積極的に開催した。

・クリスマス会に合わせて給食バイキング食を実施し、利用者の方が選択できる機会とした。

・１月に保護者対象の学習会を実施した。講師にはＰＴ相談で実習所に来ていただいている理学療法士の先生にお願いし、「摂食について」をテーマに開催した。学習会終了後に保護者にはアンケートを配布し、今回の内容についての意見・感想と今後のテーマについて意見を伺った。

・第三者評価を受診し結果を活かせるよう職員会やリーダー会で検討を行った。

（３）　健康管理

・利用者の健康に配慮した支援を行うように、看護師とも連携を取りながら毎日の支援にあたった。食事や水分の摂り方、排泄の状況には十分な注意をはらい、必要な人にはチェック表を作成し経過

観察を行なった。
・通院を行っている利用者の通院同行を行い、医療的機関と連携をとり日中の支援に活かせるよう努めた。また、整形外科の嘱託医に相談し、補装具の作成を保護者とともに行なった。
・薬の保持、服用は看護師が管理を行った。
・毎月の内科検診・身体測定、年１回のレントゲン健診・耳鼻科健診、年２回の整形健診（うち１回は震災の影響で中止）を行った。また、１２月と３月には理学療法士による、保護者も含めたＰＴ相談を行った。
（４） 職員の処遇
・職員健康診断を年１回実施した。
・会議は、ミーティング（朝）と報告会（夕）を毎日実施。その他の会議は、グループ別ミーティング（それぞれのグループで毎月１回）、リーダー会（毎月１回）、職員会議（毎月１回）、GK 全体職員会（年２回）、成人部門全体職員会（年２回）、運営会（毎月１回）、成人部会（毎月１回）を実施した。日中は利用者の方がいるため、会議開催の時間が夕方からになってしまうのが今後の検討課題である。
・外部研修は、「知的障害者の摂食・嚥下とリハビリテーションについて」（東社協）、「ニーズに応える支援とは」（都通研）、「自閉症の人のライフステージによる支援」（全７回自閉症協会）、「行動障害がある方への対応」（東社協）、「てんかん発作対応のコツ」（居宅サービス事業者ネットワーク）、「地域支援セミナー」（日本知的障害福祉協会）、「こうさい療育セミナー」（弘済学園）、他施設見学（１ケ所）に職員が参加した。参加した職員は、職員会議で報告を行ってもらった。

３．施設管理
（１） 施設整備
・東京都による「正面玄関屋根雨漏り修繕・屋上防水シート改修工事」と「受水槽のポンプ更新工事」を行なった。
（２） 設備関係
・空調設備の給湯循環ポンプ交換と冷温水発生機燃焼計部品交換を行なった（約６０万円）
・東京都の移譲から４年が経過した。備品や設備類は継続して使用してきているが、老朽化が目立つ部分や修繕の必要な備品が出てきており、今後の対応が必要となっている。
（３） 災害対策
・毎月１回の避難訓練を行った。避難訓練終了後の報告会では避難径路や避難誘導の対応について職員間で確認を行なった。
・消防設備の点検を実施した。
・東日本大震災を受けて、災害時の対応を再確認し保護者の方にも改めて周知した。また、備蓄品の再点検、再確認を行ない、内容についても中長期的な計画を立ててさらに充実させることにした。
・窓ガラスの飛散防止シートの張り付けを行なった。

４．地域社会との連携
・ホールや備品（和太鼓等）の貸し出しを地域の団体へ向けて行った。
・クリスマス会の一部として行なったクリスマスコンサートは、ポスターやチラシを配布し近隣の方にも参加を呼びかけた。
・３月に開催予定だった実習所祭「みのりフェスタ」は、東日本大震災の翌日ということもあり、参加者の安全を考慮し中止にした。

社会福祉法人雲柱社　かがわ工房　2010(平成 22)年度事業報告

記入者：(施設長) 石原　久枝

１．　総括

・職員体制については、成人部門で地区制をとり、工房は貫井北町地区として、ミラ・カペラ・シリウスの 3 寮と兼務体制をとった。職員数が増えたことにより、各作業室で、作業や利用者の状態に応じて、プログラムがたてられるようになった。

・職員のシフトの入れ替わりが日によってあり、人の出入りに敏感になり不安定になる利用者もみられた。支援の統一の為、職員間での連絡・報告・伝達については、パート職員も含めて周知するよう努めた。

・下請作業については、つながりのある業者さんから昨年並みの受注を受けられた。今年は、新規に宅配寿司チェーン店のお食事セット袋詰めを共同作業所と連携して行った。

・自主製品のパン・焼き菓子は、夏場は猛暑のため売れ行きが落ちたが、秋から冬にかけて焼き菓子の注文が増えて、好評を頂いた。

・工賃の支払いは、作業日通所実績の日額制を導入した。

・社会福祉をめぐる法の動きを鑑み、また運営面維持の観点から、新体系移行準備を進め、2011 年 4 月 1 日生活介護事業として新体系移行を果たした。

２．施設運営

（1） 実施事業

ア、受託作業…付録の袋詰め、プラスチック試験管の袋詰め、ダイレクトメールの封入、封筒制作、会報紙の封入、アロマオイル取扱い説明書の折り、チラシ広告組み合わせ、アルミ缶回収事業、ポスティング、宅配寿司お食事セット袋詰め、公園清掃等を行った。かがわブロック間で作業の連携と分業を行なってきた。不況の影響もあるが、つながりのある業者さんから作業を継続して受注できた。

イ、自主製品パンの販売・焼き菓子製造・販売…夏場の猛暑の影響で売れ行きが落ちたが、秋から冬にかけて行事向けの焼き菓子の注文が増えて、好評をいただいた。販路拡大の営業を行い、焼き菓子パンフレットを作成して、近隣の公共機関や学校等営業訪問、連絡等したが注文には至らなかった。小金井市内のタウンショップに販路が得られた。

ウ、リサイクル事業…アルミ缶回収。経済不況の影響が続き、アルミ缶回収額が低額のままで、減収が続いている。

エ、ボランテイィア活動…市からの要望により、公園清掃作業を復活し、月１回実施した。

（2） 利用者支援

ア、利用者数　　定員…25 名　　在籍…２４名

イ、支援方針

・対応困難な利用者の問題があり、職員の配置が大きくとられた。外での見守りや、室内の構造化、時間差の工夫をしたり、ホールや食堂も作業場として利用するなど、一人ひとりにとって落ち着ける場所の確保のために、工房の狭い建物の環境のなかで日々工夫をしてきた。強度行動障害や障がいの重度化に対応した専門性と支援力の向上が求められてきた。
・寮の職員と兼務体制をとったため、シフトの入れ替わりがある。パート職員も含めて一貫した支援方針で継続して対応できるよう、連絡・報告・相談に関しては、記録の整備とともにきめ細かく行った。朝と夕の申し送りミーティングを実施した。

ウ、健康管理

5 月 13 日　内科健診　嘱託医
12 月 6 日　小金井市集団健診
2 月　9 日　2 月 23 日　健康診断　武蔵野三鷹地域センター（10 万 6 千円）

エ、主な行事

5 月 21 日　春の日帰り旅行　秩父ミューズパーク（6 万 8 千円）
10 月 15 日～16 日　秋の一泊旅行　箱根（43 万円）
12 月 24 日　クリスマス会(3 万円)
3 月　5 日　慰労会　宮ヶ瀬園地バーベキュー　(6 万 7 千円)

オ、給食

・利用者の状態に応じて分量の調整や食器の工夫をした。
・季節感や行事を盛り込んだメニューを提供した。

カ、安全管理

・防災訓練　毎月実施（以下の訓練を含む）　・賀川学園との合同訓練（6 月 18 日）
・三施設(愛の園保育園・賀川学園・かがわ工房)合同総合避難訓練（10 月 19 日）
引渡し訓練（8 月 28 日）
・防災設備点検(年 2 回)

（3）職員の処遇

ア、職員の処遇

施設長　…　1 名　リーダー(生活支援員)　…　1 名(常勤兼務)
作業指導員　…　1 名　生活支援員　…5 名（常勤兼務）　10 名(パート職員)
事務員　…　1 名　(兼務・パート職員)
調理員　…　1 名（常勤兼務）　5 名（兼務・パート職員）
嘱託医　…　1 名　相談員　…　1 名

イ、健康診断　年 1 回実施　若年健康診断　生活習慣病予防健診（多摩健康管センター）

ウ、会議　法人全体会　かがわブロック施設長会(月 1 回)
グループかがわ全体職員会　7 月 17 日　12 月 11 日　3 月 26 日

成人部門合同会議　　6月26日　　2月12日
運営会　月１回　(児童･成人･サービス事業所各施設長･主任)
成人部会　月１回　（成人事業所各施設長･主任）　　職員会議　　ケース会議

エ、研修　法人本部研修（経験年数別）…１年目３日間（3名）2年目(1名)
中堅Ⅱ(1名)、　中堅Ⅲ(1名)
かがわブロック研修…講演会2回実施7月17日、12月11日、延べ16名参加
賀川の実践２００８合評会実施7月17日　8名参加
他事業体験研修　2名参加
成人部門研修…　6月26日　　2月12日　延べ16名参加

東京都相談支援従事者初任社研修…２日間　　延べ２名参加
東京都サービス管理責任者研修…3日間　　延べ2名参加

３．　施設管理

（１）　**設備関係**…別館相談室ドア取り付け…126,000円

（２）　**備品関係**…・焼き菓子製造室冷蔵庫修理85,000円　　・ランプ取り付け43500円
ワゴン車整備…32,000円　・結束機修理…18,000円

（３）　**災害対策**…・自衛消防訓練　年６回実施　　・防災設備の点検委託　年2回

４．　地域社会との連携

・町内会へ班長として町内会議に参加。町会祭りに出店し、備品の貸し出し等で協力した。
・パン・焼き菓子の販売店やアルミ缶回収などで近隣の方や各施設、市民との交流を深めた。
・グループかがわ後援会主催バザーで、会場として賀川学園と共に施設開放を行った。
・地域のボランティア希望者を受け入れた。
・特別支援学校実習生、社会福祉援助実習生、介護体験等学生を受け入れた。

社会福祉法人雲柱社　ワークスタジオかがわ

２０１０（平成２２）年度　事業報告

記入者（施設長）

網　野　一　也

○ ２０１１年度、生活介護事業に移行するための諸準備を行った。
○ 利用者１人が８月で退所。
○ １０月１人入所、１１月退所、２月再び入所。現在在籍２５人。
○ 年度当初より常勤職員を１人ふやす。
○ 年度途中で、非常勤職員１人の退職があり、新たに非常勤職員１人を採用する。
○ チラシの組み合わせの仕事がなくなり、その他の仕事の受注も減ったため、新しい仕事の開拓が必要となり、１１月新しい受注先を見つけ、ダイスクッションの作業に取り組むようになる。
○ ８月より、市民農園を借り、農作業を始める。秋には、廿日ネギ、ホウレンソウ、ラディッシュ、小松菜等を収穫する。
○ ９月よりアイロンビーズの製作を始める。
○ 公共下水道工事のため、一時期車両の出入りができなくなり、利用者、送迎者に不自由をかけることになる。
○ 東日本大震災の後は、五日市線の運休や計画停電のため、午後１時までの日が２日、給食を弁当に変えた日が２日、また、３月１８日（金）に予定していた慰労会は中止した。

１　施設運営

（１）実施事業

作業内容…付録の袋詰め、チラシの組み合わせ（６月で終了）ダイスクッションの製作、箸三点セット

自主製品の製造・販売…ポストカード、手焼きせんべい

その他…アルミ缶回収、農作業、施設内外の清掃

（２）利用者の処遇

利用定員…２０人

在　籍　…２５人

処遇方針

・作業と生活面から利用者の状況、課題を検討し、個別の支援計画をたて、支援内容の充実を図る。

健康管理

７月１日　内科検診　　１２月９日　健康診断

・作業前に毎日ラジオ体操

主な行事

５月１４日　日帰り旅行　小峰公園・広徳寺　２０，０００円

９月３０日、１０月１日　一泊旅行群馬・新潟の旅　４８０，０００円

１２月２２日　クリスマス会　キャンドルサービス、ミニコンサート他　２５，０００円

３月１８日　慰労会（中止）１５，０００円（当日の弁当代）

給　　食

・アレルギー肥満など利用者の特性に配慮した食事や行事食など、より楽しく食事ができるよう工夫してきた。

保護者懇談会

２月２５日に実施。

第三者評価

・第三者評価を受け、サービスの向上に努めた。

（３）職員の処遇

職員の構成

施設長１人　作業指導員２人（兼務）　生活支援員５人（兼務）
生活支援員（常勤パート）１人　生活支援員（パート職員）１１人
栄養士１人（パート職員）　調理員４人（パート職員）
事務員１人（兼務）　嘱託医１人　相談員（非常勤）１人

健康管理　健康診断　年１回

会　　議

法人全体集会　１回　　ＧＫ全体職員会　３回
運営会　月１回　　成人部会　月１回　　成人部門全体会　年３回
職員会議　毎月　　ケース会議　３０回

研　　修

＜法人＞新人職員研修　施設長研修　次世代育成プロジェクト
経験年数別研修
＜ブロック内＞全体職員研修　実践報告・合評会
＜外部研修＞秋川流域生活支援ネットワーク　発達協会
東京都福祉保健局　日本臨床発達心理士会
福祉医療機構　福祉人材センター　他

２　施設管理

建物・設備関係

・調理室、作業室Ⅳに扇風機を設置。
・看板を設置。
・内壁、屋外フェンス、玄関ドアの取っ手等、破損個所の修繕。
・初めて業者に依頼して庭木の剪定を実施。
・日本財団の助成を受け、車両（セレナ）１台を購入した。

３　地域社会との連携

・１０月３０日（土）ワークスタジオまつりを開催、地元のお囃子、職員によるミニコンサート等、なお、新聞社に取材を依頼し、新聞にも紹介される。
・町内会名簿に紹介広告を掲載。
・東日本大震災の際、被災施設に非常用飲料水を送る。また、要支援被災者の受け入れ及び職員派遣を申し出る。

社会福祉法人　雲柱社　さくらの木　2010（平成 22）年度　事業報告

記入者（施設長）
中 村　悠 子

1.　総括

平成 24 年の新体系移行を見据え、移行先が定まらない状況ではあるが、利用者のニーズの高いこの事業を継続させていくために、職員の育成と指導枠の維持・増加を図った。また事業支出を抑えることをねらい、業務委託の職員数を前年度より減らし、職員も賀川学園との兼務職員１名を配置して５名で今年度は事業を進めた。さらに事業収入の増加を見込み、指導枠の増加に努めた。

新しい職員や業務委託の指導員も代わったことで、指導への共通理解などを得るために、ケース会議の日程を増やし、引き続き学習会を定期的に取り組んだ。また、今まで取り組んできた学習会資料をまとめることで職員の共通理解がさらに深められ、「Let’s 生活習慣」として利用者へ頒布し、周知に努めた。

建物の老朽化による度重なる修繕や正規職員の雇用などにより年々支出が増大していく傾向が顕著である。現在できることは、今後に備えて収入を増やし支出を減らすことである。しかし収入は限られているため、職員間の経費節減への意識を高め、光熱費の使用削減・消耗品の使用・廃棄について効率的な方法を周知し実践するように努めた。

2. 施設運営

（1）実施事業

通常の個別指導、ペア指導、グループ指導の他に余暇支援としての体験学習を年 4 回、夏にキャンプを実施した。年間の指導日は延べ 211 日、補助金事業対象者の年間延べ利用者数は 3,666 名であった。その他、さくらの木相談室年6回、コミュニケーションブック・レシピ集・指導書 20 冊頒布した。

（2）利用者の支援

自閉的傾向や発達に遅れのある子どもとその家族が、社会の中でより豊かに暮らしていけることを目指して支援を行った。指導内容は主に日常生活における基本的動作及びコミュニケーション手段の獲得、集団生活の適応を目標にひとりひとりの子どもの発達に応じたプログラムを立て取り組んだ。さらに、家庭の中で 1 日を過ごすことが難しい子どもたちや預ける場所がない家族のために、休日や長期休暇中を利用して、ウォーキングなどを実施し、子どもたちに余暇の場を提供した。

ア　利用者年齢構成

	利用者数（名）
幼　児	8
小学生	78
中学生	18
高校生	4
合　計	108

イ　地域別利用者数

	利用者数（名）
小金井市	28
府中市	14
小平市	8
国分寺市	12
国立市	8
日野市	4
東村山市	4
西東京市	2
武蔵野市	4
調布市	3
昭島市	3
その他（青梅市・あきる野市・杉並区・練馬区・目黒区など）	18
合　計	108

ウ　健康管理

利用者の健康状態に留意し、軽い怪我には対応できるような薬を常備した。

（3）職員の処遇

・施設長1名、指導員 5 名、業務委託職員 23 名で指導にあたった。

・職員には年 1 回の健康診断を行い、健康の管理に努めた。

・会議は事業所内の職員会議（原則、週 1 回）を中心に、法人全体集会（年1回）、グループかがわ運営会議（月1回）、児童部門職員会議（年2回）、児童部会（年 6 回）、グループかがわ全体職員会（年 3 回）、ケース会議（月4～6回）行い、運営上の課題、支援の方法等を話し合った。

・研修は法人研修、発達障害に関する専門性向上を目的に、他機関主催の研修に1人年 1 回、学習会（月 1 回）、学校等の関連機関の見学（延べ 27 件）や学校、保育園・幼稚園の職員の見学・相談の受け入れ（延べ 11件）を積極的に実施した。また発達障害に関する書籍を購入し、研鑽に努めた。

3. 施設管理

KAGAWA館の老朽化による給排水管改修工事を行った。

年に 1 回、消防用設備の点検を実施。

4. 地域社会との連携

賀川学園の卒園生の他、小金井市及び近隣市区町村在住者の利用も受け付けている。

発達障害や事業への理解を促進し、近隣との良好な関係を保つため、ボランティアや見学者を積極的に受け入れた。またグループかがわ後援会主催のバザーや自治会に参加するなど、地域住民との交流を図った。